

平成29年度～平成33年度

第2期

いの町地域福祉計画 いの町地域福祉活動計画



支えあ**い**助けあいたい

地域**の**絆

ちからを合わせて

つながりあえる**よう**

みんなでつくって**いこう**よ

いののまち



い の 町

いの町社会福祉協議会



はじめに

近年、若者の流出や少子高齢化による著しい地域社会の変化により、かつての隣近所や集落での助け合い・ふれあい等相互扶助意識や地域での支え合いが薄れているのが現状です。

こうした中で、住民の意識や価値観、行政課題や住民ニーズも多様化・複雑化・高度化しており、行政が提供するサービスだけで全ての問題を解決することは難しくなっています。このことから、住み慣れた地域での自立生活を可能にし、また、社会との交流を進め、一人ひとりが生きがいを持った生活ができるための体制づくりと、住民同士がお互いに“見守り上手・見守られ上手”になり、そこに生活する人を地域で支えられるような地域力の向上が求められています。

このたび、第1期計画の計画期間が終了することから、地域福祉の取り組みを更に進めるべく、第2期計画を策定いたしました。また、第1期計画に引き続き、いの町社会福祉協議会と共通の目的を持ち地域福祉を推進していくため、地域福祉計画の中に、地域福祉活動計画の内容を盛り込み、一体的な計画といたしました。

これまでの取り組みを踏まえ、計画を更に推進していくため、第2期計画では、「一人暮らしになっても“一人ぼっちを感じず、いの町にずっと住みたい、住んでよかった”と思える町づくりを目指します。」を基本理念とし、「地域の相談機能・支え合いの強化」、「拠点型つどいの充実」、「みんなで進める小地域福祉」、「小地域福祉推進のコーディネート機能の充実」を計画の4つの柱に設定しています。

今後は、本計画を、町民の皆さまと一体となって推進してまいりますので、今後ご理解とご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、本計画策定にあたり、多大なるご尽力を賜りましたいの町地域福祉計画策定委員会委員をはじめ関係者の皆さま、アンケート調査や地域座談会で貴重なご意見をいただきました町民の皆様に心からお礼を申し上げます。

平成29年3月

いの町長 池田 牧子



地域福祉活動計画策定にあたって

町民の皆様がたには平素より、いの町社会福祉協議会の諸事業並びに業務の推進に、それぞれのお立場から、温かいご理解とご支援・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

早いもので、平成24年3月の「いの町地域福祉計画・地域福祉活動計画」策定から5年の歳月が経過し、この間、社会環境は目まぐるしく変化しました。特に策定の前年、平成23年3月の「東日本大震災」や、まだ記憶に新しいところの「熊本地震」以降、地域におけるつながりやコミュニティの重要性が改めて確認され、地域で孤立を防ぐ取り組みへの期待が高まっています。

一方では、少子高齢化の進行や核家族化といった生活様式の変化、これに不安定な経済情勢と長期化する雇用をめぐる厳しい社会情勢も加わり、経済的困窮や低所得の問題、孤立死や自殺、虐待、いじめ、DVや引きこもりなど、周囲からは見えにくい社会的孤立や社会的排除により支援を要する方々の増加など、多くの課題が山積しています。

また、障害者差別解消法の施行や社会福祉法の改正、生活困窮者自立支援法の施行など、社会福祉をとりまく諸制度も大きく変わりました。このような新しい福祉の段階を迎えた時代を背景に、今回の第2期地域福祉活動計画策定にあたり、第1期計画で取り組んだ福祉活動の振り返りのもと、成果、課題の抽出を行いました。そして計画の基盤とすべく、できる限り多くの方々のご意見、ご提言をいただくため、アンケート調査や地域座談会を開催したところです。この計画は地域福祉を総合的に推進するうえで大きな柱となるものです。社会福祉協議会としても、お互いに支え合う心、ともに思いやる心を持って一人ひとりがそれぞれの地域・居場所で役割を分担し合う、そして人と人、地域と地域が融合し合っていくことによって、「いの町」はみんなの町となっていくという想いで、皆様とともに本計画を推進してまいりたいと考えています。

最後になりましたが、貴重なご意見、ご提言を賜りました策定委員の皆様をはじめ、地域座談会やアンケート等に多大なご協力をいただきました住民の皆様に心からお礼を申し上げますとともに、今後一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年3月

社会福祉法人 いの町社会福祉協議会 会長 坂本 實

< 目 次 >

第1章 第2期計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨	・・・1
2 計画の位置づけ	・・・2
3 計画期間	・・・3
4 計画策定の体制	・・・4
5 第1期計画の振り返りと第2期計画策定に向けての課題整理	・・・5

第2章 町の概要

1 人口等の推移	・・・7
----------	------

第3章 計画の基本理念と基本的な考え方

1 基本理念	・・・12
2 計画の基本的な考え方	・・・13

第4章 施策の展開

1 施策の体系	・・・15
2 施策の展開	・・・16

第5章 小地域エリア別の福祉活動の推進

1 小地域エリア別の福祉活動の推進	・・・23
-------------------	-------

第6章 計画の推進体制

1 計画の推進体制	・・・24
2 計画の推進体制図	・・・26

資料編

資料1 いの町地域福祉計画策定委員会設置要綱	・・・28
資料2 いの町地域福祉計画策定委員会委員名簿	・・・29
資料3 ワーキンググループ名簿	・・・30
資料4 計画の策定経過	・・・31
資料5 小地域エリア別の福祉活動の推進（15小地域エリア）	・・・32
資料6 アンケート結果報告	・・・93
資料7 用語解説	・・・95

本編

第1章 第2期計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨

地域福祉とは

地域には、子どもから高齢者、障害のある人や生活に困っている人など、様々な人々が暮らしています。その全ての人々が住み慣れた場所で安心して暮らしていくために、行政や社会福祉協議会、事業者やボランティア団体などのほか、地域の住民自身も自分の地域の中の人々がもつ様々な問題の解決に向けて一緒に取り組むことです。

人々が生活を送る場所としての地域が、そこに住む人々にとって住みやすい場所となるためには、公的な制度（公助）だけでなく、家族を含めた住民自らの活動（自助）や隣近所や地域で活動する団体がお互いに助け合うこと（共助）も合わせて大切になります。これからのまちづくりでは、地域住民一人ひとりが地域社会の一員であるということを認識し、様々な立場の人々が共に協働しながら地域福祉を推進していくことが重要です。

「地域福祉」を進めるための基本的な考え方を示すものとして位置づけられるのが「地域福祉計画」ならびに「地域福祉活動計画」です。

「地域福祉計画」とは

行政が住民とともに、地域の実情に応じて支援の必要な人々が地域の中で生活するうえで解決すべき課題を明らかにするとともに、そのために必要なサービスを提供する**体制を整備すること**を目的とする計画です。

「地域福祉活動計画」とは

社会福祉協議会が中心となってつくる地域内の様々な社会資源と住民や民間の団体が行う活動を結びつけながら、地域の課題解決という地域福祉計画と共通の**目的に取り組む**ための計画です。

この2つの計画は、**ともに住民参加を通じて地域福祉を推進する**という共通の目的をもち、各地域内の生活課題や社会資源の状況、地域福祉の基本理念などを共有したり、地域住民による福祉活動計画への支援策などの内容を共有したりするなど、お互いに連携しながら取り組むことが重要です。

このような考え方に基づいて、いの町では、平成24年3月に「地域福祉計画」の中に活動計画の内容を盛り込みながら、いの町（以下「町」という。）といの町社会福祉協議会（以下「町社協」という。）が一体的に策定しました。

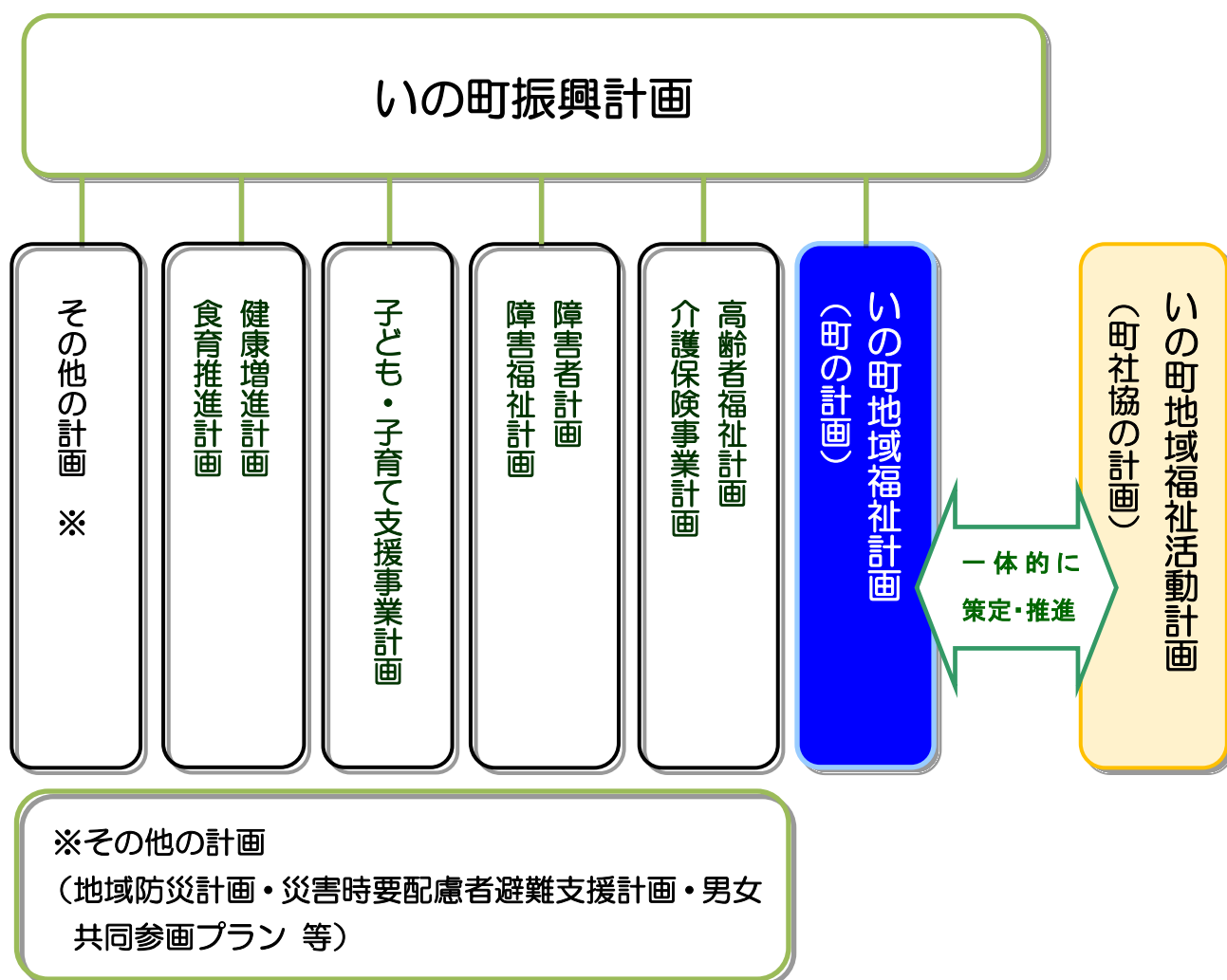
策定後、関係団体とのつながりを大切にしながら、地域福祉に関する取り組みを進めてきた結果、各小地域エリアで開催した「地域出番会議」をきっかけに、住民同士のコミュニケーションの場や住民主体の地域行事の開催等につながった地域がありました。

その一方で、少子高齢化や核家族化の進行、地域での人間関係の希薄化など、地域のつながりが弱まりつつある中で、孤立した高齢者、障害者、子どもたちに対する虐待、ひきこもりなど深刻な問題が起こっています。

これらの状況の中で、地域住民自らが、行政、関係団体等とお互いに協働しながら、地域に存在する課題を解決するための活動に積極的に参加し、地域福祉計画・地域福祉活動計画の取り組みを推進していくため、第2期のいの町地域福祉計画・いの町地域福祉活動計画を策定します。

2 計画の位置づけ

本計画は、社会福祉法第 107 条に基づき策定するもので、町における地域福祉を推進するための施策展開の基本となるものです。また、本計画は、いの町第2次振興計画における基本構想、基本計画と整合性のある計画とし、他の関連する計画と調和をとりながら地域住民及び福祉関係諸団体と町とが地域課題に取り組み、地域住民が中心となった支え合いをひろげて温かみのある町づくりの実現をめざして策定します。



3 計画期間

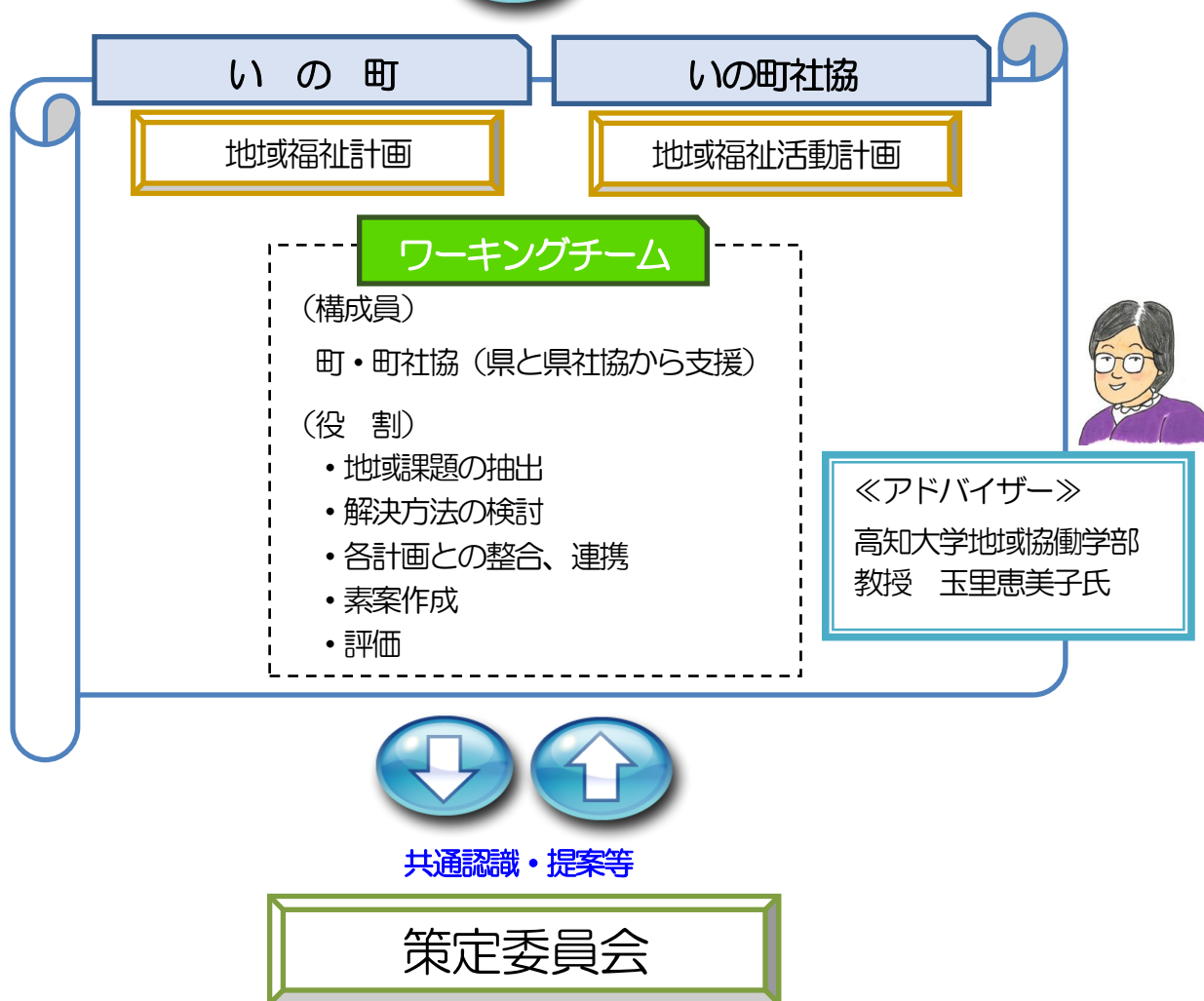
いの町地域福祉計画・いの町地域福祉活動計画（以下「町地域福祉（活動）計画」という。）は、平成 29（2017）年度から平成 33（2021）年度までの 5 年間を計画期間とします。なお、社会動向の変化や計画の進捗状況に対応して、計画の見直しを行います。

表 分野別計画の計画期間

	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	H30 2018	H31 2019	H32 2020	H33 2021	H34 2022	H35 2023
第 2 期いの町地域福祉計画・地域福祉活動計画										
	第 1 期				第 2 期					
いの町第 2 次振興計画										
いの町高齢者福祉計画・第 6 期介護保険事業計画										
第 2 期いの町障害者計画										
いの町第 4 期障害福祉計画										
いの町子ども・子育て支援事業計画										
第 2 期いの町健康増進計画 いの町食育推進計画										

いの町地域福祉計画・いの町地域福祉活動計画 策定体制図

地域出番会議・地域座談会・住民アンケート（区長、民生委員・児童委員、母子保健推進員、小学校1年生～3年生の保護者等）



＜構成員＞ 学識経験者・地域関係者・社会福祉に関する活動を行う者・行政関係者

＜検討内容＞ 地域福祉の課題・解決への方策・計画の評価

町では、第1期（平成24年3月）に5年期間での計画を立て、それに基づき地域福祉の推進に取り組んできました。

地域の相談機能を高める

相談機能を高めるため、妊婦から高齢者まで切れ目のない支援に取り組んできましたが、どうしてもなくなってからの相談もあり、困っても相談できない現状があります。窓口の周知や関係機関との連携などによる相談機能の強化が必要です。

平成24年度から地域福祉の拠点づくりを進めるために、町社協へあったかふれあいセンター事業を委託し、「集い・学び」「訪問活動」「生活支援・地域支援」「担い手育成」「相談・つなぎ」を中心に拠点づくりを行いました。平成25年には、吾北地区でサテライトを2か所（高岩・清水）開始し、今では住民から「開催頻度を増やしてほしい」と声が上がるようになりました。今後も、地域ごとの実情に応じて、地域福祉の拠点「あったかふれあいセンター」を活かした、地域住民の活動を充実させていく必要があります。

地域に密着した「拠点型つどい」事業を全地区で確保する

平成25年度から元気“イキイキ”ボランティア講座を実施し、地域のボランティア活動推進のきっかけと人材育成を進め、全小地域エリアで拠点型つどいが確保されました。また、拠点型つどいによる横断的な結びつきを強めるため「お世話役交流会」を毎年開催してきました。しかし、地域によっては、高齢化による参加者の減少や担い手不足のため活動の休止や廃止になることもあり、現状を確保していくことの難しさもあります。第1期からの課題である「後継者・担い手不足」に対し、今後も「後継者・担い手を増やす」ための取り組みが必要です。

地域出番会議を作り「地域支え合いプラン」を作成する

15小地域エリアのうち13小地域エリアで地域出番会議を開催し、12小地域エリアで「地域支え合いプラン」が作成されました。地域出番会議を通して、改めて地域の現状や課題を再認識し、今後更に住みやすい地域にしていくためには何が必要なのかを、住民や町、町社協が一体となって話し合うことができました。その一方で、地域出番会議の開催ができていないところや、地域支え合いプランの作成に至っていないところもあります。今後は、それぞれの地域の実情に応じた取り組みを進めるため、地域住民が参画し取り組みや活動を検討することが必要です。

小地域福祉推進のコーディネート機能の充実を図る

町社協は、各種団体の事務局をはじめ、地域福祉を推進するための各種事業を行うとともに、地域出番会議の企画や開催、地域支え合いプランの作成支援、地域関係者との連絡調整に取り組みました。しかし、町社協の目的や意義、活動内容について、住民に十分周知できていない地域もあることから、今後は、より一層積極的に地域に出向き、地域の方や関係する様々な機関の方との関係性を築いていく必要があります。

その他

町は、地域による災害時要配慮者支援体制づくりを進めるために、平成24年度からいの町災害時要配慮者支援の「実施の手引き」を作成し、自主防災組織、区長、民生委員・児童委員（以下「民生委員」という。）などを対象に毎年説明会を行い、災害時要配慮者避難支援計画（個別計画）を通じて要配慮者の日頃の見守りや避難支援の確立を目指し、地域住民が主体の取り組みも進めてきました。現在、その取り組みは各地域へ広がりを見せており、今後は全地区へと展開できる取り組みが必要です。

第1期計画の事業進捗と分析を行った結果、以下のような課題が見つかりました。

柱1：地域の相談機能を高める

○ニーズ・課題の早期発見・解決に向け、更なる相談窓口の充実と相談場所の周知が必要。

○地域福祉の拠点として、あったかふれあいセンター・サテライトの更なる充実とニーズに応じた事業の展開や新拠点の設置等の検討が必要。

柱2：地域に密着した「拠点型つどい」事業を全地区で確保する

○地域に密着した「拠点型つどい」事業は全小地域エリアでは確保できているが、現状確保が難しい地域の課題解決や、お世話役の高齢化などで休止する団体もあるため、人材発掘・育成が必要。

柱3：地域出番会議を作り「地域支え合いプラン」を作成する

○地域出番会議を開催し、「地域支え合いプラン」の作成に取り組んできたが、地域により差があるため、地域の実情に合った話し合いの場や取り組みが必要。

柱4：小地域福祉推進のコーディネート機能の充実を図る

○町社協の活動の認知度が低い地域があったり、町社協と関わりが少なかったりという人も少なくないため、より一層広報活動や地域に出向き地域との関係性を築いていくことが必要。

第2章 町の概要

1 人口等の推移

1 人口及び世帯等の推移

高知県の人口が減少していく中で、町の人口と世帯数も年々減少しています。特に人口は、中山間地域の吾北地区や本川地区の平成23年度から平成27年度を比較すると、吾北地区、本川地区とも約1割人口が減少しています。世帯数は、伊野地区では大きな変化はみられませんが、吾北地区や本川地区では年々減少しています。このまま人口が減少していくと、地域での社会的共同生活の維持が困難になる集落が増加してくることが想定されます。

また、人口を4つの階層別にみると、総人口が年々減少していく中で65歳～74歳の人口は、平成23年度から平成27年度までを比較すると約2割近く人口が増加しています。それとは相対的に、0歳～14歳、15歳～64歳の人口は年々減少しており、町も少子高齢化が進んでいます。

今後、若者や高齢者の交流やつながりを図るとともに、地域を担っていく若い世代を巻き込んでいけるような地域での取り組みが重要です。

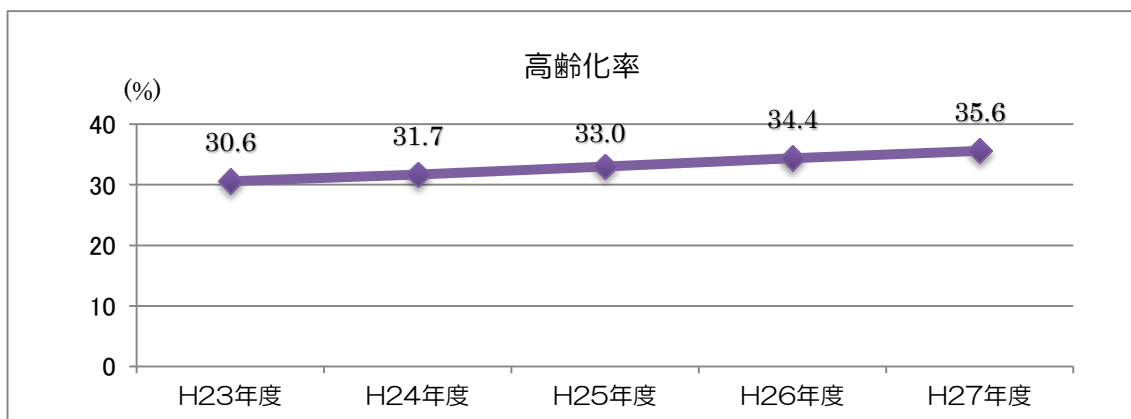
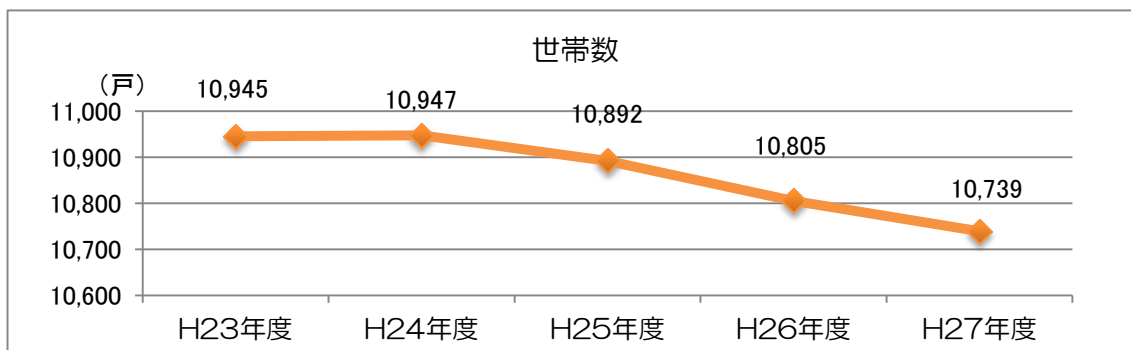
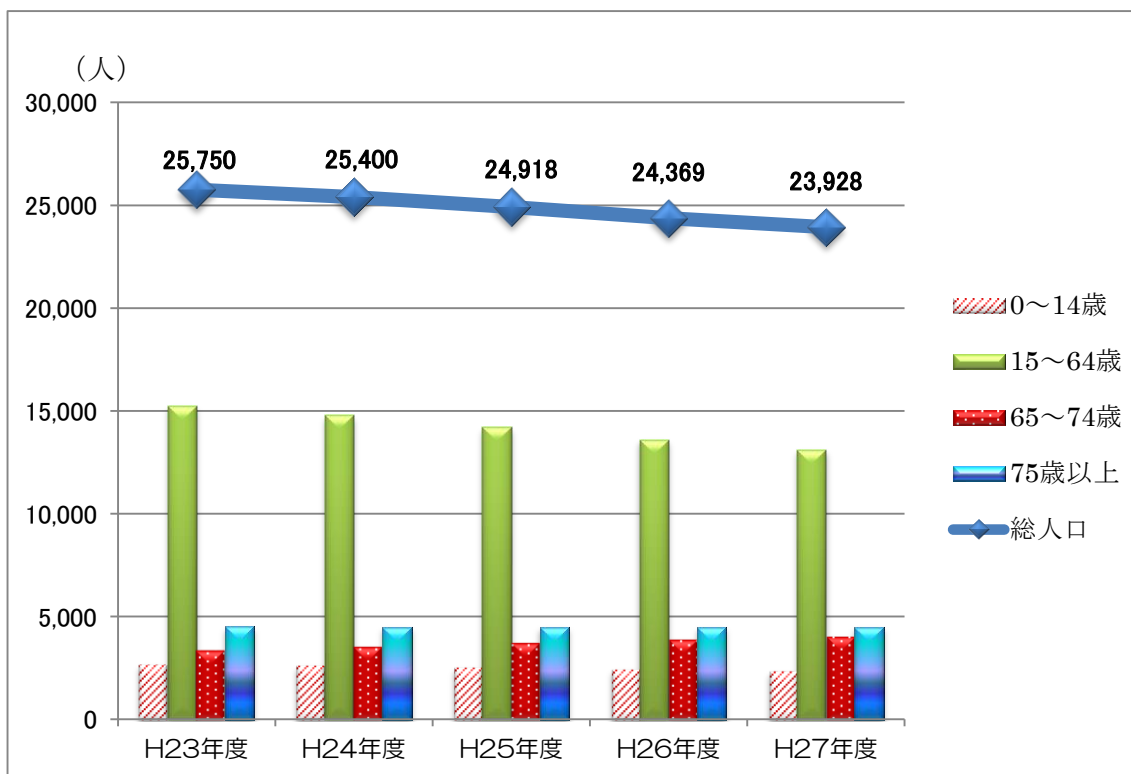
人口・世帯・高齢化率の推移

(町全体)

各年度末現在 住民基本台帳人口より

年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
総人口(人)	25,750	25,400	24,918	24,369	23,928
0～14歳(人)	2,634	2,595	2,488	2,406	2,328
15～64歳(人)	15,237	14,766	14,205	13,576	13,091
65～74歳(人)	3,359	3,537	3,732	3,888	4,015
75歳以上(人)	4,520	4,502	4,493	4,499	4,494
総世帯数(戸)	10,945	10,947	10,892	10,805	10,739
高齢化率(%)	30.6	31.7	33.0	34.4	35.6

人口・世帯の推移



各地区の人口・世帯・高齢化率の推移

(伊野地区)

各年度末現在 住民基本台帳人口より

年度	H 23 年度	H 24 年度	H 25 年度	H 26 年度	H 27 年度
総 人 口 (人)	22,375	22,105	21,784	21,337	20,980
0 ～ 1 4 歳 (人)	2,390	2,351	2,266	2,210	2,130
1 5 ～ 6 4 歳 (人)	13,687	13,281	12,842	12,283	11,868
6 5 ～ 7 4 歳 (人)	2,815	3,003	3,208	3,364	3,484
7 5 歳 以 上 (人)	3,483	3,470	3,468	3,480	3,498
総 世 帯 数 (戸)	9,315	9,318	9,314	9,257	9,217
高 齢 化 率 (%)	28.1	29.3	30.6	32.1	33.3

(吾北地区)

各年度末現在 住民基本台帳人口より

年度	H 23 年度	H 24 年度	H 25 年度	H 26 年度	H 27 年度
総 人 口 (人)	2,806	2,713	2,600	2,513	2,448
0 ～ 1 4 歳 (人)	200	193	181	160	158
1 5 ～ 6 4 歳 (人)	1,313	1,239	1,142	1,085	1,037
6 5 ～ 7 4 歳 (人)	455	444	442	441	448
7 5 歳 以 上 (人)	838	837	835	827	805
総 世 帯 数 (戸)	1,323	1,303	1,274	1,249	1,229
高 齢 化 率 (%)	46.1	47.2	49.1	50.5	51.2

(本川地区)

各年度末現在 住民基本台帳人口より

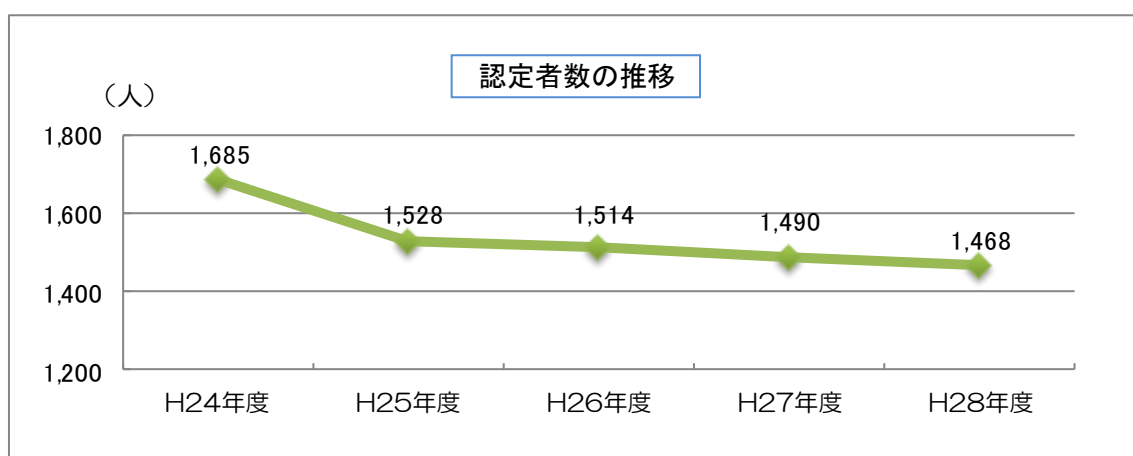
年度	H 23 年度	H 24 年度	H 25 年度	H 26 年度	H 27 年度
総 人 口 (人)	569	582	534	519	500
0 ～ 1 4 歳 (人)	44	51	41	36	40
1 5 ～ 6 4 歳 (人)	237	246	221	208	186
6 5 ～ 7 4 歳 (人)	89	90	82	83	83
7 5 歳 以 上 (人)	199	195	190	192	191
総 世 帯 数 (戸)	307	326	304	299	293
高 齢 化 率 (%)	50.6	49.0	50.9	53.0	54.8

2 要介護（要支援）認定者

要支援、要介護認定者数は、総合相談の窓口で相談があったときに、介護保険制度の目的や趣旨の説明をより丁寧に実施し、その対象者のニーズを明確に把握すること等で、平成24年10月の1,685人から平成28年10月の1,468人へと減少し、その減少率は12.9%となっています。しかし高齢化が進む中で、今後も介護予防の重要性は高まると考えられ、介護予防の普及や啓発の取り組みが今後必要です。

要介護（要支援）認定者数

（各年度10月末現在 単位：人）



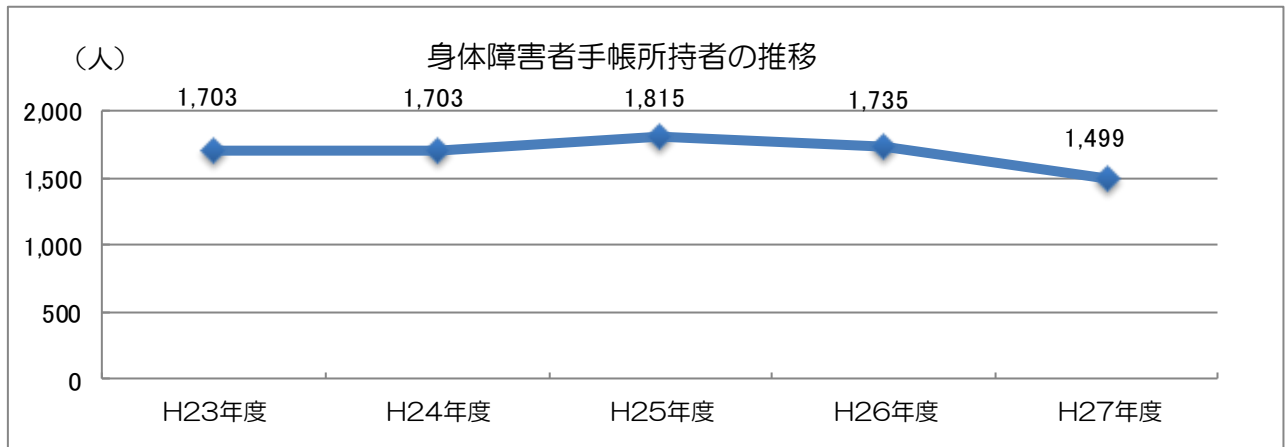
3 障害のある人

身体障害者手帳所持者及び療育手帳所持者は、多少の増減はあるものの大きな変動はなく、精神障害者保健福祉手帳所持者は増加傾向にあります。

これらの現状をふまえ、今後も住民一人ひとりが障害に対し理解と認識を深めていくとともに、互いに交流できる環境づくりや地域社会の中で安心して生活ができるように相談体制や活動機会の充実をさせていく必要があります。

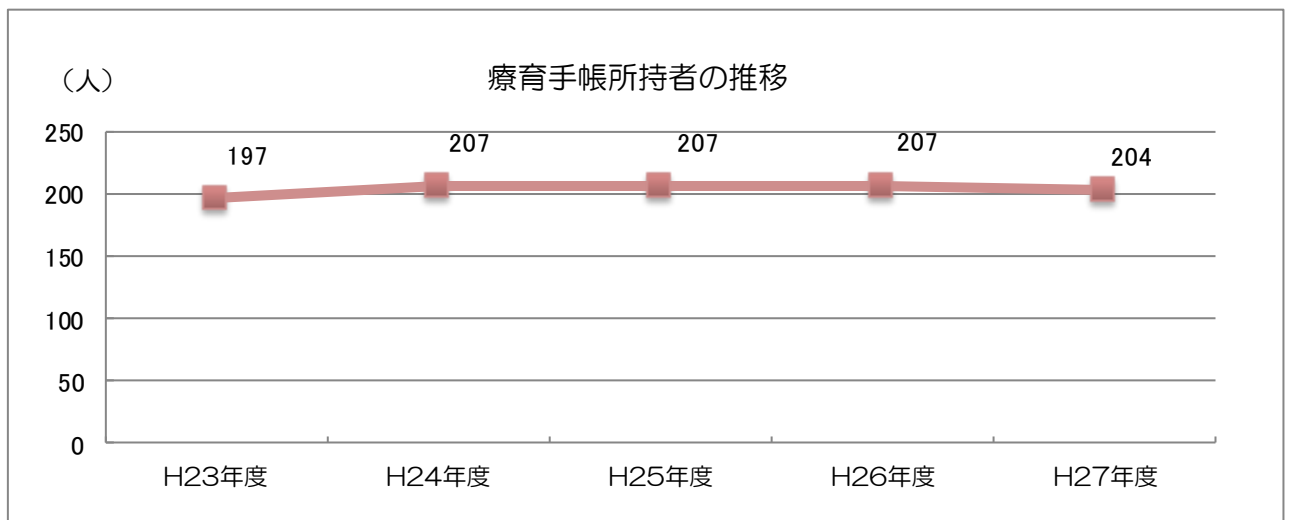
各手帳所持者数

(各年度末現在 単位:人)

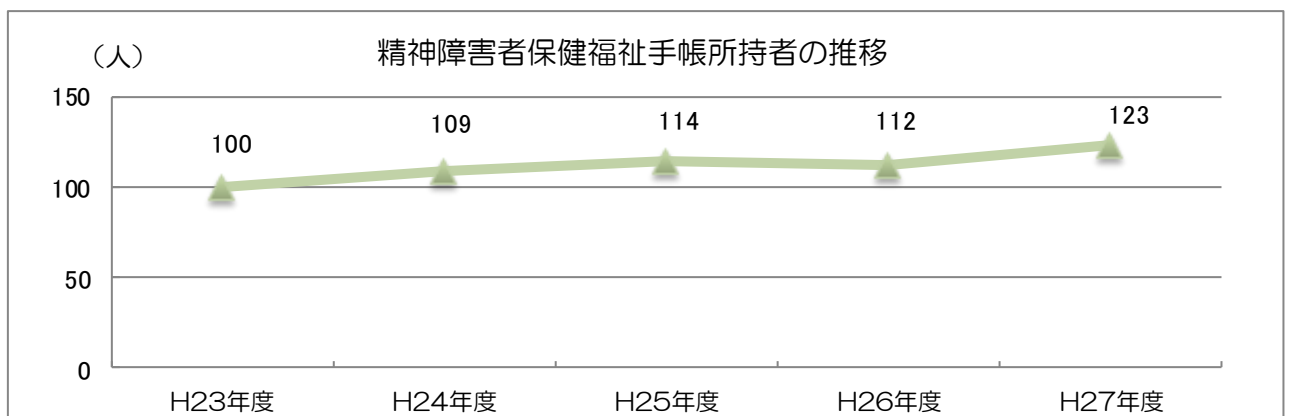


※平成 27 年度の減少は死亡者等の台帳の整理を行ったため

(各年度末現在 単位:人)



(各年度末現在 単位:人)



第3章 計画の基本理念と基本的な考え方

1 基本理念

町の振興計画の「豊かな自然と心に出会えるまち・いの」を実現するため、振興計画の基本計画で「地域福祉の充実」が方向付けられています。まちの主役である住民の声やマンパワーを活かし、住み慣れた地域での自立生活を可能にし、また、社会との交流を進め、一人ひとりが生きがいをもった生活ができるための体制づくりと、住民同士がお互いに“見守り上手・見守られ上手”になり、地域でそこに生活する人を支えられるよう、日頃からの支え合いや助け合いのもと、災害から身を守るための様々な場面を含め、住民同士の支え合いの絆、つながりを大切にしながら、人々がいきいきと暮らすことができるよう、住民参加を通じて町社協、町、家庭、地域、学校、職域等が協働して地域福祉の推進に取り組んでいきます。

一人暮らしになっても“一人ぼっちを感じず、いの町にずっと住みたい、住んでよかった”と思える町づくりを目指します。

支えあ**い**助けあいたい
地域**の**絆
ちからを合わせて
つながりあえる**よう**
みんなでつくって**いこ****う**よ
いののまち

2 計画の基本的な考え方

現在の社会は、少子高齢化が進み、人々の生活スタイルも多様化する中、私たちが日頃暮らすそれぞれの地域においては助け合い、支え合いといった地域住民同士の関係が希薄化しています。

こうした中で、住民の意識や価値観、行政課題や住民ニーズも多様化・複雑化・高度化しており、行政が提供するサービスだけで全ての問題を解決することは大変難しくなっています。

これからも、住み慣れた地域の中で、行政や、地域で活動する団体の方々だけでなく、住民一人ひとりも主体となり、それぞれが地域の問題の解決のために取り組む「地域福祉」をより推進することが必要であり、住民誰もが安全で安心して暮らしていける、住みやすい社会をつくっていくための、これからのまちづくりでは、住民一人ひとりが地域社会の一員であるということをより一層認識し、それぞれの地域の実情にあった活動を様々な立場の人々が一緒になってより一層進めていくことが重要です。

第2期計画は、第1期計画からの考え方を継承し、「小地域単位での福祉コミュニティづくりの推進」を全体目標として引き続き掲げて、**小地域単位も、今までどおり伊野地区を8つ、吾北地区を4つ、本川地区を3つに分けた計15小地域エリアを基本とし、それぞれの地域の実状に沿った福祉コミュニティづくりに取り組んでいきます。**

また、第2期計画の計画の柱は、アンケート調査結果や地域座談会（伊野地区・吾北地区・本川地区）でいただいた住民の意見をふまえ、町地域福祉推進ワーキングチーム員で第1期計画の重点4本柱のこれまでの進捗状況の確認と分析を行い、そこからみえてきた課題を解決するために、今後住民一人ひとりも主体となってみんなで取り組んでいくための4つの計画の柱を立て、第2期の計画を推進していくものとします。

小地域エリア表

小地域エリア（15）		
伊野地区（8）	吾北地区（4）	本川地区（3）
伊 野	清 水	下本川
八 田	上八川	中本川
枝 川	小 川	上本川
池ノ内	下八川	
川 内		
神 谷		
三 瀬		
天 王		



第4章 施策の展開

1 施策の体系

計画の体系図

<全体目標>小地域単位での福祉コミュニティづくりの推進

伊野地区「8」吾北地区「4」本川地区「3」の15小地域エリアに分け、地域の実状に沿った福祉コミュニティづくりを推進します。

計画の柱 1



地域の相談機能・支え合いの強化

- あったかふれあいセンター事業の充実
- 生活支援の仕組みづくり
- 生活困窮者等地域の相談窓口の充実
- 災害時要配慮者支援の仕組みづくり
- 人材育成（担い手の確保）
- 世代間交流の促進

計画の柱 2



拠点型つどいの充実

- 集いの場の確保

計画の柱 3



みんなで進める小地域福祉

- 地域の課題解決に向けて、必要に応じた住民座談会の開催と地域の実状に沿った取り組みの推進

計画の柱 4



小地域福祉推進のコーディネート機能の充実

- 地域に出向き、“人”と“地域”と“想い”を繋げるコーディネート機能の拡充

2 施策の展開

この計画を推進していくにあたり、地域福祉の推進主体について施策の取り組みごとに、それぞれの主体の役割や期待される取り組みを記載しています。

1. 地域の相談機能・支え合いの強化

あったかふれあいセンター事業の充実

あったかふれあいセンター事業は、子どもから高齢者まで、年齢や障害の有無にかかわらず、誰もが気軽に集い、必要なサービスを受けることができる拠点を整備し、地域ニーズの把握や課題に対応した小規模多機能支援拠点としての活動に加え、要配慮者の見守りや生活課題に対応した支え合い活動などを行うものです。

町の取り組むこと

○あったかふれあいセンター事業を充実させるために、町社協に委託し、関係課・県等と連携して事業の進捗管理等を行います。

町社協の取り組むこと

あったかふれあいセンター（地域福祉の拠点）

集い・学び
（誰もが集える場）

訪問活動

生活支援
地域支援

担い手の育成

相談・つなぎ

サテライト
（中山間拠点）

【集い・学び】

◆幅広い年齢層の方々が交流できる場づくりを目指します。

【訪問活動】

◆要配慮者、障害のある方、生活困窮者、制度サービス外の方等の訪問活動を行います。

【生活支援・地域支援】

◆有償ボランティア助けあいたい伊野「結」と連携し、地域で生活の困りごとを抱えている方々を支援します。

◆生活支援の仕組みづくり、担い手の育成に取り組みます。

◆サロン活動などをサポートします。

【担い手の育成】

◆講座（あったかまなび家）や研修会を開催し、担い手を育成します。

【相談・つなぎ】

◆地域の相談窓口として、福祉サービスに関することや日常生活での困りごと等の相談を受け、内容により、専門機関や関係機関につなぎ支援します。

◆気軽に相談できる場づくりと相談窓口としての広報活動に努めていきます。

【サテライト】

◆地域住民とのつながりを強化するとともに、中山間地域の生活課題に取り組みます。

★住民の方へ・・・

あったかふれあいセンターはすこやかセンター伊野の1階にあります。
まずはお気軽にあったかふれあいセンターへお立ち寄りください。（TEL893-5920）

生活支援の仕組みづくり

高齢者や障害者等いわゆる社会的弱者を、多様な主体（NPO、社会福祉法人等）が支える地域にしていくための体制づくりを推進していきます。また、これまで培ってきた地域福祉活動を活かしながら取り組んでいきます。

町の取り組むこと

○地域福祉、高齢者福祉、地域包括支援センター等が連携して、介護予防等の高齢者等を支える体制整備を行っていきます。

○あったかふれあいセンターと連携し、生活支援コーディネーターを配置するとともに、地域と連携し情報共有や連携強化の場として「協議体」を位置づけ、地域のニーズ把握に努めます。

町社協の取り組むこと

○生活支援コーディネーターとして、関係機関とのネットワークの構築や既存の取り組み・組織等を活用しながら、地域における生活支援・介護予防サービスの提供体制の整備に向けた取り組みを推進していきます。

○地域資源の把握や活性化を行うとともに、必要があれば新たなサービスを開発します。

○生活支援の担い手の育成に取り組めます。

○サロン活動などをサポートします。

生活困窮者等地域の相談窓口の充実

高齢者や障害のある人、児童、ひきこもり状態にある方やその家族を支援します。また、「仕事がない」、「借金がある」、「子どもがひきこもりがち」等、経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなる可能性がある方（生活困窮者）等を支援します。

地域住民の取り組むこと

○働きたくても働けない、住む所がない、など問題を抱えられた方は町や町社協に相談しましょう。

○地域でそういった問題を抱えている方から相談を受けた場合は、窓口へ相談するように声を掛けてあげてください。町や町社協だけでは全ての方に声を掛けることが困難です。地域住民が相談窓口との橋渡し役になっていきましょう。

町の取り組むこと

○高齢者に関すること、障害のある人に関すること、子育てに関すること、児童に関すること、自殺を考えるような悩みを抱える人に関することなど、保健師等の専門職が中心となり、問題の解決に向けてサポートします。

○平成22年度から立ち上げている「ひきこもり者支援事業」により、ひきこもり児者への支援を家庭訪問の手段を使って引き続きサポートします。

○保健師等の専門職の専門的な視点や相談機能を活かし、相談者のニーズに対し、必要とするサービスや支援につなげていくよう努めます。

○住民の相談に適切に対応するため、必要に応じて、外部の専門機関からアドバイスをいただきその対応に努めます。

○民生委員や町社協との連携により、地域住民の困りごとの把握に努め、適切な相談窓口につなぐなど、福祉課題の解決に努めます。

町社協の取り組むこと

○生活困窮者自立相談支援事業として、生活困窮者が抱える多様で複合的な問題の相談に応じ、必要な情報提供及び助言を行うとともに、自立した生活が送れるように支援プランを作成し、他の専門機関と連携して生活困窮者の自立の促進を図っていきます。

○認知症や知的障害、精神障害等により判断能力が不十分な人に対して、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理を行う福祉サービス利用援助事業を実施します。

○低所得者や高齢者、障害者の生活を経済的に支えるとともに、在宅福祉及び社会参加の促進を図ることを目的とした生活福祉資金貸付事業を実施します。

○意思決定が困難な人の判断能力を補うため、利用者の財産管理、身上監護を行い、その権利を擁護する法人成年後見事業を実施します。

○なんでも相談事業、指定特定相談支援事業、居宅介護支援事業といった各種相談事業を行うことで、地域住民からの様々な相談に対応できる総合相談の窓口として取り組んでいきます。

災害時要配慮者支援の仕組みづくり

南海トラフ地震などに対する防災・減災対策と地域福祉活動の一体的な取り組みを行うため、災害時要配慮者支援の仕組みづくりを行います。

地域住民の取り組むこと

○災害に備え、食品・飲料水その他の生活必需物資の備蓄や避難所の確認など、家庭内や自分自身でできる災害時の備えをしておきましょう。

○民生委員、自主防災組織、区長等を中心に地域の災害時避難行動要支援者の個別計画の作成に取り組むとともに、避難行動要支援者の個別計画を活用した避難訓練を行いましょう。

○近隣に住む避難行動要支援者の支援者となり、避難の手助けをしましょう。

○自主防災組織の活動を充実させるため、それぞれの役割を決めて避難支援、安否確認、情報伝達などの防災活動を行い、地域における要配慮者の見守り・支援体制づくりに積極的に協力しましょう。

町の取り組むこと

○避難行動要支援者情報を整備します。また、災害時に各地域において避難行動要支援者への避難支援の取り組みが進められるよう民生委員、自主防災組織、区長等の避難支援等関係者への情報提供を行い、個別計画の作成を推進します。

○「いの町災害時要配慮者支援地域検討会」を開催し、避難支援等関係者等と情報交換を行います。

○自主防災組織の防災活動の活性化・強化のための活動補助として「いの町地域で支え合う防災対策事業費補助金」の確保に努めます。

○災害発生時に、一般の避難所での生活が困難な災害時要配慮者を受け入れるための福祉避難所の確保に引き続き努めます。

町社協の取り組むこと

○民生委員の協力を得て、町とともに災害時要配慮者の情報を整備します。

○災害発生時、被災者・被災地支援のボランティア活動を効果的・効率的に行うため、災害ボランティアセンター運営について、各機関・団体と関係を築きます。

人材育成（担い手の確保）

地域福祉の重要性や、助け合い・支え合いの大切さをより多くの人に伝えることにより、地域福祉活動の担い手を増やします。

地域住民の取り組むこと

○地域のため、人のため、自分のために出来ることは何か探してみましょう。

○「自分でもこんな活動をしてみたい!」と感ずることがあれば、町や町社協に相談してみましょう。

町の取り組むこと

○平成25年度から開催している元気“イキイキ”ボランティア講座を継続して開催し、地域福祉活動の担い手の育成に努めます。

○町社協と連携し、ボランティア講座やボランティア活動の啓発に努めます。

町社協の取り組むこと

○今後の地域を担っていく子どもたちに対して、高齢者疑似体験や福祉現場での職場体験等、福祉教育を行うことで、福祉への理解と関心を高めるとともに、子どもたちを通じて家庭及び地域社会の福祉の啓発を図っていきます。

○ボランティア講座（あったかまなび家）を開催し、担い手を育成します。

○既存の組織等とも連携しながら、研修会を開催し、担い手の育成に取り組みます。

世代間交流の促進

昔に比べて近所付き合いが薄れつつある中で、幅広い世代の住民の交流を図ります。

地域住民の取り組むこと

○幅広い世代が集う活動（地域のお祭りやボランティアなど）へ参加・運営しましょう。年齢層が違う方にも積極的に話しかけていきましょう。楽しかったこと、うれしかったことなど共有することで、交流を深めましょう。

町の取り組むこと

○町が開催する様々な講座やイベントについて、広報や回覧で周知し、多くの人が参加できるようにします。

町社協の取り組むこと

○いの町健康まつりにおいて、スポーツ大会等を通して子どもから高齢者まで、世代を超えた交流の場づくりを行います。

○社会教育を目的とした青年団等との連携を図り、幅広い世代が活動できるよう関係を深めていきます。

2. 拠点型つどいの充実

集いの場の確保

地域に密着した住民主体で行われている「拠点型つどい」事業を継続して確保していきます。

地域住民の取り組むこと

○「集まれる場所が欲しい」、「皆で仲良くお茶でもしたい」と思われている地域の方の居場所として、地域の集会所や公民館等を活用し、自分たちで憩いの場を作りましょう。

○子育て世代や子どもなどにも集いに参加してもらい、世代間交流もしながら一緒に活動していきましょう。

町の取り組むこと

○ミニデイサービスやるんるん若ガエル体操については、健康相談等で保健師等の専門職が積極的に関わります。

○ミニデイサービスについては、運営補助として「いの町安心のまちづくり特別助成事業」の補助金の継続に努めます。

○平成25年度から開催している元気“イキイキ”ボランティア講座を継続して開催し、地域福祉活動の担い手を育成し、地域の集いの担い手としてつなげることに努めます。

町社協の取り組むこと

○あったかふれあいセンター事業として、幅広い年齢層の方々が交流できる場づくりを目指します。

○閉じこもりがちな高齢者等の交流の場として、また、地域の活性化、生きがい対策を図ることを目的に、引き続きサロン事業を支援していきます。

3. みんなで進める小地域福祉

地域の課題解決に向けて、必要に応じた住民座談会の開催と地域の実状に沿った取り組みの推進

これからの地域社会においては、住民一人ひとりも主体となって地域の問題を解決し、地域の活性化に取り組んでいくことで、住み慣れた地域で安心して暮らしていけるような新しい仕組みを考えていくことが重要になってきます。

地域住民の取り組むこと

- 地域住民同士で集まり、自分の住んでいる地域の現状や課題を改めて見つめ直し「今後地域をどうしていきたいか」「地域でこんなイベントをやってみたい」など話し合い、出来ることから地域のみんなで始めてみましょう。
- 地域の様々な活動を知りましょう。
- 自主防災組織等の地域の活動に参加しましょう。

町の取り組むこと

- 住民の方に情報提供し、またお話を聞くことで、皆さんと関わっていきます。
- 地域活動に必要なサービスにつなげるなど、地域活動をサポートしていきます。

町社協の取り組むこと

- 第1期計画から引き続き、現在行っている住民主体の取り組みを、地域住民と寄り添いながら小地域エリアでの地域福祉の推進を図っていきます。
- それぞれの地域で行われている活動を把握し、情報を発信していきます。

4. 小地域福祉推進のコーディネート機能の充実

地域に出向き、“人”と“地域”と“想い”を繋げるコーディネート機能の拡充

町社協は、地域福祉の中核的な担い手として、誰もが住み慣れた地域で、互いに支え合い安心して自分らしく生き生きと暮らせる地域福祉社会を構築するため、様々な事業を行っています。

今後はより一層、“人”と“地域”そして“想い”を繋げていくコーディネート機能を拡充していくことにより、“一人ぼっちを感じず、いの町にずっと住みたい、住んでよかった”と思える町づくりに地域住民とともに取り組んでいきます。

町の取り組むこと

○町社協が地域福祉を推進していくために必要な支援を行うため、いの町地域福祉推進ワーキングチームを中心に、町社協とともに積極的に地域に出向き地域福祉の推進に努めます。

町社協の取り組むこと

○地域や関係団体が行っている様々な活動に積極的に出向き関係を築いていきます。

○人、活動、地域を把握していきます。

○それぞれの地域で行われている様々な活動を把握するとともに、必要な情報を発信していきます。

第5章 小地域エリア別の福祉活動の推進

1 小地域エリア別の福祉活動の推進

本計画の基本理念「一人暮らしになっても“一人ぼっちを感じず、いの町にずっと住みたい、住んでよかった”と思える町づくり」の実現に向けて、それぞれの地区にあった取り組みを行っていきます。

第2期計画策定時に行った地域座談会では、それぞれの小地域エリア毎に「よいところ、自慢できるところ」「気になるところ、できていないところ」「自分たちにできること、これからしたいこと」について、住民の皆さんからご意見をいただきました。

それらのご意見をもとにして、今後、地域住民と町と町社協とが一緒になり、地域の絆を大切にしながら、いつまでも自分たちの地域で生活できるような取り組みを行っていきます。

地区	小地域 エリア	地域座談会から出た 「将来、自分たちにできること、これからしたいこと」
伊野	伊野	近隣の方と親しくなることにより、困ったことがないか自分から情報を得たい 高齢化対策として自助・共助の体制（グループ）を作りたい
	八田	古民家喫茶として、民家で週に1回くらいしたい 男の料理教室を開催したい
	枝川	自分に出来るボランティア活動に参加したい 防災訓練での子どもの参加を多くしていきたい
	池ノ内	逆子ども食堂（子どもたちが料理を作り地域の人に振る舞う）をしたい 運動会を復活させたい
	川内	3地区（大内、鎌田、波川）が一体となった行事（川内まつり的な）をしたい 地域の行事に若い人も巻き込みたい
	神谷	ミニデイサービスに男性も参加させたい 神谷地区全体で防災訓練をし、炊き出しなど訓練を子どもにも見せて学習させたい
	三瀬	古民家を開放して持ち寄り喫茶店をしたい 休校の学校の施設を活用したい
	天王	自分たちの活動内容をチラシ・ポスター等で一人でも多くの人に知ってもらいたい 地域の方が顔を合わすことができるイベント（もちつき、運動会等）をしたい
吾北	清水	若者が集まれるイベントをしたい 後継者を育てたい
	上八川	ちょっとした困りごと（掃除・草引き等）へのお手伝いがしたい いつまでも元気で生活できるようにミニデイサービス行事を今までどおりしたい
	小川	小川地区全体が集まれるイベント（お祭り、敬老会等）をしたい 年1回の防災訓練を学校と一緒に実施したい
	下八川	昔遊びを一緒にする等、世代間交流の場を作っていきたい 防災の横のつながりを持ちたい
本川	下本川	老人クラブに加入していない高齢者を勧誘して集いを広めたい
	中本川	夏場の子ども遊び場所を作りたい 普段から隣近所と仲良くし、災害時等では正確な情報が分かるようにしたい
	上本川	困りごとや心配事を今後考えていく体制を考えたい

第6章 計画の推進体制

1

計画の推進体制

この第2期計画の推進を図るために、第1期計画で取り組んできた地域福祉の担い手による計画の進行管理を基本に行います。

第2期計画策定後は、引き続き、地域課題の解決に向けて計画の推進が必要であり、地域福祉の担い手である住民、関係団体、関係機関、事業者、町社協及び町など地域に関わるものが主体となって協働して推進していくことが大切です。また、計画の進捗状況をチェックしていくための方法を明確にし、各年度の計画進行管理ができるだけ分かりやすい仕組みをつくり、計画の実践段階において住民の参加を進めながら、その活動を支援していく必要があります。

① 計画の周知

町地域福祉（活動）計画で示した基本目標や今後の取り組みについて、ダイジェスト版や広報、ホームページなどにより公表し周知を図ります。また、より普及を図るため、町と町社協が住民座談会を通じて、具体的な取り組みや活動事例などを紹介しながら理解と参加・協力を求め、住民への周知を図ります。

② 住民が計画を推進するための体制づくり

町地域福祉（活動）計画は、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、住民、区長、民生委員、社会福祉事業者、NPO法人、ボランティアなどの様々な主体が町や町社協と協働して、「小地域福祉単位での福祉コミュニティづくり」を推進していくことを全体目標としています。

このため、様々な主体の参加のもと、地域の特徴や課題を共通認識し、地域住民が自ら解決していく方策を地域ごとに考え実践していくため、小地域エリアでの「住民座談会」を中心に、その地域の様子を大事にしながら地域福祉を推進していきます。

③ 町社協の体制づくり

町社協は、社会福祉法第109条の中で地域の福祉活動を推進していく責務があり、それを担う役割がしっかりと示されていることから、本計画の主体となって、社会福祉を目的とする事業の企画及び実施、普及、助成などを行いながら、引き続き地域に密着したコーディネーターを目指します。

今後、本計画を推進するため、町社協が中心となり町と密接に連携をとりながら計画に基づいた取り組みを連携して実施していきます。

④ 町の支援体制づくり

地域福祉の推進にあたって、町には住民の福祉向上を目指して福祉施策を総合的に推進する責務があります。

その責務を果たすために、地域福祉を推進する関係機関・団体等の役割を踏まえながら、相互に連携し協力していくとともに、各小地域エリアの「住民座談会」を中心に地域の特性に配慮した施策の推進を図ります。

また、町組織として、「いの町地域福祉推進ワーキングチーム」を中心に、今後も地域福祉にかかわる施策や事業に関する担当課との調整を図るとともに、様々な地域福祉推進に関する事項についても引き続き検討を行っていきます。

⑤ 計画の評価

町地域福祉（活動）計画の評価を行うため、第2期計画の「いの町地域福祉計画策定委員会」のメンバーを中心とした「いの町地域福祉推進連絡会」を開催し、計画の進捗確認と評価を行います。進捗状況や評価をできるだけ分かりやすいものとするために事業評価シートを導入し、年度当初と年度途中に、町と町社協といの町地域福祉推進連絡会において、計画の進捗状況と成果の確認・評価を行い、地域課題の解決に向けて計画的に推進していきます。

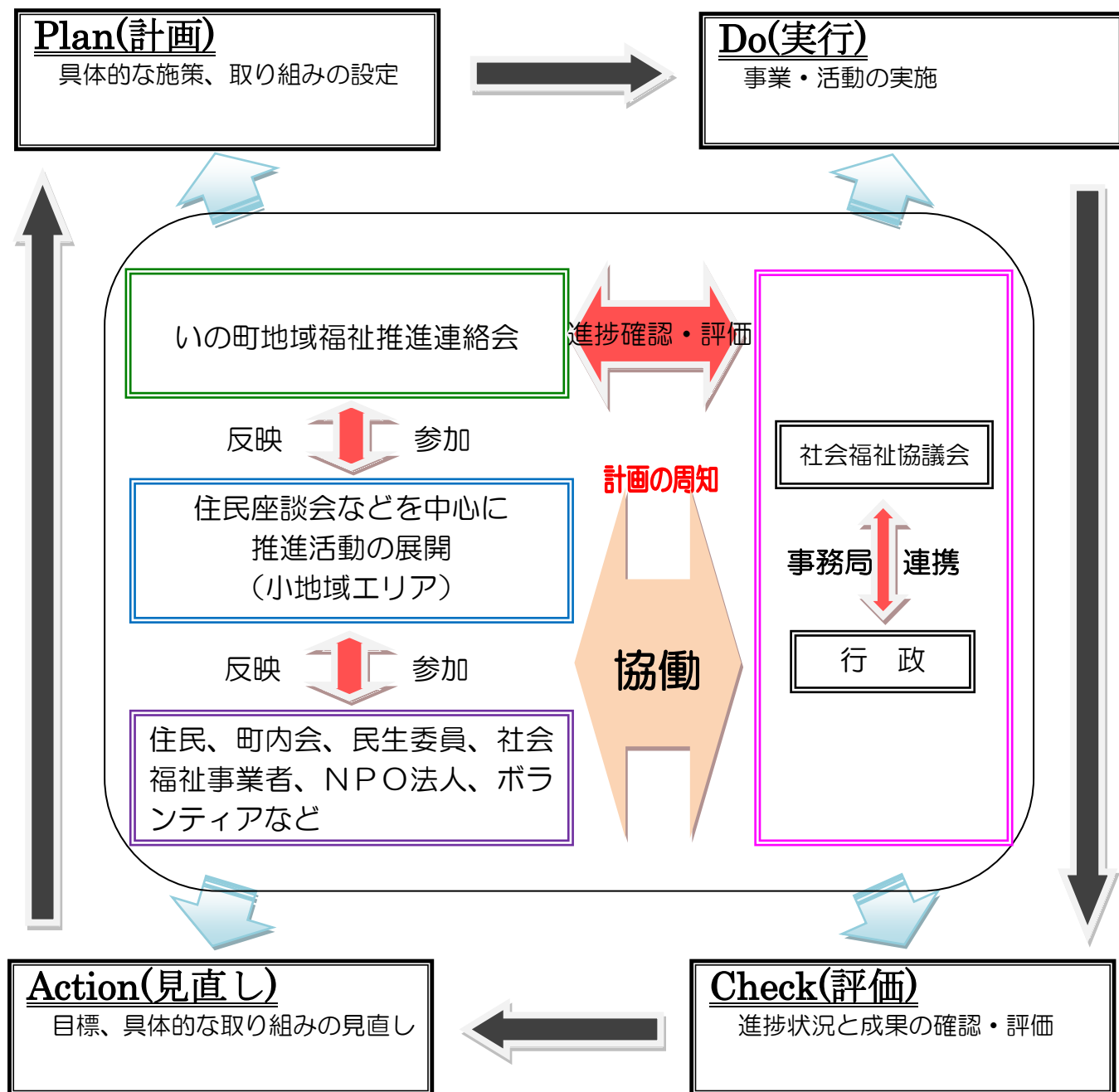
⑥ 事務局体制

事務局体制は、平成29年度以降も継続して町と町社協が一体的に取り組んでいくものとします。

2

計画の推進体制図

計画の進捗管理については、PDCA サイクルを活用し、計画の柱に掲げる施策の成果や改善点を明らかにし、今後の施策の充実を図ります。



資料編

◆資料 1 いの町地域福祉計画策定委員会設置要綱

（設置）

第1条 社会福祉法（昭和26年法律第45号）第107条の規定に基づき、いの町地域福祉計画（以下「計画」という。）を策定するため、いの町地域福祉計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- （1）計画の策定に関すること
- （2）その他町長が必要と認める事項

（組織）

第3条 委員会は、委員20人以内で組織し、次の各号に掲げる者のうちから町長が委嘱する。

- （1）学識経験者
- （2）地域関係者
- （3）社会福祉に関する活動を行う者
- （4）行政関係者
- （5）その他町長が適当と認める者

（任期）

第4条 委員の任期は、計画策定までとする。ただし、委員が任期の途中で交代した場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長及び副委員長）

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選によって定める。
- 3 副委員長は、各委員の承認を得て、委員長が指名する。
- 4 委員長は、委員会の事務を総理し、委員会を代表する。
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

（会議）

第6条 委員会は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

- 2 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。

（関係者の出席等）

第7条 委員会は、必要があると認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聞くことができる。

（ワーキングチーム）

第8条 計画及びいの町地域福祉活動計画の策定に関する基礎的作業を円滑に進めるため、いの町地域福祉推進ワーキングチーム（以下「チーム」という。）を設置する。

- 2 チームの設置及び運営に関する事項は、別に定める。

（庶務）

第9条 委員会の庶務は、ほけん福祉課において処理する。

（費用の弁償）

第10条 委員会に要する報償及び費用弁償は、いの町障害者計画及び障害福祉計画策定委員会委員等の報償及び費用弁償支給に関する規程（平成18年いの町訓令第20号）を準用する。

（提携）

第11条 町は、いの町社協と提携し、計画策定に係る事務を協働する。

（その他）

第12条 この告示に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員長が会議に諮って定める。

附 則

この告示は、平成23年6月3日から施行する。

附 則

この告示は、平成28年8月12日から施行する。

◆資料 2 いの町地域福祉計画策定委員会委員名簿

分 類	氏 名	地 区	小地域 エリア	備 考
地域関係者	樋口 義博	伊野	伊野	是友・奥名地区自主防災組織代表
	森木 悦子	伊野	八田	H25 元気“イキイキ”ボランティア講座受講生
	鍋島 義安	伊野	枝川	西浦 6 区自主防災会代表
	宮部 由佳	伊野	池ノ内	H27 元気“イキイキ”ボランティア講座受講生 池ノ内よねす会代表（ミニデイサービス）
	井上 洋子	伊野	神谷	加田しあわせ会代表（ミニデイサービス）
	西川 幾子	伊野	三瀬	地域出番会議出席者
	和田 守正	吾北	上八川	H27 元気“イキイキ”ボランティア講座受講生 前特別養護老人ホーム吾北荘所長
	麻生 千代子	吾北	下八川	日本赤十字社いの町分区奉仕団吾北地区地区長 いの町連合婦人会副会長
	青地 三男	本川	下本川	健康づくり推進協議会委員
	○山中 靖一	本川	中本川	前本川総合支所次長
社会福祉に 関する活動 を行う者	大西 守	伊野	伊野	精神デイケアボランティア
	◎高瀬 科子	伊野	川内	民生委員・児童委員、いの町連合婦人会会長
	宇賀 末弘	伊野	天王	精神障害者家族会代表
	宮田 幸子	伊野	天王	主任児童委員、あい愛ネットワーク代表
	山中 美和子	吾北	清水	民生委員・児童委員
	津賀 公子	吾北	小川	民生委員・児童委員
	松本 健市	本川	上本川	民生委員・児童委員
行政関係者	川村 尚美			高知県中央西福祉保健所 次長兼地域支援室長
学識経験者	鈴木 香			高知県社会福祉協議会 地域・生活支援課チーフ

※◎策定委員会委員長、○策定委員会副委員長

◆資料3 ワーキンググループ名簿

区分	所属機関	職・氏名	備考
行政関係者	ほけん福祉課	課 長 筒井 誠人	
		課 長 補 佐 森田 里香	チーム員
		副 参 事 平尾 里枝美	チーム員 事務局
		係 長 浦 砂智子	チーム員 事務局
		係 長 細川 和久	チーム員 事務局
		技 幹 武内 紀子	チーム員 事務局
		技 幹 山崎 和美	チーム員
		主 幹 瀧本 星児	チーム員
		主 事 堀尾 好美	チーム員
		主 事 川村 由希子	チーム員 事務局
		技 師 中村 あゆ	チーム員
	吾北総合支所住民福祉課	課 長 高橋 正代	
		係 長 大川 博之	チーム員 事務局
	本川総合支所住民福祉課	課 長 野田 幸稔	
		係 長 青木 玉子	チーム員 事務局
	教育委員会	技 師 石黒 圭	チーム員
	総務課	主 事 青木 達哉	チーム員
	土木課	技 査 北川 奉功	チーム員
	高知県中央西福祉保健所	チ ー フ 宇佐美 佳代	
		技 師 吉本 知子	
	高知県計画推進課	地域支援企画員 鍋島 由子	
社会福祉協議会	町社協 本所	事 務 局 長 高橋 恵助	
		総 務 課 長 森川 森次	
		総務課長補佐心得 下川 毅士	チーム員 事務局
		主 事 武内 信親	チーム員 事務局
	町社協 吾北支所	支 所 長 藤田 良恵	
		副支所長心得 山本 亜希	チーム員 事務局
	町社協 本川支所	支 所 長 浅川 美喜	
		副 支 所 長 増井 邦基	チーム員 事務局
	町社協 あったかふれあいセンター	所 長 武政 豊	チーム員
		主 任 佐竹 瑞枝	チーム員 事務局
	高知県社会福祉協議会	チ ー フ 鈴木 香	
学識 経験者	高知大学 地域協働学部	教 授 玉里 恵美子	アドバイザー

※チーム員とはワーキングチーム員

◆資料 4 計画の策定経過

平成 27 年度	・地域福祉計画・活動計画の一体的策定について確認	
		
平成 28 年 3 月～4 月	・地域福祉に関するアンケート調査実施	
		
平成 28 年 5 月～	・アンケート調査集計・分析	・アンケート調査集計・分析
		
平成 28 年 10 月	・玉里教授からのアドバイス ・第 1 回ワーキングチーム会	・策定委員選定 ・策定スケジュール調整 ・各小地域エリア分析 ・地域座談会の内容・日程調整 ・地域座談会回覧作成
		
平成 28 年 11 月	・玉里教授からのアドバイス ・第 1 回策定委員会 ・地域座談会開催 (玉里教授の講演(伊野地区))	・各小地域エリア分析 ・地域座談会意見まとめ
		
平成 28 年 12 月	・第 2 回ワーキングチーム会	・各小地域エリア分析 ・第 1 期計画の分析・課題整理
		
平成 29 年 1 月	・第 3 回ワーキングチーム会 ・第 2 回策定委員会	・素案検討
		
平成 29 年 2 月	・玉里教授からのアドバイス ・第 3 回策定委員会	・最終案調整 ・ダイジェスト版検討
		
平成 29 年 3 月	・地域福祉計画・地域福祉活動計画完成	・地域福祉計画・地域福祉活動計画の印刷 ・計画のダイジェスト版の印刷

◆資料5 小地域エリア別福祉活動の推進（15 小地域エリア）

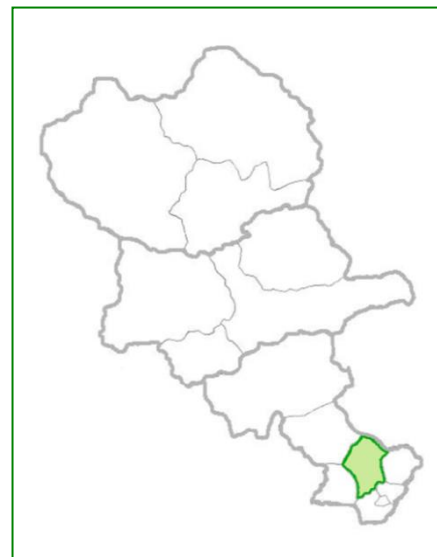
1 伊 野（伊野地区）

1 地域の概況

役場本庁舎を中心に、国や県等の出先機関や小中学校、量販店等が集中しており、いの町の中心部にあたる。JR 土讃線、路面電車、路線バス等の公共交通の利便性も良い。

福祉制度サービスが充実されており、伊野公民館等を活用した生涯学習サークルが活発に行われている。

梶本神社の年2回の大祭や、商店街でのひな祭りには、多くの参拝客や人出で賑わう。



人口や世帯数等（基準日 平成 28 年 3 月 31 日 住民基本台帳人口より）

行政区

1区、柿奈路、2区、3区、4区の1、4区の2、5区、6区、7区、8区、9区、10区、11区、12区、13区の1、13区の2、13区の3、14区、15区、16区、17区、18区、19区、20区の1、20区の2、20区の3、20区の4、20区の5、21区の1、21区の2、22区、23区の1、23区の2、23区の3、槇、蔭、横敷、26区の1、26区の2、27区、特老、ウェルネス

世帯数		人口			高齢者数・率				独居高齢者数※		介護認定者数		障害者数		出生数		0～就学前乳幼児数		6～14才児童・生徒数	
					数		率													
H23	H28		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
2885	2,735	男	3,094	2,834	860	940	27.8	33.2	69	63	132	129	281	279	21	21	138	106	238	225
		女	3,464	3,148	1,329	1,349	38.4	42.9	207	192	341	280	261	228	21	15	133	100	205	204
		計	6,558	5,982	2,189	2,289	33.4	38.3	276	255	473	409	542	507	42	36	271	206	443	429

※「独居高齢者数」は地域見守り台帳登録者より

地域資源（基準日 平成 28 年 4 月 1 日）

公民館	1	中学校	1	警察・駐在所	1	高齢・障害者等福祉施設(名称と数)
集会所	13	高等学校	1	消防署・屯所	2	
避難所	20	役場・支所	1	医療機関	13	
幼稚園	1	郵便局	1	量販店	2	
保育園	2	図書館	1	金融機関	5	
小学校	1	社協・支所	1			

その他欄(36 頁)を参照してください

2	地域福祉(活動)計画小地域エリア別分析結果票(伊野) (各項目は、アンケート調査・地域座談会・ワーキングチーム会・策定委員会などの意見を反映して記載しています。)	
地域のつながり	現状	ミニデイサービスが発足したところもある一方、高齢化が進み地域活動が出来ない地区もある。 声かけができていない。 ご近所さんの付き合いがある。 町内会活動がある。(掃除・草引き)
	課題	住民同士がいつも気軽に話し合えるようにすべきだが方法が分からない。町内会に入らない方をどうすればよいのか？若い人が地域の活動に参加してもらうには？ 高齢化によるのか、町内会活動が寂れた。 町内活動に参加しない人が増えた。 地域にどのような人が住んでいるのか分からない。なかなか心を開かないのでいくら声かけしても難しい方もいる。 すべての地区民が参加できる地区イベントや公民館活動の活性化が必要。運動会も高齢化で減少している。 何をやっても参加者が限られている。
	(住民の声) 変化	ミニデイサービスが発足したところもある一方、高齢化が進み地域活動が出来ない地区もある。若い人たちは地域活動に参加しない。地域の行事も減り参加者も減少傾向のためつながりが減った。 自主防災が立ち上った地区もある。
	今後の展望	日頃からの交流が必要でお互いの情報を共有し合って、雑談、相談が出来合える近所付き合いになっていることが大切。井戸端会議の様に誰でも集まって話ができる場所があればいい。知り合いが増えて交流でき、お互いに見守りできるのでは。気軽に声を掛け合って集まり話し合う場がほしい。 日頃から挨拶等を心がける。小さなまとまり、隣同士の声かけ。日頃から地域の交流がありお隣さんとの支え合いが必要。 子育て家族だけではなく、地域の人との交流があり、地域で子どもを育てる気持ちや環境をつくる。 子ども同士でも気軽に立ち寄れて遊べる地域のイベント、お祭りがあればよい。 次世代が育つためのプロジェクトをはじめたい。 自分たちの活動の宣伝や内容の案内の仕方を工夫したい。
高齢	現状	ミニデイサービスは18か所で実施。るんるん若ガエル体操19か所(東加田、谷、西町、伊野公民館3団体、アピタシオン青空、北山・駅東、駅前、健康センター、駅南、公園町、内野、加茂、音竹、是友、北内、天神、20区-3) 模は休止中。 小規模アピタシオン青空は、地域交流スペースを活用し、地域住民や利用者、また町社協に委託している外出支援サービスの利用者(何らかの理由で集会所までの移動が困難な者)が集う交流の場になっている。サロン7か所で実施している。しかし、山間地域の槇地区、蔭地区、横敷地区、柿奈呂地区ではミニデイサービス、るんるん若ガエル体操、サロンは実施されていない。集会所がない地区もある。敬老会は年1回全地区で住民の協力のもと伊野体育館で開催されている。老人クラブは9団体あるが、スポーツ関係が集まることが多い。奉仕活動等を含めて活動は衰退ぎみであるが、女性部の活動は活発である。
	課題	山間地域を除く平野部では、ミニデイサービス、るんるん若ガエル体操、サロンの実施場所も多く、人と集まれる機会も多くなっているが、蔭地区、横敷地区は集会所等の集まれる場所が無い。老人クラブの中でも高齢化しており、会長がやめると会自体が活動できない状態になる。メンバーも決まった人しか活動できていない。老人クラブの会員も減っており衰退してきている。
	(住民の声) 変化	ミニデイサービスの集まりにより地域のつながりが増えたと感じる方もいる一方で、高齢化が進み地域活動も減少傾向にあると感じる方もいる。
	今後の展望	小規模アピタシオン青空の地域交流スペースを活用し、認知症発症者やその家族が集い、交流したり気軽に介護における悩みを相談したりする場として活用できないか関係者間で検討を始めている。
障害	現状	「ら・ら・ら」「なのはな」の就労継続支援B型事業所の通所施設が2か所あり、歩いて通所できない人は、家の近くまで事業所が送迎している。 障害者のサービスの利用についての計画作成や地域生活移行の支援を行う指定相談支援事業所の「指定特定相談支援事業所なのはな」「指定特定相談支援事業所ら・ら・ら」「グッドサポート」の3か所がある。 居宅介護等の事業所として、「ニチケアセンターいの」「ホームヘルパーステーションあいの」「ヘルパーステーション優花」の3か所がある。 短期入所指定事業所として、「ら・ら・らホーム」がある。 グループホーム指定事業所として、「ら・ら・らホーム」がある。 すこやかセンター伊野機能回復訓練室において月曜日と水曜日の午後、障害者向けのパソコン教室が開催されている。子どもから高齢者までの年齢や障害の有無にかかわらず気軽立ち寄れる場所として、あったかふれあいセンター(すこやかセンター伊野内)がある。あったかふれあいセンターでは、障害をもった方もボランティアとして活

		動している。すこやかセンター伊野多目的広場では、グラウンドゴルフ教室が雨天を除いて月・水・金に行われていて、年3～6回フライングディスク・ペタンク・ダーツ教室も行われている。「いの町3障害野外ふれあい運動会」の名称で町内の障害者団体が集まって、年1回すこやかセンター伊野多目的広場で運動会も行っている。指定自立支援医療機関（精神通院医療）の関田病院、とんぼクリニックと指定自立支援医療機関（更生医療）森木病院がある。 自分の地域での障害者の方を把握できていません。地域の障害者数がはっきり分からないので、障害者の方が参加する行事があるか知らない。障害者を見かけない。障害者の情報が入ってこない。地域で誰が障害者なのか分からない。目に見えていないのと、同じ地区でも交流のない人もたくさんいる。目につく障害者はいない。障害者の方と関わる機会がない。どんな人がいるのか分からない。
	課題	パソコン教室参加者の多くは高齢の身体障害者が多く、知的・精神障害者の参加は少ない。参加者は顔見知りの人が毎回参加しており、新規参加はあまりいない。元気者がいない、参加できるだけの元気がなくなった。
	（住民の変化の声）	地域で障害者の社会参加は、ほとんど変化がないように思われる。あまり変化しているとは思えない。
	今後の展望	障害者などの町内及びスーパーなどへ買い物その他外出の機会を増やす。 障害者の方の励ましを心がけたら。
児童・乳幼児	現状	乳幼児は、伊野地区のいの町総合健康センター内にある子育て支援センター「ぐりぐらひろば」で町内外からの参加者を支えており、地域住民の認知度も高い。育児相談も「ぐりぐらひろば」で実施しており、平成27年度は23名利用している。「ぐりぐらひろば」に来所する保護者会の「いちごサークル」により親子の交流も図られている。また、地域には母子保健推進員6名が身近な相談相手として活動しており、4ヶ月健診対象者に訪問にて健診通知をお届けする「赤ちゃんおめでとう訪問」も実施している。子育て支援で相談できる場（すこやかセンター伊野）もある。 近所の方が子育てを手助けしてくれる、地域の方に子育てに関わってほしいという意見が多い。 地域内に公園が13か所あり、子どもが集まって遊べる場があるという意見が多い一方、足りないという意見もある。 0歳児保育を2か所で実施、また幼稚園もあるため未就学児の児童福祉の環境も充実している。 また、小学校・図書館や役場なども近くに揃っている。子ども会は各地区で活動しており、放課後や夏休みなどに様々な活動の事業を実施している。伊野小学校には「ひまわり児童会」という歴史のある校庭開放児童会があり、平日や、毎月第3土曜日、長期休業日等も開会している。
	課題	公園が地域内に1か所あるが、休日や雨の日に子どもが遊べる広い場所があれば良い。
	（住民の変化の声）	
	今後の展望	豊かな自然を残しつつ、子どもが安心して遊べる公園や設備を充実させたい。
福祉教育・担い手	現状	町社協が伊野小・伊野中学校を福祉教育推進校に指定して、高齢や障害を理解する福祉体験学習を実施している。住民を対象に地域活動の担い手を育成する町主催の元気“イキイキ”ボランティア講座、地域の助け合い活動を広める取り組みとして、いの町あったかふれあいセンターが実施する生活支援ボランティア養成と地域活動を応援する「あったかまなび家」を開催して担い手育成に力を入れている。
	課題	ボランティア活動や講座等に興味はあるものの、仕事等により時間が取れず参加には至っていない方が多数存在。現在、活動されている方も色々な役をされており忙しく、また高齢化も進んでいる。
	（住民の変化の声）	

	今後の展望	子どもへの教育が大切。（命、弱者、道徳、平和信頼、環境自然）								
防災・防犯	現状	【防災】行政区41区で自主防災組織33、加入している行政区は39地区となり、世帯数ベースでの組織率は92.0%と大きく向上した。 訓練活動への幅広い世代の参加を促すため、ミニ運動会を同時開催するなどの工夫をしている。 平成27年6月には、伊野地区自主防災会連合会が発足し、隣接する自主防災組織で声を掛け合い、合同訓練を実施する回数も増え、横の連携が広がっている。 【防犯】地域安全協会と学校が連携し、小中学校を対象とした防犯教室や誘拐防止訓練を実施している。また、保護者による登下校時の見守り活動を行っている。								
	課題	訓練等への参加者が固定されつつある。消防団員も不足しており、また、高齢化が進行し、後継者の育成も課題である。								
	（住民の変化声）	自主防災訓練を毎年1回行う等、一定の活動は行っているが、地区毎の活動実態に差が見られる。高齢化により、世話役や若い力が不足している。防災訓練の内容が毎年同じことへの不満がある。 避難場所が足りない。要配慮者の把握が出来ている。町からの放送（サイレン等）が聞こえづらく、内容が分からないことがある。								
	今後の展望	自主防災組織の組織化も進み、また、連合会も発足したことで、より自主防災組織同士の横の連携を高める取り組みが期待される。								
相談機能	現状	高齢は、地域包括支援センター。 障害関係は、ほけん福祉課の職員や保健師、言語聴覚士、障害者相談員（県・町）、作業所ら・ら・ら、なのはな事業所の職員。 未就園児は、赤ちゃん訪問時の保健師、ぐりぐらひろば、定期健診。 就園児は、園長や担当の保育士、幼稚園教諭。 児童は、学校教職員、ハートステーションの臨床心理士。 不登校児は、のぞみ教室。 日常的な相談は区長が役割を担っている。町内会での総会でも相談の場所となっている。 また、民生委員も独居高齢者や老々世帯を訪問し、日々相談に応じている。民生委員の活動状況による相談件数は下記のとおり。 <table><tr><td>高齢者に関すること</td><td>355 件</td></tr><tr><td>障害者に関すること</td><td>13 件</td></tr><tr><td>子どもに関すること</td><td>68 件</td></tr><tr><td>その他</td><td>93 件</td></tr></table>	高齢者に関すること	355 件	障害者に関すること	13 件	子どもに関すること	68 件	その他	93 件
	高齢者に関すること	355 件								
	障害者に関すること	13 件								
	子どもに関すること	68 件								
その他	93 件									
課題	どこで誰が地域の中で相談できるのかわからない。									
（住民の変化声）	地域のご意見番と呼ばれる方などが高齢化したこともあり、相談出来るような人材がいない。									
	今後の展望									

社会福祉協議会との関わり	現状	社協だよりの全戸配布や各種募金活動に協力をしている。H24年度開催の地域出番会議には地域住民、地域団体の代表者が参加。また、支会助成金を活用して地区民の体育祭を実施。 町社協が行う事業やその他、団体等への参加協力を行っている。
	課題	町社協の事業や活動内容の周知不足。
	(住民の声) 変化	
	今後の展望	
その他		加茂山の桜をもっと宣伝したい。 地区として、一斉清掃以外でも公園の清掃（除草）を行っている。 身近に図書館、ぐりぐらひろば、病院、役場が揃っており、子どもたちに声かけしてくれる大人が多い。 狭い路地が多く見通しが悪いので(車がそれなりにスピードを出して走っている)交差点でのカーブミラーの設置(脇道含む)や、この地区に住む人以外の車の通り抜けが多いので交差点に段差の設置を望む声がある。 ・訪問介護：4（ニチケアセンター）（ホームヘルパーステーション「あいの」）（ヘルパーステーションささえ）（ヘルパーステーション優花） ・通所介護：2（デイサービス駅前ゆとりあ）（デイサービスセンター「あいの」） ・通所リハビリテーション：2（いの町立介護老人保健施設仁淀清流苑）（通所リハビリテーション西村） ・訪問看護：1（いの町立訪問介護ステーション） ・介護老人保健施設：1（いの町立介護老人保健施設 仁淀清流苑） ・介護老人福祉施設：1（いの町立特別養護老人ホーム 偕楽荘） ・介護療養型医療施設：1（いの町立国民健康保険 仁淀病院） ・認知症対応型共同生活介護：3（グループホームゆとりの里）（グループホーム アビタシオン微風）（グループホーム アビタシオン青空） ・小規模多機能型居宅介護事業所：1（小規模多機能型居宅介護アビタシオン青空） ・短期入所：1（ら・ら・らホーム） ・就労継続支援B型：2（作業所ら・ら・ら）（就労継続支援B型事業所「なのはな」） ・共同生活援助（グループホーム）：1（ら・ら・らホーム）

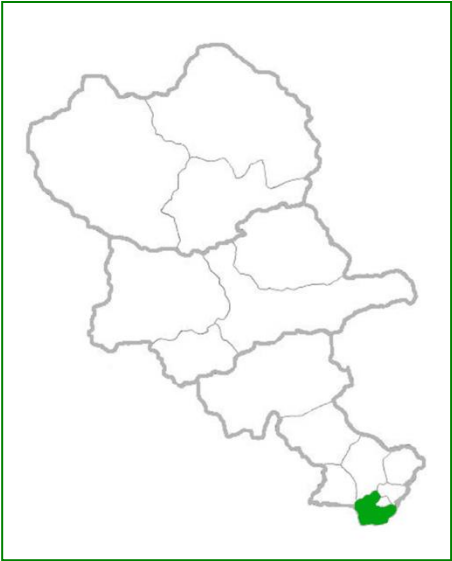
3	地域座談会から出た「将来、自分たちにできること、これからしたいこと」
○近隣の方と親しくなることにより、困ったことがないか自分から情報を得たい ○高齢化対策として自助・共助の体制（グループ）を作りたい ○次世代育成プロジェクトのスタート ○障害者の方への励ましを心掛ける ○近所の人と声の掛け合いをする（あいさつ、呼びかけ等） ○民生委員の活動を知ってもらう ○地区内で自由に畑や花壇ができる場をつくりたい	

2 八 田（伊野地区）

1 地域の概況

町の南端に位置し、南は高知市春野、西が土佐市となる。地区内の生活道路は、以前は車の行き違いが難しい狭い道が多かったが、新宇治川放水路事業に伴う八田地区環境整備事業によって道路幅が拡張され、車の通行が容易となった。

全域が市街化調整区域のため農地の保全が図られており、特に施設園芸が盛んに行われている。地元活動が活発であり、地域コミュニティに積極的に取り組んでいる。



人口や世帯数等（基準日 平成 28 年 3 月 31 日 住民基本台帳人口より）

行政区																					
八田1、八田2、八田3、八田4、八田5																					

世帯数		人口			高齢者数・率				独居高齢者数※		介護認定者数		障害者数		出生数		0～就学前乳幼児数		6～14才児童・生徒数	
					数		率													
H23	H28		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
344	325	男	356	334	96	118	27.0	35.3	6	9	20	18	38	33	1	1	9	5	18	16
		女	432	383	156	166	36.1	43.3	24	24	41	36	30	24	0	0	11	7	18	18
		計	788	717	252	284	32.0	39.6	30	33	61	54	68	57	1	1	20	12	36	34

※「独居高齢者数」は地域見守り台帳登録者より

地域資源（基準日 平成 28 年 4 月 1 日）

公民館	0	中学校	1	警察・駐在所	0	高齢・障害者等福祉施設(名称・数)
集会所	1	高等学校	0	消防署・屯所	1	
避難所	4	役場・支所	1	医療機関	0	
幼稚園	0	郵便局	1	量販店	0	
保育園	1	図書館	0	金融機関	1	
小学校	1	社協・支所	0			

2	地域福祉(活動)計画小地域エリア別分析結果票（八田） （各項目は、アンケート調査・地域座談会・ワーキングチーム会・策定委員会などの意見を反映して記載しています。）		
地域のつながり	現状	地区運動会（スポーツフェスティバル）が開催され、企画、準備、選手集め、競技者、観戦者等一同に集まる場があった。 ミニデイサービスが再開した。 手芸のグループができた。 呼びかけたらすぐに協力してくれる人が多い。協力的。	
	課題	近所との付き合いが、困ったときには出来ない事例がある。 コミュニティセンターが中心部にあるが、いつでも自由に使える場所ではない。 公園がなく、子どもが遊べる場所がない。	
	(住民の声) 変化	地区運動会（スポーツフェスティバル）が開催され、企画、準備、選手集め、競技者、観戦者等一同に集まる場があった。 ミニデイサービスが再開した。住民に受け入れていただいて、参加者が増えている。 手芸のグループができた。 つながりが良くなった。 いろんなことを変えていく意思と能力がある。	
	今後の展望	孤立している人への地域行事への参加を「あきらめずに何度でも取り組む」そのためのツール等が必要。 誰もが自由に集まれる得意な事を教えたり、習ったり、お茶を飲みながら談笑できる場づくり。 隣同士声をかけ誘い合って集い、一人ぼっちを感じさせないような取り組み。 孤立している人に声をかけ出て来てもらう。 学校下校時の地域での子ども見守り隊がほしい。 今の活動の活発化。	
高齢	現状	るんるん若ガエル体操：2 か所（八田コミュニティセンター、奈呂集会所）で実施している。リハビリ教室卒業生やサポーター養成講座修了生が新しく加わり世話役となっている。ミニデイサービスは平成21年度をもって休止していたが、ボランティア講座修了生を中心に28年度より再開。50名を超える参加者が集う場となっている。敬老会は地区役員が中心となり企画し、地区保育園児との交流や地区住民の余興等を行っている。	
	課題	八田コミュニティセンターも奈呂集会所も、活動における会場使用料を参加者が自己負担しており、その負担感に関する声があがっている。	
	(住民の声) 変化	老人クラブの参加者が若干増えたように感じる。新規のメンバーもいるが、退会する方もいるので大きくは変わっていない。	
	今後の展望		
障害	現状	平成23年度以降障害児者地域支え合い支援事業は利用者がいない。 障害者か否か判別していない、また、町からの情報もないため不明です。また、具体的な活動の中で、障害者の参加の有無を示す事例がない。地域と言われると分からない。	
	課題		
	(住民の声) 変化	地域での障害者については分からない。	
	今後の展望		

児童・乳幼児	現状	地域内に保育園が1か所あり、月1度園庭開放が行われている。また、母子保健推進員4名が身近な相談相手として活動しており、4ヶ月健診対象者に訪問にて健診通知をお届けする「赤ちゃんおめでとう訪問」も実施している。育児相談は、平成27年度は3名が利用している。 自然が多いが、子どもの遊べる公園が地域内にない。 子どもが減少しているが、子ども会活動は継続しており、夏祭りで子ども相撲・夜店、秋の大祭ではおなばれに、当日まで練習を重ねた舞姫が参加している。おなばれ行列は伊野南小・中学校の学校行事として他地区の小・中学生も参加している。 伊野南小学校では、「ログハウス児童会」で校庭開放児童会を平日、土曜日、長期休業日等に子どもの居場所として開会している。
	課題	遊具のある公園がないため、子どもが遊べる場所がない。
	(住民の声)変化	
	今後の展望	地域内に公園を充実させ、子どもの遊び場を確保するとともに、避難訓練等で地域の連携を深め、子どもの見守りを強化する。
福祉教育・担い手	現状	町社協が伊野南小・伊野南中学校を福祉教育推進校に指定して、地域の高齢者との交流を深める活動や「障害」についての理解を深める取り組みを行うなどそれぞれの学校に見合った福祉教育を実践している。また、地域活動の担い手を育成する町主催の元気“イキイキ”ボランティア講座、地域の助けあい活動を広める取り組みとして、町社協あったかふれあいセンターが実施する生活支援ボランティア養成と地域活動を応援する「あったかまなび家」講座などを開催して担い手の育成に力を入れている。
	課題	地域活動の担い手が不足しないよう、今後も地域リーダーや若手の担い手育成が必要である。
	(住民の声)変化	
	今後の展望	男性のさらなる活性化に向けて、男の料理教室の開催。
防災・防犯	現状	【防災】毎年各種訓練等積極的に取り組んでおり、消防団とも良い連携がとれている。行政区5区で自主防災組織1組織、加入している行政区は全地区世帯数ベースでの組織率は100%。 【防犯】夜間の道路環境の安全性向上に資するため、防犯灯の新設及びLEDに交換(98灯)を予定している。
	課題	浸水害、土砂災害について、地区内に安全な避難場所を確保しきれておらず、天王地区との連携が求められる。
	(住民の声)変化	【防災】地域全体で自主防災活動を実施しており、一部の班では夜間夕方の訓練を行っている。また、保育園児の訓練も実施している。一方で訓練に参加したことがないという声もあり、周知や案内が不足している面も見られる。

	今後の展望	防災意識が高く、各種活動にも積極的に取り組んでいる。浸水害等への対策として、地区内のみならず、天王地区とも連携した取り組みが期待される。
相談機能	現状	民生委員が独居高齢者や老々世帯を訪問し、日々相談に応じている。民生委員の活動状況による相談件数は下記のとおりで、他地区と比較すると件数は多く、相談内容は、高齢者に関する相談が最も多く、次いで子どもに関する相談となっている。 高齢者に関すること 382 件 障害者に関すること 7 件 子どもに関すること 90 件 その他 243 件
	課題	気軽に相談できる環境づくり。
	(住民の声) 変化	
	今後の展望	
社会福祉協議会との関わり	現状	社協だよりの全戸配布や各種募金活動に協力をしている。H26年度開催の地域出番会議には地域住民、地域団体の代表者が参加。支会助成金については、地区老人クラブ、子ども会、地区連合会に配分している。町社協が行う事業やその他、団体等への参加協力を行っている。
	課題	町社協事業・活動の周知不足。 広報・啓発活動の強化。
	(住民の声) 変化	
	今後の展望	
その他		おたふく会が住民に受け入れて頂き、月に2、3人ずつ増えている。 コミュニティセンターがあるが、使用料が必要で、催しや会議の予約があり、いつでも集える場所ではないので、子どもから高齢者まで自由に集える場所があるといい。

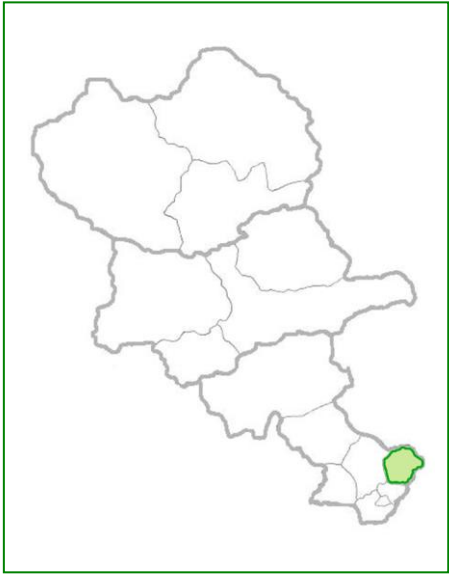
3	地域座談会から出た「将来、自分たちにできること、これからしたいこと」
○古民家喫茶として、民家で週に1回くらいしたい ○男の料理教室を開催したい ○「楽しく笑う会」をこれからも続けたい ○予告なしでの避難訓練をしたい	

3枝川（伊野地区）

1地域の概況

主に国道 33 号沿いで高知市に隣接、高速道路の伊野 IC も地区内にある。JR 土讃線、路線バス、路面電車が運行されており、利便性が高い。平成 28 年 3 月に高知西バイパス（枝川 IC～天神 IC 間）が開通し、国道 33 号の慢性的な渋滞が大きく改善された。

一方、宇治川流域である枝川地区は、上流に行くほど低くなる低奥型地形であるため、古くから浸水被害に悩まされ続け、これまで様々な治水事業が行われてきた。現在も、平成 26 年 8 月の台風豪雨に伴う床上浸水被害の解消を目指し、床上浸水対策特別緊急事業が採択され、国、県、町の三者が連携して治水事業を実施している。



人口や世帯数等（基準日 平成 28 年 3 月 31 日 住民基本台帳人口より）

行政区																					
東浦1、県住、東浦3、西浦1、西浦2、西浦3の1、西浦3の2、西浦3の3、西浦4の1、西浦4の2、西浦5、西浦6、西浦7、西浦9、藤ヶ瀬、泉の本、北浦1、北浦2、八代1、八代2																					

世帯数		人口			高齢者数・率				独居高齢者数※		介護認定者数		障害者数		出生数		0～就学前乳幼児数		6～14才児童・生徒数	
					数		率													
H23	H28		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
2634	2599	男	3039	2855	656	811	21.6	28.4	28	36	85	79	206	219	33	19	161	139	258	238
		女	3425	3217	915	1,066	26.7	33.1	130	141	163	162	167	172	29	21	163	131	293	260
		計	6464	6072	1,571	1,877	24.3	30.9	158	177	248	241	373	391	62	40	324	270	551	498

※「独居高齢者数」は地域見守り台帳登録者より

地域資源（基準日 平成 28 年 4 月 1 日）

公民館	0	中学校	0	警察・駐在所	0	高齢・障害者等福祉施設(名称・数) その他欄(44 頁)を参照してください
集会所	10	高等学校	0	消防署・屯所	1	
避難所	8	役場・支所	1	医療機関	4	
幼稚園	1	郵便局	1	量販店	1	
保育園	1	図書館	1	金融機関	4	
小学校	1	社協・支所	0			

2	地域福祉(活動)計画小地域エリア別分析結果票(枝川) (各項目は、アンケート調査・地域座談会・ワーキングチーム会・策定委員会などの意見を反映して記載しています。)		
地域のつながり	現状	枝川コミュニティセンターの夏祭りや地区のお祭りイベントは子どもたちも喜んでいる。 地区により、防災への取り組みが具体的になった。 若い人が多い。(人材がある) 防災会とミニデイサービスの一体化で活動参加が多くなっている地区もある。 登校、下校時地区住民と小学校児童の声かけができています。	
	課題	子育て世代も以前のように乳幼児や小学校などが遊んでいる姿を見かけることがなくなった。 若い人の地域活動参加が少ない。	
	(住民の 変化 の声)	自主防災組織ができた。 定年退職された方が増えてミニデイサービス等の参加者が多くなった。 地区により、防災への取り組みが具体的になった。枝川コミュニティセンターの夏祭りや地区のお祭りイベントは子どもたちも喜んでいる。続けて欲しい。増やして欲しい。 地区会のメンバーにマンションの住民に入ってもらい、若い人を入れた地区がある。	
	今後の 展望	教育現場で子どもと高齢者の交流できる場所、機会を与え、共有する時間を経験させ、より良い時間と関係を促進させる体験。 一人暮らし、障害者、高齢者の町内会のマップを作成し町内会全体で活動実行する。 料理教室等色々な意見の交流、体験等出し合える場作りを通じて人間関係のつながりや絆作り。 定年退職した人など地域の人材の活用が必要。自分を支えてきてくれている地域への貢献に生きがいを見つけ出せるような取り組み。 気軽に声掛け合える地域づくり。 親と子どもだけの縦の関係だけでなく、おせっかいな近所のおばちゃんや年齢の少し離れたお兄さんやお姉さんによる斜めの関係性を持ちたい。 枝川コミュニティセンターの夏祭りなどイベントを続けて欲しい。 子どもの見守り隊があればよい。 防災訓練に若い方や子どもの参加を多くしていきたい。	
高齢	現状	るんるん若ガエル体操は8か所(八代1区・八代2区、枝川コミュニティセンター、東浦、藤ヶ瀬、西浦1・7区、枝川南、枝川北)体操サポーターの修了生が多い地区もあり、充実した活動を継続する一方、世話役が固定化され後継者不足に悩む地区もある。ミニデイサービスは8か所で実施。人と出会い、色々なことを教わることができる場となっている。参加者も世話役も仲がよく「輪」ができています。枝川コミュニティセンターでは体操、民謡、ヨガ、生け花、絵手紙、フラダンス等、様々な活動の拠点となっている。地域支え合い支援事業として75歳以上の一人暮らし高齢者の見守りを民生委員及び支え合い協力者が実施。	
	課題	会場まで遠い、または急な階段があるなど会場の立地条件により、自力で歩いて参加できない方もいる。若い後継者がいない。後継者がいないため、高齢の世話人がやめたいけれどやめられない状況である。男性の参加者が少ない。ミニデイサービス、または体操グループ参加者が30人程度になる地域からは、「場所が狭く参加者が今以上増えたら活動が難しい」との声もある。同地区ミニデイサービスから限度額のある補助金のやりくりも課題。	
	(住民の 変化 の声)	老人クラブに入っている方の声かけにより、ミニデイサービス等の参加者が増えた。一方で、独居老人が増えたと感じる方もいる。体操グループは、参加者の高齢化で、不参加となる方も増加。枝川コミュニティセンターは、新規参加者の受け入れが困難な時期が続いたが、周辺地区に限定して受け入れることで、参加希望者の受け入れが徐々に可能となった。	
	今後の 展望		
障害	現状	居宅介護等の事業所として、「訪問介護事業所あすみ」「ヘルパーステーションささえ」の2か所がある。 短期入所指定事業所として、「ゆりかご」がある。 障害児通所支援事業所として、「VB」がある。 障害者の社会参加については、あまり障害者の方と接触が無い、どんな活動をしているのか知らない、地域での障害者の参加する活動等に参加したことがない。	
	課題	在宅にいたるようだが隣近所とのつき合いもなく、地域行事などへの参加もなく話題にもない。障害者の方はいらっしゃると思うが実態が分からない。	

	(住民の 変化 の声)	
	今後の 展望	心身障害児の家族が悩み事などを気軽に話し合え、息抜きのできる場所（サロンなど）。
児童・乳幼児	現状	第 1 期と同様に 4 か月児健診対象者に母子保健推進員（所属 15 名）が訪問にて健診受診声かけを実施している。 育児相談を枝川コミュニティセンターで実施しており、利用者が 36 名いる。 保育園と幼稚園が併設され、連携し合える環境になっている。 枝川小学校が近くにあり、児童の朝のあいさつ運動などが活発で地域と密着している。 枝川小学校校庭開放児童会の「さくらんぼ児童会」は第 1 期と変わらず放課後の児童の居場所として 18 時まで受け入れられている。
	課題	地域や近所の人々のつながりが薄い。 イベントに親子の参加が少ない。
	(住民の 変化 の声)	園舎改築により保育園と幼稚園が併設された。
	今後の 展望	地域や近所との交流を増やし、交流を深めることで子どもの見守りをより充実させると共に、子どもの成長を促す。
福祉教育・担い手	現状	町社協福祉教育推進校育成事業の取り組みの一環として、地域ミニデイサービスでの高齢者との交流や昔遊び等で地域の方々との交流がある。また地域、民生委員、学校があいさつ運動を展開している。担い手不足の中、地域のミニデイサービスは、誰もが参加できるよう間口を広げ、特に男性参加者も入りやすいような工夫をするなど、参加者が得意分野を生かし、役割をもっていきいきと活動を展開している地区もある。また、住民を対象とした、地域活動の担い手を育成する町主催の元気“イキイキ”ボランティア講座、地域の助け合い活動を広める取り組みとして、いの町あったかふれあいセンターが実施する生活支援ボランティア養成と地域活動を応援する「あったかまなび家」を開催して担い手育成に力を入れている。
	課題	地域活動の担い手が不足している地区もあり、今後も地域リーダー、若手の育成が課題である。
	(住民の 変化 の声)	今後地区会にマンションの若者の多数参加が見込まれている。
	今後の 展望	常に声かけを意識して、活動参加人数を増やし、また、自分たち出来るボランティア活動に参加出来る将来にしていきたい。
防災・防犯	現状	【防災】行政区 20 区で自主防災会組織が 11 組織あり、全行政区が加入。平成 27 年 6 月には枝川地区自主防災会連合会が発足した。防災訓練への参加率は高いが、若年層の参加が少ない。防災会とミニデイサービスを一体化し、参加者が多くなっている。 地区によっては、近隣の世帯状況の把握や独自会報を発行する等の取り組みを実施している。 【防犯】枝川地区安全パトロール隊では、犯罪の未然防止を目的に、地区内の防犯パトロールや登下校時の安全呼びかけを実施。夜間の道路環境の安全性向上に資するため、防犯灯の新設及び LED に交換（57 灯）を進めている。交通量が多く児童の登下校においては注意が必要な場所が多い。地区の空き家が増加している。
	課題	【防災】若年層の訓練参加を促すため、参加しやすい環境整備が求められる。 【防犯】免許センターや自動車学校、大型量販店があり、車の交通量が多いことや不審者情報も多いことから、子どもの安心・安全を確保する取り組みが必要。

	(住民の 変化 の声)	【防災】地区によっては独自の活動を行うのみならず、他地区との合同訓練も開催している。 一方で、活動が行われていない地区や訓練の方法が分からないといった地区もあり、住民の防災意識にバラつきがある。浸水が多い地域特性もあり、浸水発生時の安全確保に不安を感じている。 【防犯】交通量が多く、登下校が不安なので、地域の見守り活動の拡大が必要。また、不審者情報が多く、子どもが安心して遊べる環境の整備が必要。
	今後の 展望	各地区において積極的な活動が実施できており、今後は子どもの活動参加を促すことで親世代の参加にも繋げる等、活動の裾野を広げる取り組みに期待。
相談機能	現状	地域活動（区長や地区役員等）の中で顔見知りになり、相談できる場がある。また、民生委員も独居高齢者や老々世帯を訪問し、日々相談に応じている。民生委員の活動状況による相談件数は以下のとおり。 高齢者に関すること65件 障害者に関すること8件 子どもに関すること59件 その他59件
	課題	民生委員による見守り活動は地域の高齢者を支えるために重要な役割となっており、必要であれば早急に対応支援できるように民生委員のみならず、他の相談機関との連携強化が必要である。相談機能に関して目的や場所など案内や情報が不足しているとの声もあり情報の提供も必要。
	(住民の 変化 の声)	
	今後の 展望	多くの方の意見を聞く機会を多くしていきたい。
社会福祉協議会との関わり	現状	社協だよりの全戸配布や各種募金活動に協力をしている。H25年度開催の地域出番会議には地域住民、地域団体の代表者が参加。また、支会助成金を活用して、安全パトロール隊が児童の登下校の安全を守る活動を実施、町社協枝川支会が花壇の手入れ等を、児童、高齢者が交流しながら活動を展開している。
	課題	町社協事業や関係機関の活動等広く住民への周知や地域福祉活動における町社協、住民の協働の取り組みの推進が必要。
	(住民の 変化 の声)	
	今後の 展望	
その他		マンションが多いので若い人が多いが、地区の役員やイベントに巻き込んでいくことが必要。 医療機関（小児科）が少ないものの、高知市内に行くには便利な距離である。町内にはスーパーも近く、買い物には困らない。 ・訪問介護：1（訪問介護事業所あすみ） ・短期入所：1（ゆりかご） ・障害児通所支援：1（VB）

3	地域座談会から出た「将来、自分たちにできること、これからしたいこと」
○自分に出来るボランティア活動に参加したい ○防災訓練での子どもの参加を多くしていきたい ○現在あるグループ（運動、趣味）の目的を増やし、地域の再組織化につなげたい ○地域の様々な方から意見を聞く機会を多くしたい	

4 池ノ内（伊野地区）

1 地域の概況

伊野中心部から車で数分の距離にあり、高知西バイパス（枝川 IC～天神 IC 間）の開通により、これまで以上に農道伊野南線を利用する車が多くなり、特に通勤時間帯には車の通行量が多い。山間部であるが、町営バス（伊野循環線）が運行しており、伊野中心部や天王地区、高知市にも近いため、買い物、通院等利便性はよい。地区内には、道幅が狭く車の行き違いが困難な場所が多い。

池ノ内天満宮での神祭や池ノ内コミュニティセンターで活動が行われている。



人口や世帯数等（基準日 平成 28 年 3 月 31 日 住民基本台帳人口より）

行政区

山石、柿谷、向流、肩拔

世帯数		人口			高齢者数・率				独居高齢者数※		介護認定者数		障害者数		出生数		0～就学前乳幼児数		6～14才児童・生徒数	
					数		率													
H23	H28		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
192	190	男	221	208	57	62	25.8	29.8	5	5	14	5	21	22	2	0	9	14	19	16
		女	239	216	91	87	38.1	40.3	12	15	11	16	14	13	1	3	9	7	16	16
		計	460	424	148	149	32.2	35.1	17	20	25	21	35	35	3	3	18	21	35	32

※「独居高齢者数」は地域見守り台帳登録者より

地域資源（基準日 平成 28 年 4 月 1 日）

公民館	0	中学校	0	警察・駐在所	0	高齢・障害者等福祉施設(名称・数)
集会所	2	高等学校	0	消防署・屯所	1	
避難所	2	役場・支所	0	医療機関	0	
幼稚園	0	郵便局	0	量販店	0	
保育園	0	図書館	0	金融機関	0	
小学校	0	社協・支所	0			

2	地域福祉(活動)計画小地域エリア別分析結果票(池ノ内) (各項目は、アンケート調査・地域座談会・ワーキングチーム会・策定委員会などの意見を反映して記載しています。)		
地域のつながり	現状	人と会う機会が少なくなり話す機会がない。 伝統行事(お祭り)を継承している。(400年以上の神祭) みんな仲が良い サロンに男性の参加が多い。	
	課題	独居高齢者と地域のつながりがない。	
	(住民の声)変化	人と会う機会が少なくなり話す機会がない。	
	今後の展望	日常で注意ができる環境づくりが最も必要。 日頃から顔見知りを増やす。 色々な地域に広げたい活動がある。 楽しく活動できることが大事。 高齢者の知識、経験を活かす。 世代間交流をしたい。運動会(レク)復活。	
高齢	現状	老人クラブ活動：児童の街頭指導などで、子どもと関わり合いが持て、見回り活動で外へ出る機会ができた。 元気で健康になれることが良い。 ミニデイサービス(よねす会)：28年度からお世話役の世代交代がスムーズにでき、今までのお世話役も新たなお世話役を支え、活動が継続されている。年4回開催し、参加者20名程で男性参加者も半数近い。学校が休みの日には少数であるが子どもの参加もあり、世代を越えた交流もみられる。 体操グループ：池ノ内コミュニティセンターで週2回活動しており、るんるん若ガエル体操後には立位にて音楽に合わせて行う独自の体操を取り入れ、健康意識の高い参加者がいる。	
	課題	老人クラブ：人前に出たがらず、家に閉じこもる人が多い。若い世代との関わりが少なくなっている。地域に元気がない。 ミニデイサービス：参加者の高齢化により、参加者数が減少傾向である。高齢者を含む新たな方が参加できるよう関わりを考えていく。 地区が広いため、池ノ内コミュニティセンターへ自力で集うことが難しく、ミニデイサービスや体操グループには不参加となる住民がいる。	
	(住民の声)変化	独居高齢者が増えている。	
	今後の展望		
障害	現状		
	課題		
	(住民の声)変化		

	今後の展望	障害や生きづらさを抱えた子どもたちや家族への細かな支援があれば良い
児童・乳幼児	現状	出生数は３人と少ないながらも母子保健推進員が１名おり、訪問にて４か月児健診の受診の声かけを実施しており、地域の子育て支援をしている。 保育園、幼稚園小中学校はないが、隣の天王地区にあいの保育園、伊野南小学校・中学校があり、通園・通学する児童・生徒が多い。伊野南小学校校庭開放児童会の「ログハウス児童会」もあり、平日、土曜日（予約制）、代休中や長期休業の際に子どもの居場所として開放されている。 公園がないため、子どもが安全に遊べる場所がない。
	課題	公園や遊び場がないため、からだを動かしての遊びが十分行えない。
	（住民の声）変化	
	今後の展望	公園を充実させ、子どもたちがからだを動かして遊ぶ場を増やす。
福祉教育・担い手	現状	住民を対象に地域活動の担い手を育成する町主催の元気“イキイキ”ボランティア講座、地域の助け合い活動を広める取り組みとして、いの町あったかふれあいセンターが実施する生活支援ボランティア養成と地域活動を応援する「あったかまなび家」を開催して担い手育成に力を入れている。
	課題	地域活動の担い手が不足しないよう、今後も地域リーダーや若手の担い手育成が必要である。
	（住民の声）変化	
	今後の展望	
防災・防犯	現状	【防災】自主防災会の組織率は１００％だが、近年は訓練が全く実施できていない。地区内や地区間での防災課題についての共有ができていない。 【防犯】夜間の道路環境の安全性向上に資するため、防犯灯の新設及びLEDに交換（１４灯）を進めている。
	課題	防災活動が弱く、地域での防災課題の共有が必要。また、山の上方においては狭小な道も多く、災害時に安全に避難することを想定した訓練の実施等が必要。また、防災備蓄品の整備が必要。
	（住民の声）変化	自主防災会が機能していないとの意見あり。近年は防災訓練が実施できておらず、防災への緊張感の欠如を危惧する声もある。 また、避難所である池ノ内コミュニティセンターの裏山が土砂災害危険区域であることなど、避難体制について不安を感じている。
	今後の展望	地域の防災課題を共有し、できること・できないことを整理したうえで、消防団との連携等の取り組みを進めることで、共助の輪を広げる活動に期待。

相談機能	現状	平成 27 年度の民生委員の活動状況による相談は、件数としては特に上がっていない。
	課題	
	(住民の声) 変化	
	今後の展望	
社会福祉協議会との関わり	現状	社協だよりの全戸配布や各種募金活動に協力をしている。H24 年度開催の地域出番会議には地域住民、地域団体の代表者が参加。また、支会助成金を活用して地区民の体育祭を実施。町社協が行う事業やその他、団体等への参加協力を行っている。
	課題	
	(住民の声) 変化	生活困窮者への支援を強化してもらいたいという声がある。
	今後の展望	
その他		400 年以上続く神祭があり、継承していきたい。

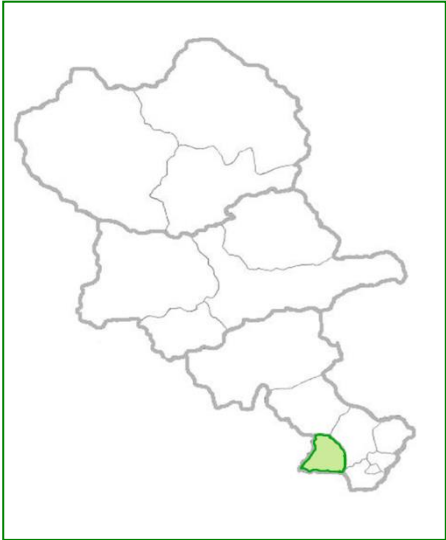
3	地域座談会から出た「将来、自分たちにできること、これからしたいこと」
○逆子ども食堂（子どもたちが料理を作り地域の人に振る舞う）をしたい ○運動会を復活させたい ○いの町の歴史の勉強、伝統（手すき等）を子どもも大人も一緒に体験したい ○ミニデイサービスをもっと盛上げたい ○ミニデイサービスや地域の集い（バーベキュー等）で地域の問題を話したい ○日頃から消防団との連携を図りたい	

5 川 内（伊野地区）

1 地域の概況

川内地区は、仁淀川右岸の上流側の波川地区と下流側の大内地区に二分される。地理的状况については、波川地区は製紙産業が古くから盛んであり、用途地域は工業地域、近隣商業地域、第1種住居地域と市街化調整区域が混在している。一方、大内地区は全域が市街化調整区域となっている。

波川地区にはJR土讃線が通り、JR波川駅は近隣の土佐市も最寄り駅として利用していることから、通勤通学の利用者が多い。



人口や世帯数等（基準日 平成28年3月31日 住民基本台帳人口より）

行政区																					
新道東1、新道東2、新道中、新道西、宮の前、宮の東、波川北、和田、金剛寺、保井谷、茂地、六部、西山、茶屋ヶ鼻、木戸、尾山、奥の谷、簡保、農大、鎌田、小鎌田、大八十、小八十、中の中、中の西、高野ヶ谷、南の東、南の中、南の西、甫岐																					

世帯数		人口			高齢者数・率				独居高齢者数※		介護認定者数		障害者数		出生数		0～就学前乳幼児数		6～14才児童・生徒数	
					数		率													
H23	H28		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
869	897	男	1,003	924	266	308	26.5	33.3	17	24	35	41	65	80	9	3	43	26	81	61
		女	1,041	1,000	347	399	33.3	39.9	44	48	67	70	74	73	6	4	36	30	74	63
		計	2,044	1,924	613	707	30.0	36.7	61	72	102	111	139	153	15	7	79	56	155	124

※「独居高齢者数」は地域見守り台帳登録者より

地域資源（基準日 平成28年4月1日）

公民館	0	中学校	0	警察・駐在所	0	高齢・障害者等福祉施設(名称・数) その他欄(52 頁)を参照してください
集会所	12	高等学校	0	消防署・屯所	2	
避難所	7	役場・支所	0	医療機関	2	
幼稚園	0	郵便局	1	量販店	0	
保育園	1	図書館	0	金融機関	1	
小学校	1	社協・支所	0			

2		地域福祉(活動)計画小地域エリア別分析結果票(川内) (各項目は、アンケート調査・地域座談会・ワーキングチーム会・策定委員会などの意見を反映して記載しています。)	
地域のつながり	現状	大内では「大内の明日をつくる会」が中心となり、空き缶などを各家庭から回収し、それらを元に得た資金で地区の防災に活かすなどの活動を継続している。 波川の一部には新しい住宅地ができ、子育て世代の転入者が増えている。 婦人会など地区活動は活発だが、活動をしている人の高齢化が進み、新しいメンバーを取り込めていないグループもある。	
	課題	従来の地区活動に若い世代や転入者をうまく取り込めていない。波川には集会所がなく集みにくい。 波川・大内・鎌田それぞれの活動になっている。 子どもが地域の行事風習に触れる機会が少なくなり、放課後の習い事などで地域や子ども同士のつながりが少なくなっている。	
	(住民の変化の声)	活動をしている人の高齢化が進んでいる。新しいメンバーの不足。	
	今後の展望	若い世代を巻き込む手段を考える。 波川・大内・鎌田の三地区が「川内地区」として一体的な活動を行う。	
高齢	現状	るんるん若ガエル体操：5か所(波川公民館、ケアハウスイの、川内集会所、中の谷(大内農村婦人の家)、南の谷コミュニティセンター)。中の谷地区は30名近い女性参加者が集う。高野ヶ谷集会所は休止中だが再開は困難な状態。 平成27年3月に軽費老人ホーム「ケアハウスイの」が完成。28年度より地域交流スペースを活用し、るんるん若ガエル体操グループを立ち上げた。また、自力で体操グループに参加できない数名の波川住民が、社会福祉協議会に委託した外出支援サービスを利用し、自主グループ参加者としてグループ活動に参加しており、虚弱高齢者・地域住民・入居者が交流する集いの場となっている。 ミニデイサービス：2か所で実施。若い世代とも交流ができ、地域で助け合いも出来ている。 敬老会：保養センターで実施し、毎年200人前後の参加がある。 老人クラブ：3単老…小学校との合同行事、仁淀川、JR波川駅の清掃、花壇の整備、敬老会の手伝い等	
	課題	ミニデイサービスは男性の参加が少ない。体操グループも含めて、会場までの移動手段がないため参加できない人もいる。世話役が他の役も担っているため、予定を合わせるのが大変。 老人クラブは、会員の高齢化が進み、会員数も年々減少している。川内集会所の体操グループは、会場の使用料を自己負担でまかなっており、その補助を要望する声があがっていた。	
	(住民の変化の声)	高齢者が多く、行事に参加できない人が増えた。また、お世話をする人も高齢化している。ミニデイサービス等の集まりに参加して下さる方は多い。新道の整備により一気に地区における交通量が増え、事故を心配する声が座談会や地域出番会議でも多くきかれる。また、南の谷地区が冠水するため、その対策を願う声が座談会でできた。	
	今後の展望	川内集会所の体操グループは、活動場所と曜日を変更することとなり、波川公民館で活動開始予定。	
障害	現状	指定自立支援医療機関(精神通院医療)の石川記念病院がある。 グループホーム指定事業所として、ホームいのがある。 近隣の病院で夏祭りがあり、婦人会として参加したことがある。情報がなく、特に何かを行っている聞いたことがないため分からない。	
	課題	情報がない。	
	(住民の変化の声)	地域での障害者については、情報がなく分からない。	

	今後の展望	
児童・乳幼児	現状	出生数が7名と少ない地区だが、母子保健推進員が1名おり、4か月時健診の受診の声かけを実施している。育児相談利用者が4名いる。 保育園や小学校があり、子どもたちが地域の人に挨拶や声かけなど見守られていると感じており、昔ながらの交流ができています。川内小学校には「たんぽぽ児童会」があり、平日や毎月第3土曜日や長期休業日等にも開催している。
	課題	公園が波川に2か所あるが、その他の地域にはないために遊ぶ場が少ない。
	(住民の声) 変化	
	今後の展望	子どもを安全に遊ばせられる公園や広場を確保する。
福祉教育・担い手	現状	住民を対象に地域活動の担い手を育成する町主催の元気“イキイキ”ボランティア講座、地域の助け合い活動を広める取り組みとして、いの町あったかられあいセンターが実施する生活支援ボランティア養成と地域活動を応援する「あったかまなび家」を開催して担い手育成に力を入れている。
	課題	ボランティア講座が開催されていることは知っているものの、「高齢により参加できない」や「まだ必要がない」「仕事のため時間がない」という理由で参加されない方がいる お世話人の高齢化。今後は若者のボランティア活動や地域行事への参加協力が必要。
	(住民の声) 変化	
	今後の展望	
防災・防犯	現状	【防災】行政区30区で自主防災組織数10組織、全行政区が加入しており、平成27年4月には川内地区自主防災会連合会が発足した。平成28年9月の防災訓練では、自主防災会関係機関等を合わせ約200名が参加し、情報伝達訓練、避難訓練、救急法訓練、炊き出し訓練等を実施した。 【防犯】高知西バイパスの開通に伴う交通量の増加により、鎌田IC及び波川交差点付近での登下校の安全確保に不安が残る。 夜間の道路環境の安全性向上に資するため、防犯灯の新設及びLEDに交換(41灯)を進めている。
	課題	【防災】高知西バイパスの開通に伴う交通量の増加により、鎌田IC及び波川交差点付近での登下校の安全確保が不十分。また、避難路が危険で通れないといった声もあり、地域でより安全な避難経路の見直し等も検討の余地あり。
	(住民の声) 変化	自主防災組織活動により地域のつながりが増えた。救護救命訓練、地震対策はしているが、避難訓練はしていない。 暗い場所が無いように街灯の設置が必要。 西バイパスの開通により交通量が増え、子どもの登下校に不安を感じている。信号無視をする車もあり、地域の見守り活動(パトロール等)が必要ではないか。 独居者が緊急時に安心して連絡できる体制の構築が必要ではないか。
	今後の展望	地区の自主防災会組織化も完了し、避難訓練等を含めた活動の取り組み拡大が求められる。一方で、交通量の増加に伴い、鎌田IC及び波川交差点付近での登下校の見守り活動や災害時におけるより安全な避難体制の構築や避難路の確保が求められており、地区内での課題の共有が必要。

相談機能	現状	民生委員を通じて、町や町社協へ相談がつながるケースがある。民生委員の活動状況による相談件数は下記のとおり。 高齢者に関すること 23 件 障害者に関すること 5 件 子どもに関すること 0 件 その他 24 件
	課題	どこで、誰に相談すればよいのか分からない。
	(住民の声) 変化	
	今後の展望	
社会福祉協議会との関わり	現状	社協だよりの配布や各種募金活動に協力をしている。助成金を活用して地区民の体育祭を実施。町社協が行う事業やその他、団体等への参加協力を行っている。
	課題	町社協の事業や活動内容の周知不足。
	(住民の声) 変化	
	今後の展望	
その他		交通機関として波川駅がある。 人口が減り、空き家が増えた。 西バイパスが通っているが、交通量が増えて危険。 自然が豊か。 農業大学校がある。 ・訪問介護：1（ヘルパーステーションいの） ・通所介護：2（デイサービスかわうち）（石川記念病院デイサービスセンターあがわ） ・ケアハウス：1（ケアハウスいの） ・共同生活援助（グループホーム）：1（ホームいの）

3	地域座談会から出た「将来、自分たちにできること、これからしたいこと」
○3地区（大内、鎌田、波川）が一体となった行事（川内まつり的な）をしたい ○地域の行事に若い人も巻き込みたい ○安心、安全で楽しく過ごせる地域にしたい ○空き地を農業をしたいという人に貸し出す仕組みをつくりたい ○波川の仁淀川の散策道を有効活用したい	

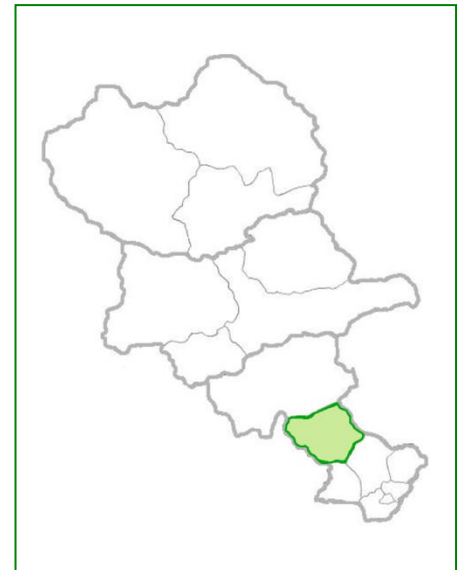
6 神 谷（伊野地区）

1 地域の概況

役場本庁舎から国道194号を吾北・本川方面に数キロ入った仁淀川中流域に位置する。山間部の集落へのアクセスは、道幅が狭く車の行き違いが困難な場所が多くあり、加田、奈呂、保木、野久保、鹿敷地区では、豪雨による仁淀川増水時に浸水被害が度々起きる。現在は加田地区で堤防工事が進行中である。

鹿敷地区の道の駅土佐和紙工芸村は、地元の人が育てた野菜などを出荷、販売しており、地域の交流の場になっている。また、紙漉きや機織り、仁淀川ではカヌーやラフティング等の体験ができ、薬湯風呂や宿泊施設もあるため観光客も多い。

成山地区の、成山七色の里には、健康器具などが整備されており、山間部にもかかわらず町外の利用者が訪れる。



人口や世帯数等（基準日 平成28年3月31日 住民基本台帳人口より）

行政区

加田、奈呂、毛田、保木、野久保、鹿敷、小野、成山本村、北成山

世帯数		人口			高齢者数・率				独居高齢者数※		介護認定者数		障害者数		出生数		0～就学前乳幼児数		6～14才児童・生徒数	
					数		率													
H23	H28		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
587	578	男	604	550	223	241	36.9	43.8	20	17	26	38	78	62	1	1	18	11	21	26
		女	653	599	346	340	53.0	56.8	69	73	60	83	71	69	2	1	15	15	19	19
		計	1,257	1,149	569	581	45.3	50.6	89	90	86	121	149	131	3	2	33	26	40	45

※「独居高齢者数」は地域見守り台帳登録者より

地域資源（基準日 平成28年4月1日）

公民館	0	中学校	1	警察・駐在所	0	高齢・障害者等福祉施設(名称・数) その他欄(56頁)を参照してください
集会所	8	高等学校	0	消防署・屯所	3	
避難所	8	役場・支所	0	医療機関	1	
幼稚園	0	郵便局	1	量販店	0	
保育園	1	図書館	0	金融機関	1	
小学校	1	社協・支所	0			

2		地域福祉(活動)計画小地域エリア別分析結果票(神谷)	
		(各項目は、アンケート調査・地域座談会・ワーキングチーム会・策定委員会などの意見を反映して記載しています。)	
地域のつながり	現状	自主防災組織の発足による活動の増加や、老人クラブ、自治会活動が増えたと感じている。	
	課題	地区の園児の減少により神谷保育園への入園が減っており(伊野地区の保育園に入園)、それに伴い神谷小学校への入学が減少。そのことがさらに神谷保育園への入園減少と悪循環を招いており、地区内の世代間交流が減っている。高齢化が進む一方、地区内で後継者が育っていない。	
	(住民の声)	高齢化により地区活動への参加者の減少を感じる一方、自主防災組織の発足による活動で地域のつながりが増えたと感じている住民もいる。	
	今後の展望	世代間の交流がしにくくなっているので、住民間の交流を図れる場づくり。防災訓練など小地域での取り組みが難しい活動は神谷地区全体で実施する。	
高齢	現状	体操グループが加田、保木、野久保、鹿敷、小野、成山において週1～2回活動し、定期的に皆で顔をあわせるので、お互いに気をかけ合える等地域の交流の場となっている。鹿敷や野久保は男性が世話役を担っている。小野にも男性の参加者がいるが、女性ばかりのグループは、男性が参加しづらい傾向がある。ミニデイサービスは地区によって活動は異なるが、掃除、花の植え替え、会食など様々。老人クラブが主体で体操やミニデイサービス活動を行っている地区もある。保木地区には、民生委員の提案で地域住民数人が1組になり、担当する世帯を決め要望があれば24時間体制で見守りや助け合い活動を行うという独自の体制整備を行っている。また同地区では毎月1日に婦人会メンバーが集まり、調理や会食を楽しむ集いがある。	
	課題	後継者不足。男性の参加者が少ない。妻は参加していても夫は家に閉じこもっているケースもある。地区の高齢化でお世話役の業務(会計報告、計画など。)が負担となり、ミニデイサービスを止めて体操に切り替えたところもあるが集会所でまったく活動がない地区もある。集会所までの移動手段がなく、集うことが困難な住民もいる。	
	(住民の声)	高齢化により、地区の集まりに参加したくてもできない人が増えてきた。老人クラブが廃止になった。新しい住民も増えていない。	
	今後の展望		
障害	現状	社会参加どころか病弱者同士で問題にならない。障害者があまりいない。誰が障害者なのか分からない。	
	課題	障害者が外に出る機会が少ない。	
	(住民の声)	地域での障害者については、障害者が外に出る機会が少なく社会参加は変わらない。また、誰が障害者なのか分からない。	
	今後の展望		

児童・乳幼児	現状	神谷保育園があり、平成 27 年度は 8 名在籍しているが、平成 24 年度からすると年々減少してきている。母子保健推進員が不在であるため「こんにちは赤ちゃん訪問」等は実施できていない。 また、子どもが少なく、集まれる場所や参加できる行事は少ないが、育児相談は 2 名利用している。
	課題	公園等がなく、子どもが遊べる場所や集える場所がない。また同世代・同学区の子どもが学区外へ通っているため、児童数も少なく、同級生も少ない。
	(住民の変化の声)	
	今後の展望	神谷小・中学校の良いところを知ってもらい、地元の子どもが地元の学校に通うようにしたい。そのためにも、地域の交流や風習に触れる機会を増やし、地域全体で子どもたちを見守れるように、世代を超えた出会いや集まれる場所を設けたい。
福祉教育・担い手	現状	町社協福祉教育推進校育成事業の取り組みの一環として、地域行事（敬老会への参加、夏祭り、地区運動会等）への参加、伝統文化発表会へ地域住民を招待する取り組み等を実施。また、地元成山の手入れ作業を全校生徒で行うなど学校を核とした地域づくりを推進している。また、住民を対象に地域活動の担い手を育成する町主催の元気“イキイキ”ボランティア講座、地域の助け合い活動を広める取り組みとして、いの町あったかふれあいセンターが実施する生活支援ボランティア養成と地域活動を応援する「あったかまなび家」を開催して担い手育成に力を入れている。
	課題	地域活動の参加者が減少、固定化されている。山間部（小野、成山）は若い人が少ないことから担い手不足が課題
	(住民の変化の声)	
	今後の展望	
防災・防犯	現状	【防災】平成 27 年 4 月に神谷地区自主防災会連合会が発足。行政区 11 区で自主防災組織 8 組織、全行政区が加入しており、組織率は 100%となったが、高齢化が進行している。 神谷小中学校避難所運営マニュアルを策定し、災害時の初動体制確立について、より実践的な訓練を行う等、防災に対する意識が高い。地区によって活動状況に差があるが、婦人会が積極的に活動しており、古くなった防災備蓄品の更新等を行っている。積極的に活動する地区が出前訓練を行う等、地区間を越えた取り組みも検討している。さらに、小野成山線の避難路整備や各消防分団への小型動力ポンプ付積載車整備が順次進む等、地域の防災力も向上している。 【防犯】地域安全協会と学校が連携し、小中学校を対象とした防犯教室や誘拐防止・不審者対応訓練を実施している。また、夜間の道路環境の安全性向上に資するため、防犯灯の新設及び LED に交換（25 灯）を進めている。
	課題	自主防災組織の組織化も完了し、様々な活動を行う土台が出来上がっているため、活動内容の充実・強化が求められる。 また、高齢化が進んでおり、今後の後継者育成の観点からも、若年層への活動内容の周知について工夫が必要。
	(住民の変化の声)	自主防災組織が出来たばかりの地区もあり、今後の防災訓練実施への意識は高まっているが、高齢者が多く体力的な問題からも参加できていない状況がある。防災訓練については、地区を越えて神谷一帯での取り組みを望む声もある。若年層との意見交換の場が必要と感じている。
	今後の展望	マンパワーに優れ、取り組みへの意識も非常に高いことから、地区内のみならず、地区間の活動の充実・強化にも期待ができる。 活動を通じて若年層との交流を図ることで、後継者の育成にも期待。

相談機能	現状	保木地区では、婦人会が家事支援等の困りごとなどを助けあう「サポート会」を立ち上げている。地域の人がパイプ役になり困った人と役場をつないでいる。困ったときは町社協に相談している。 民生委員等への相談として活動状況による相談件数は下記のとおり。 高齢者に関すること 16 件 障害者に関すること 1 件 子どもに関すること 6 件 その他 12 件
	課題	民生委員による見守り活動は地域の高齢者を支えるために重要な役割となっており、必要であれば早急に対応支援できるように民生委員のみならず、他の相談機関との連携強化が必要である。また相談機関の情報不足もあるため、場所や目的を明確にした広報や情報提供が必要。
	(住民の声) 変化	
	今後の展望	
社会福祉協議会との関わり	現状	社協だよりの全戸配布や各種募金活動への協力。H27年度開催の地域出番会議には、地域住民や地域活動団体の代表者が参加。また支会助成金を活用して敬老会、地区民運動会、英霊会へ助成。町社協が行う事業やその他、団体等への参加協力を行っている。
	課題	町社協事業や関係機関の活動等広く住民への周知や地域福祉活動における町社協、住民の協働の取り組みの推進が必要。
	(住民の声) 変化	
	今後の展望	
その他		イベント等があっても広報の周知が全体にいきわたらず、内容が見てもらえない。 山間部は道が狭く、若い人を呼び込むのも不便。 ・介護療養型医療施設：1（さくら病院） ・認知症対応型共同生活介護：1（グループホーム加田）

3	地域座談会から出た「将来、自分たちにできること、これからしたいこと」
○ミニデイに男性も参加させたい ○神谷地区全体で防災訓練をし、炊き出しなど訓練を子どもにも見せて学習させたい ○婦人会を中心とした活動に若い人を巻き込みたい ○様々な取り組みをしていることを多くの人に知ってもらいたい	

7 三 瀬（伊野地区）

1 地域の概況

伊野地区中心部から車で約25分程度の距離にあり、仁淀川に面した山間部である。県交北部交通路線バスが、1時間に1本程度で運行している。また、中追地区では町デマンド式乗合タクシーも利用されている。

住民の主な交通機関はバスか自家用車となり、交通手段が限られるため、高齢になっても車の運転をする人が多い。

国道194号から離れた山間部には量販店等がなく、移動販売等に頼っている。

中追地区は災害等による山崩れなどで道が塞がれた場合には、陸の孤島になる。



人口や世帯数等（基準日 平成28年3月31日 住民基本台帳人口より）

行政区																					
楠瀬、柳瀬、石見、柏原、出来地、西の谷、北谷、弘瀬、込谷、長原比下、長原比上、中追東、中追西																					

世帯数		人口			高齢者数・率				独居高齢者数※		介護認定者数		障害者数		出生数		0～就学前乳幼児数		6～14才児童・生徒数	
					数		率													
H23	H28		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
334	310	男	312	251	133	99	426	39.4	13	11	21	29	32	26	1	0	6	2	11	10
		女	334	302	159	150	47.6	49.7	28	41	47	47	36	39	0	1	6	4	9	12
		計	646	553	292	249	45.2	45.0	41	52	68	76	68	65	1	1	12	6	20	22

※「独居高齢者数」は地域見守り台帳登録者より

地域資源（基準日 平成28年4月1日）

公民館	0	中学校	休校2	警察・駐在所	1	高齢・障害者等福祉施設(名称と数) その他欄(60頁)を参照してください
集会所	8	高等学校	0	消防署・屯所	3	
避難所	9	役場・支所	0	医療機関	1	
幼稚園	0	郵便局	2	量販店	0	
保育園	0	図書館	0	金融機関	2	
小学校	休校3	社協・支所	0			

2		地域福祉(活動)計画小地域エリア別分析結果票（三瀬） （各項目は、アンケート調査・地域座談会・ワーキングチーム会・策定委員会などの意見を反映して記載しています。）	
地域のつながり	現状	自主防災組織の発足による活動が増えている。 人口は減っているがその分、一人ひとりのつながりが多くなったと感じている住民もいる。（お互いの顔が見える関係） 地区内のレストランで定期的に地域福祉の会合が行われている。	
	課題	人口減少のため、活動が少人数で行わなければならない、他地区と同じような活動ができない。 60歳代が若い世代になっており、山の伐採など地域で行いたい活動が人手不足でできない。 地区内で活動の活発度合いに差が生じている	
	（住民の変化声）	人口が減っている分、一人ひとりのつながりが多くなった。 自主防災組織の発足による活動でつながりが増えた。	
	今後の展望	60歳代が若いといわれる地区なので、高齢者に寄り添った組織づくりや活動が必要。 子育て世代も巻き込んだ世代間交流を行う。	
高齢	現状	ミニデイサービス4か所、るんるん若ガエル体操は7か所（出来地、柳瀬小学校、楠瀬、西の谷、勝賀瀬、中追東、中追西）ある。ミニデイサービスもるんるん若ガエル体操グループもない地区がある一方で、集いの場があっても、そこまでの移動手段がなく、不参加となっている住民もいる。地区によっては、80歳代の高齢者が世話役となり90歳代の参加者らを支えている。集いの場までの移動手段がないため、後期高齢者が自動車の運転をせざるを得ない状況。平成24年に出来地小学校の校舎を改修して厨房を設置し、ヘルスメイトを中心として地域住民数名が調理・弁当の宅配を実施。町内でも貴重な配食サービスとなっている。	
	課題	高齢者が多い。移動手段がないと活動の広がりがもてない。病気等で生活障害がでてきた時には、家が点在していることもあり、高齢者同士の助け合いだけでは環境的に在宅生活の継続が困難になる場合が多い。	
	（住民の変化声）	空き家が増え、高齢者が増えた。高齢化や一人暮らしの高齢者世帯が増えたため、ミニデイサービス等の活動の継続や参加が難しくなった。住民は高齢化で動けないので、役場に動いてほしい。体操グループの参加者は80歳後半～90歳代の方も多く、5年後には集うこと自体が困難になるかもしれないので、度々訪問してほしいとの声がきかれた。	
	今後の展望		
障害	現状	障害者が減り、参加する人がいなくなった。障害者というか外出する高齢の方が減ってきた。障害者がいるか分からない、知らない。	
	課題	ミニデイサービスなど行う集会所が階段で登れないためお誘いできない。社会参加どころではない高齢者になっている。	
	（住民の変化声）	障害者というか外出する高齢の方が減ってきた。	
	今後の展望		

児童・乳幼児	現状	現在、保育園・幼稚園はなく、他の地区への通園が必要である。また、母子保健推進員もおらず、「おめでとう赤ちゃん」訪問等が実施できていない。しかし、育児相談の利用者もあり、子育て支援にはつながってきている。地区には小学校もなく、遊べる場所、集まれる場所がない。また保育園・幼稚園と同様に学区外へ子どもが通っており、地区内に同級生が少ない。また、子どもたちは通学バスの時間があるため、早い時間での帰宅が必要となり、なかなか思う存分遊べていない。
	課題	子どもの数が減少してきているため、学校や地元の行事が満足にできていない。また子どもの数が少ない分、他校との交流（幼稚・保育・小学校含め）を活発にしていける必要がある。
	（住民の声） 変化	子どもが増えたように感じる地域もある。
	今後の展望	
福祉教育・担い手	現状	民生委員としてできる限り相談に乗っていく。色々な人と交流したり、勉強会をしたりする。やる気のある人とそうでない人との差が大きい。そうでない人は、やる気はあっても、仕事等で忙しい、また、自分のことで手一杯という声がある。 住民を対象に地域活動の担い手を育成する町主催の元気“イキイキ”ボランティア講座、地域の助け合い活動を広める取り組みとして、いの町あったかられあいセンターが実施する生活支援ボランティア養成と地域活動を応援する「あったかまなび家」を開催して担い手育成に力を入れている。
	課題	少子高齢化が進み、地域の担い手不足が深刻である。
	（住民の声） 変化	
	今後の展望	
防災・防犯	現状	【防災】平成 27 年 10 月には三瀬地区自主防災会が発足。行政区 11 区で自主防災組織 6 組織、全行政区が加入しており、組織率は 100%となったが、高齢化が進行している。（52.8%） 各消防分団に小型動力ポンプ付積載車が順次整備されるなど、地域の防災力が向上している。 【防犯】生活安全（防犯・非行防止）教室など啓発活動の実施や、教職員を対象とした防犯研修の継続に加え、夜間の道路環境の安全性向上に資するため、防犯灯の新設及び LED に交換（20 灯）を進めている。
	課題	地区のほぼ全域が土砂災害の危険個所であるため、避難所へ安全に避難することを想定した訓練が必要。また、災害時の道路状況によっては孤立する地区も想定されることから、防災備蓄品の更新や充実が必要である。
	（住民の声） 変化	放水訓練や夜間訓練、炊き出し訓練等が行われているが、自主防災組織の会への参加者が少なく、防災に対する危機感の欠如を指摘する声もある一方、防災訓練の毎年開催を望む声もある。 警察がよく巡回してくれるので、安心感がある。
	今後の展望	地区のほぼ全域が土砂災害の危険個所であるため、各訓練の継続的な実施に加え、安全に避難することを想定した訓練が必要。そのために近隣世帯の状況把握や防災課題の共有化に期待。

相談機能	現状	全体的に相談件数が多くなっている。 民生委員等への相談として活動状況による相談件数は下記のとおりで、高齢者に関する相談が多くなっている。また民生委員の家庭訪問を楽しみに待っているという声がある。 高齢者に関すること 139 件 障害者に関すること 36 件 子どもに関すること 16 件 その他 53 件
	課題	高齢化が進み、次世代の育成が望まれるが、若い人は日中仕事で忙しく、交流の機会をもちにくい。 意見を出しても実践されなかったり、話が通らなかったりすることがある。
	(住民の声) 変化	
	今後の展望	
社会福祉協議会との関わり	現状	民生委員として町社協と定期的に関わりをもっている声、また、町社協から発信される各種案内をみて、積極的に行事に参加しているという声がある。
	課題	協働して気軽に参加できる行事の実施。
	(住民の声) 変化	
	今後の展望	
その他		地区が広いので、地区によって活動等に差が生まれる。 祭りごとの世話人、消防団の担い手がいらない。 地域にレストランがあり、ボランティアで地域の会合等に場所を提供してくれる。 休校になった校舎を活用したい。 ・通所介護：1（デイサービスセンター中追） ・認知症対応型共同生活介護：2（グループホーム福寿の家）（グループホーム柳瀬）

3	地域座談会から出た「将来、自分たちにできること、これからしたいこと」
○古民家を開放して持ち寄り喫茶店をしたい ○休校の学校の施設を活用したい ○平日は30代～の若い世代がいないので、休日に世代間の交流ができる催しをしたい ○民生委員としてこれからもできる限り、地域の方からの相談に応じたい ○住民全体で仲良く楽しく暮らしたい	

8 天王（伊野地区）

1 地域の概況

平成元年頃に整備された新興住宅地であり、県道を挟んで天王北と天王南に分かれた高台にある大型団地である。新築する場合に建築協定が定められている。また緑化協定もあり、美化活動にも積極的に取り組んでいる。

宅地造成時には子育て世代を中心に人口が増加したが、現在は大幅に増える見込みはない。近年は、子ども世代と同居のために新たに町内や県外から転入する高齢者がいる。公共交通機関はバスであり、高知市針木地区と隣接している。

毎年夏に「天王まつり」を盛大に開催している。



人口や世帯数等（基準日 平成28年3月31日 住民基本台帳人口より）

行政区

天王南1、天王南2、天王南3、天王南4、天王南5、天王南6、天王南7、天王南8、天王南9、天王北1、天王北2、天王北3、天王北4

世帯数		人口			高齢者数・率				独居高齢者数※		介護認定者数		障害者数		出生数		0～就学前乳幼児数		6～14才児童・生徒数	
					数		率													
H23	H28		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
1,531	1,583	男	2,151	1,995	233	350	10.8	17.5	7	11	25	35	93	111	11	7	61	64	167	117
		女	2,349	2,164	327	429	13.9	19.8	22	34	71	80	60	82	9	9	64	41	196	125
		計	4,500	4,159	560	779	12.4	18.7	29	45	96	115	153	193	20	16	125	105	363	242

※「独居高齢者数」は地域見守り台帳登録者より

地域資源（基準日 平成28年4月1日）

公民館	0	中学校	0	警察・駐在所	1	高齢・障害者等福祉施設(名称と数) その他欄(64頁)を参照してください
集会所	15	高等学校	0	消防署・屯所	0	
避難所	3	役場・支所	0	医療機関	3	
幼稚園	0	郵便局	1	量販店	1	
保育園	1	図書館	1	金融機関	1	
小学校	0	社協・支所	0			

2		地域福祉(活動)計画小地域エリア別分析結果票(天王)	
		(各項目は、アンケート調査・地域座談会・ワーキングチーム会・策定委員会などの意見を反映して記載しています。)	
地域のつながり	現状	老人クラブや子ども会、あい愛ネットワークなど組織が多くあり活動が行われている。(地域の担い手はたくさんいる)近隣住民同士のつながりが少ないと感じている人もいる。	
	課題	高齢者の増加と子どもの減少が急に進んでいる 近隣住民同士が互いになじみのない関係性がある 天王コミュニティセンターの利用者が多いため気軽に利用できない反面、各町内会に集会所が設置されているが利用頻度が少なく有効活用されていない。 活動している組織間の交流が少ない。 地元に消防団がない。(火災時には八田・池ノ内の消防団の力を借りなければならない)	
	(住民の声)変化	子どもが減り子どもの行事が減った 一斉清掃など近隣が集まる機会を活用し、身近なところから親睦を図っている。	
	今後の展望	天王内で話し合える場をつくる。(地域出番会議の実施) 近隣同士が顔なじみになり気軽に会話ができる関係づくり(町内会単位で忘年会やもちつきの企画) ちょっと困った時に近隣同士で支えあえる仕組みづくり。 子どもも高齢者も集える場づくり	
高齢	現状	老人クラブの活動が活発であり、気になる高齢者には声をかけていくなどの意識を持って活動している。天王コミュニティセンターでミニデイサービス等数多くの団体が定期的に活動を継続しており、住民にとって多様な活動の拠点となっている。るんるん若ガエル体操は2か所(天王コミュニティセンター・天王南3丁目)実施。若い世代との交流が少ない。独居高齢者が少ない。	
	課題	近所に引っ越ししてきた高齢者をサークルなどに誘いたい、家の中にいて声をかけにくいなどの声がかかれ、特に高齢者に関する新たなコミュニティを築いていく必要がある。子どもたちとの同居のため転入したものの、近所に自分と同じ世代の高齢者がいるということを知らぬまま生活している高齢者の声をきくことがあり、安心につながるような様々な啓発活動が必要である。	
	(住民の声)変化	高齢者が増えた。見守り、支えあいが必要な人の声が聞こえてこない。	
	今後の展望	既存の体操グループまで歩いて参加できないという声があり、3か所目の立ち上げを目指したい。	
障害	現状	指定自立支援医療機関(精神通院医療)の天王診療所がある。 障害者の方が少ない。イベントなどには声をかけて参加をすすめている。	
	課題	あまり地域のつながりがもてない。	
	(住民の声)変化	地域での障害者についてはつながりがもてないため変わらない。	
	今後の展望		

児童・乳幼児	現状	あいの保育園では、町内で唯一、一時保育を実施しており、アレルギー対策にも積極的に取り組んでいる。また、0歳児保育も実施しており、全体で86名が入園している。(平成28年3月31日時点)入園者数は平成25年度の114名から平成27年度では86名と約30名近く減少している。また、母子保健推進員は12名おり、「赤ちゃんおめでとう訪問」等の活動も行われている。 他にも天王コミュニティセンターで保健師や管理栄養士等による育児相談も実施しており、11名が利用している。(平成28年3月31日時点) 伊野南小中学校の生徒によるあいさつ運動も実施されており、地区を明るくするのに貢献している。また、伊野南小学校では「ログハウス児童会」という校庭開放児童会がある。 しかし、子どもの数は減少しており、子ども会が解散したり、サッカーや野球、バスケ等の集団競技のチームが組めなくなってきた。公園は各区域にあるが、遊具等が古くなってきている。
	課題	子どもが減ってきており、集団競技のチームが組みにくい状況になってきている。 親子で交流できる場所また、親子で行ける場所が少なく、公園も遊具が古くなってきており、子どもが遊べるものも少なくなってきた。また、安全面についても、公園のそばに溝があり、危険を感じることもあるため、安心して公園で遊べるようになることも課題としてあげられる。
	(住民の変化の声)	子どもの数が減少し、子ども会が解散した。
	今後の展望	地場産業についての理解や啓発活動を通じて子どもたちが住んでいる地域への理解と興味を持ってもらう活動を実施していきたい。 また、子どもたちの体力づくりや活躍の場を増やしたい。
福祉教育・担い手	現状	天王友輪会、ミニデイサービス、るんるん若ガエル体操のお世話役はそれぞれ違う方がしている。町社協が伊野南小・伊野南中学校を福祉教育推進校に指定して、地域の高齢者との交流を深める活動や「障害」についての理解を深める取り組みを行っている。また、地域活動の担い手を育成する町主催の元気“イキイキ”ボランティア講座、地域の助けあい活動を広める取り組みとして、町社協あったかられあいセンターが実施する生活支援ボランティア養成と地域活動を応援する「あったかまなび家」講座などを開催して担い手の育成に力を入れている。
	課題	町社協が児童・生徒向けの福祉体験学習(高齢者擬似体験)を実施しているが、一般向けの福祉教育はこれといって実施しているものがない。るんるん若ガエル体操グループでは後継者づくりが課題。
	(住民の変化の声)	
	今後の展望	
防災・防犯	現状	【防災】自主防災組織は天王地区内で3組織あるが、地区の規模が大きく、各町内会単位での活動を望む声がある。防火水槽及び消火栓の位置確認や実際にホースを使用した訓練を行う等、より実用的な訓練を行っている。 【防犯】地域安全協会と学校が連携し、小学校を対象とした誘拐防止訓練を実施。また、夜間の道路環境の安全性向上に資するため、防犯灯の新設及びLEDに交換(272灯)を進めている。
	課題	地区の規模が大きく、全員が参加できる訓練を行うのが難しい状況であり、各町内の婦人会や防災会を作り、活動を細分化することで、防災・防犯をより身近に感じる取り組みについて検討の余地がある。
	(住民の変化の声)	【防災】災害発生時の支援体制について、ボランティアの受け付け等を想定し、防災に関する研修の開催を望む声もある。消防の分団が無い。大雨時には道路が浸水し、孤立してしまう。 【防犯】日中人口が少ないことが防犯上心配である。また、不法な道路駐車が目につく。いのみなみタウンポリスの活動が見えない。
	今後の展望	地区の3自主防災組織が連携した活動を実施しており、活動を強化する取り組みが求められる。また、各町内会単位でもできることから取り組むことが重要である。

相談機能	現状	乳幼児は育児相談、高齢者はミニデイサービスで健康相談、老人クラブでは様々な活動を通しての相談機能がある。民生委員を通じて、町や町社協へ相談がつながるケースがある。民生委員の活動状況による相談件数は下記のとおり。 高齢者に関すること 71 件 障害者に関すること 1 件 子どもに関すること 11 件 その他 11 件
	課題	どこで、誰に相談すればよいのか分からない。
	(住民の声) 変化	
	今後の展望	
社会福祉協議会との関わり	現状	社協だよりの全戸配布や各種募金活動に協力をしている。支会助成金は、天王友輪会（老人クラブ）、サロン、ミニデイサービス、予防体操に助成している。
	課題	町社協事業・活動内容の周知（広報活動の強化）。
	(住民の声) 変化	
	今後の展望	
その他		天王コミュニティセンターの利用が多く、再々使用できないことがあり、逆に集会所は有効活用ができてないと感じる。 中心に量販店や公共施設、病院もあるが、人によっては車がないと不便な地域がある。 道路や街路灯等は比較的に整備されているが、日中人の姿がなく、防犯上心配なところもある。 ・通所介護：2（デイサービスゆとりあ）（デイサービスセンター寿幸園） ・認知症対応型共同生活介護：2（グループホームエフヴェール）（グループホーム寿幸園） ・小規模多機能型居宅介護事業所：1（小規模多機能型居宅介護事業所寿幸園） ・生活介護：1（デイサービスセンター寿幸園）

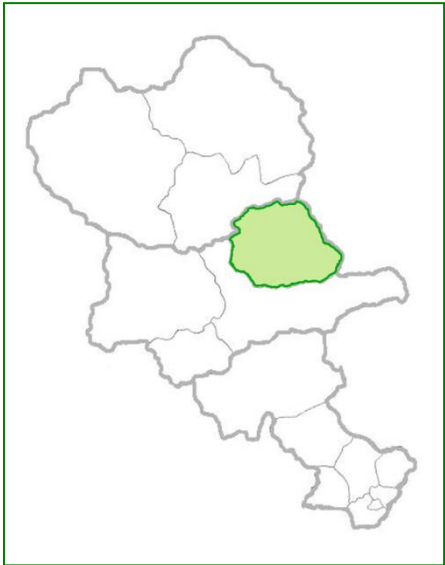
3	地域座談会から出た「将来、自分たちにできること、これからしたいこと」
○自分たちの活動内容をチラシ・ポスター等で一人でも多くの人に知ってもらいたい ○地域の方が顔を合わせることができるイベント（もちつき、運動会等）をしたい ○地域の行事で一緒になった際にはお互いに声を掛け合いたい ○誰に対しても挨拶を活発にしたい ○朝の散歩を利用したボランティアをしたい ○子育てや介護などのボランティアのできる人を組織化していきたい ○夏休みの公園でのラジオ体操を復活させたい ○世代間交流のできるイベントを考えて実施したい ○老人会（友輪会）の会員を増やしたい ○学校との交流を深めたい ○各町内で婦人会や防災会を作りたい	

9 清水（吾北地区）

1 地域の概況

仁淀川支流である枝川川上流域に位置し、標高が比較的高く東側は土佐町と接している。集落は国道 194 号沿いを中心に山間部まで点在している。移動手段としての公共交通はバスしかなく、自家用車やタクシー等での移動が殆どである。

観光資源としては、程野の「グリーン・パークほどの」があり、毎年 11 月中旬に「ほのほの王国もみじまつり」を盛大に開催しており、多くの人出で賑わう。また、清流・仁淀川が「仁淀ブルー」という言葉で広く知られるようになり、その美しく幻想的な青を見ることができる場所「にこ淵」にも観光客が訪れるようになっている。



人口や世帯数等（基準日 平成 28 年 3 月 31 日 住民基本台帳人口より）

行政区																					
大野、日比原、馬路、楨川、松ノ木、川窪、伊守川、程野、敷楨、土居																					

世帯数		人口			高齢者数・率				独居高齢者数※		介護認定者数		障害者数		出生数		0～就学前乳幼児数		6～14才児童・生徒数	
					数		率													
H23	H28		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
239	215	男	256	211	108	90	422	42.7	12	12	10	12	23	17	0	0	9	2	18	18
		女	252	214	147	132	58.3	61.7	41	41	28	34	27	28	0	1	3	3	10	9
		計	508	425	255	222	50.2	52.2	53	53	38	46	50	45	0	1	12	5	28	27

※「独居高齢者数」は地域見守り台帳登録者より

地域資源（基準日 平成 28 年 4 月 1 日）

公民館	1	中学校	0	警察・駐在所	0	高齢・障害者等福祉施設（名称と数）
集会所	8	高等学校	0	消防署・屯所	3	
避難所	3	役場・支所	0	医療機関	1	
幼稚園	休園 1	郵便局	1	量販店	0	
保育園	0	図書館	0	金融機関	1	
小学校	休校 2	社協・支所	0	商店等	6	

2	地域福祉(活動)計画小地域エリア別分析結果票(清水) (各項目は、アンケート調査・地域座談会・ワーキングチーム会・策定委員会などの意見を反映して記載しています。)	
地域のつながり	現状	第1期計画のなかで、ふるさとふれあいデーを設け、これまで3回、毎年開催できている。ミニデイサービスを合同で行うことができている。 一方で、高齢者の参加が少なくなってきた面もある。
	課題	るんるん若ガエル体操などできない地区がある。 ミニデイサービスのお世話役が高齢化し、不足しているところがある。 集会所などへ集まることができないほど、移動手段が限られてきている。
	(住民の声) 変化	
	今後の展望	後継者を育てる。 高校生に地域行事に参加してもらえるよう働きかける。
高齢	現状	ふるさとふれあいデーで若い世代との交流を図れている。 活動している老人クラブが3団体あり、年間を通しての環境美化活動、グラウンドゴルフの各種大会や月例会、毎月2回のパソコン教室(地元住民が講師を担当)などで他地区を含めた住民との交流を深めている。
	課題	老人クラブ加入者が少なく、役員のなり手だけでなく、現状維持をすることが困難となっている。 交通手段が少なく、集まり事等への参加には送迎が必要となる。 移動手段がないため、集会所などに集まることができないケースがある。 高齢化が進み、ミニデイの世話役がいなくなっている。
	(住民の声) 変化	老人クラブの会員同士の交流が盛んに行われている。
	今後の展望	ふるさとふれあいデーの継続。 老人クラブの会員加入への働きかけ。
障害	現状	身体障害者連盟による各種交流や、他団体(地区・老人クラブ等)との交流を図っている。
	課題	地区世話役が少なく、後継者も不足している。 障害を持つ者の把握が十分でない。
	(住民の声) 変化	
	今後の展望	
児童・乳幼児	現状	ふるさとふれあいデーで幅広い世代との交流が図れている。 地域の祭事にも参加できている。
	課題	児童・乳幼児数が年々減ってきている。 地域活動の参加者数が減ってきている。 雨天時の遊び場がない。

	(住民の変化の声)	
	今後の展望	公民館や体育館を活用した遊び場づくり。
福祉教育・担い手	現状	住民を対象とした、地域活動の担い手を育成する町主催の元気“イキイキ”ボランティア講座、地域の助け合い活動を広める取り組みとして、いの町あったかふれあいセンターが実施する生活支援ボランティア養成と地域活動を応援する「あったかまなび家」を開催して担い手育成に力を入れている。
	課題	ボランティア活動をする人に頼りきりになり、長い活動が困難となっている。 地域の実状を踏まえたボランティア講座の開催。
	(住民の変化の声)	認知症サポーター講座に参加した。
	今後の展望	
防災・防犯	現状	各地区で自主防災組織が組織され、年一回の防災訓練ができています。
	課題	高齢者の参加が減少傾向にあり、参加者が固定化されている。 全体的に防災意識が低い。
	(住民の変化の声)	
	今後の展望	
相談機能	現状	町と町社協との連携による支援体制が強化されている。 また、民生委員も独居高齢者や老々世帯を訪問し、日々相談に応じています。民生委員の活動状況による相談件数は下記のとおり。 高齢者に関すること 8件 障害者に関すること 0件 子どもに関すること 3件 その他 2件
	課題	適正な周知による相談者の掘り起こし。区長などが相談の窓口として対応できているケースがある一方、身近に相談できる人がいないケースもある。 介護に関する対応や苦情への対応が不十分。
	(住民の変化の声)	

	今後の展望	
社会福祉協議会との関わり	現状	社協だよりの配布や各種募金活動に協力をしている。 H25年度開催の地域出番会議には地域住民、地域団体の代表者が参加。清水ふるさとふれあいデーを実行委員会と町社協が連携して毎年、開催している。 これまでに3回開催したが、ここ5年間で人口が16%減少するなか、参加人数は3回とも80名前後と横ばいで、新たな地域住民の交流の場として定着している。 民生委員は月1回の定例会を開催し情報交換の場となっている。 あったかふれあいセンターによるサテライト事業への参加協力。(月2回) デイサービスやヘルパーの利用者がいる。 その他、町社協が行う事業や団体等への参加協力を行っている。
	課題	デイサービスやあったかサテライトなどへの参加を遠慮して、閉じこもりになっている人への支援。 見守りや支えあいの仕組みの強化。
	(住民の声) 変化	ミニデイサービスで講師のお世話をしていただいたことがある。
	今後の展望	
その他		

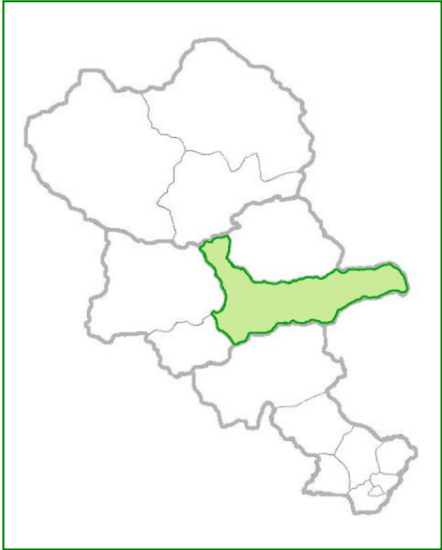
3	地域座談会から出た「将来、自分たちにできること、これからしたいこと」
○若者が集まれるイベントをしたい ○後継者を育てたい ○バームクーヘン作りを活用したふれあいの場を設ける ○婚活を推進していきたい ○青年団を復活させたい ○空き家の活用したい	

10 上八川（吾北地区）

1 地域の概況

仁淀川支流である、上八川川と枝川川が合流する土居・大久保地区が上八川の中心地となる。中山間地域の中の集落は、国道 194 号と国道 439 号沿いを中心に点在しており、山間部の集落までは、町道のほか農林道が生活道を兼ねている。

日本一のヤブツバキ（シャクジョウカタシ）や県立自然公園である陣ヶ森等、観光資源に恵まれている。また地域でも棚田を活かした火まつり等、地域活性化に積極的に活動している。



人口や世帯数等（基準日 平成 28 年 3 月 31 日 住民基本台帳人口より）

行政区

木ノ瀬、土居、大久保、枝川、西川、本郷、寺野、津賀谷、古江、柿藪、連行、小申田

世帯数		人口			高齢者数・率				独居高齢者数※		介護認定者数		障害者数		出生数		0～就学前乳幼児数		6～14才児童・生徒数	
					数		率													
H23	H28		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
361	335	男	415	349	151	161	36.4	46.1	20	20	26	25	52	43	2	3	6	9	17	11
		女	401	329	194	195	48.4	59.3	40	35	42	43	45	40	3	0	7	7	15	8
		計	816	678	345	356	42.3	52.5	60	55	68	68	97	83	5	3	13	16	32	19

※「独居高齢者数」は地域見守り台帳登録者より

地域資源（基準日 平成 28 年 4 月 1 日）

公民館	1	中学校	1	警察・駐在所	1	高齢・障害者等福祉施設（名称と数）
集会所	10	高等学校	1	消防署・屯所	5	
避難所	6	役場・支所	1	医療機関	1	
幼稚園	休園 1	郵便局	1	量販店	0	
保育園	0	図書館	1	金融機関	2	
小学校	休校 2	社協・支所	0	店舗等	15	

2	地域福祉(活動)計画小地域エリア別分析結果票（上八川） （各項目は、アンケート調査・地域座談会・ワーキングチーム会・策定委員会などの意見を反映して記載しています。）	
地域のつながり	現状	公民館・集会所等を活動拠点として、それぞれの地域活動を展開し、継続的に交流を図っている。 声掛けをしたりして隣近所との関わりを持っている。 棚田の火祭りなど地域での祭りがいろいろある。 自主防災組織の活動を通じて、地域内での交流が増えた。 地域の行事には、声掛けもあってほとんどの世帯から参加している。
	課題	人口が減り、活気がなくなってきた。 高齢化が進み、入院や施設入所する者や閉じこもりが増え、つながりが希薄になった。 毎年同じ活動内容のため、つながりに広がりがない。
	(住民の変化の声)	近所付き合いを大切にしたい。 地域ボランティアを育成したい。 地域の避難訓練を通じて、中学生や高校生とのつながりができた。
	今後の展望	草刈りや声掛け活動、地域の見守り等小さなことボランティア活動をさらにすすめていく。
高齢	現状	地域内での高齢化が進む一方、声掛けが継続的にできている。 死亡や入院、施設への入所、転出などで、高齢者も減少傾向にある。 地域の役員になったので、高齢者との関わりが増えた。
	課題	高齢者にとって、施設がバリアフリー対応できていないことから利用しづらい。そのため、集まりにくい。 参加者が固定されている。 人口減少や見守り機能低下に対応した、高齢者向け集合住宅の整備が望まれる。 高齢化等で参加者が減った。 高齢化により、新たなお世話役を作っても、一方で減るので全体で増えない。 高齢化が進み、入院や施設入所する者や閉じこもりが増え、参加者は増えない。
	(住民の変化の声)	新たにミニデイサービスに取り組んだ。
	今後の展望	有償運送など新たな移動手段の確保を検討する。 話し合いのできる場を設ける。 年をとっても自分のことは自分でできるよう、体操をしたり、歩いたり、体力をつける機会を作る。
障害	現状	地域で障害者を見かけることがない。 障害を持っても、本人やその家族から地域への発信はない。 障害を持っている人が身近にいない。
	課題	細かな情報が入ってこない。
	(住民の変化の声)	
	今後の展望	
乳幼児・児童・	現状	子どもたちが元気にあいさつできる環境がある。

	課題	子どもの数が減ってきた。また、子どもの親になる世代そのものが少ない。 少子化や学校の統合により、地域で見かける子どもが少なくなった。 子どもが少なすぎて、まとまって集まることができなくなった。 子ども会活動が減った。 子どもの減少に伴って、子どもの遊び場も減った。
	(住民の声) 変化	地域が高校や中学校と合同で防災訓練ができるようになった。
	今後の展望	
福祉教育・担い手	現状	高齢化により区長と自主防災組織代表など兼務が多い。 住民を対象とした、地域活動の担い手を育成する町主催の元気“イキイキ”ボランティア講座、地域の助け合い活動を広める取り組みとして、いの町あったかふれあいセンターが実施する生活支援ボランティア養成と地域活動を応援する「あったかまなび家」を開催して担い手育成に力を入れている。
	課題	地域の実状を踏まえたボランティア講座の開催。
	(住民の声) 変化	
	今後の展望	小中学生への多様化する福祉に関する教育の方向性を見出す。住民自身の周辺、また将来を見据えたボランティア養成講座の定期的な開催。集落ぐるみで、子どもや若者にも声かけして楽しむことや、行動作業を行う。
防災・防犯	現状	各地区で自主防災組織が組織され、年一回の防災訓練ができている。 備蓄品の整備が進み、充実してきている。
	課題	災害時に実際、避難所まで避難できるか自信がない。 避難場所が十分整備されていない。
	(住民の声) 変化	
	今後の展望	避難場所を実際に利用して避難生活を体験し、その結果をもとに避難所を見直す。 訓練時に非常食の試食を行ってみる。
相談機能	現状	町と町社協との連携による支援体制が強化されている。地域のことは地区長などに相談。民生委員への相談も多様化している。民生委員の活動状況による相談件数は下記のとおり。 高齢者に関すること 13 件 障害者に関すること 2 件 子どもに関すること 0 件 その他 5 件
	課題	適正な周知による相談者の掘り起こし。 民生委員、区長等との連携による情報の収集。
	(住民の声) 変化	

	今後の展望	
社会福祉協議会との関わり	現状	社協だよりの全戸配布や各種募金活動に協力をしている。H24年度開催の地域出番会議には地域住民、地域団体の代表者が参加。 民生委員は月1回の定例会を開催し情報区間の場となっている。 町社協が行う事業やその他、団体等への参加協力を行っている。
	課題	加速する高齢化を見据え、見守り活動や支えあい等の活動が今後益々重要となる。 介護事業は民間事業所とも連携して地域福祉を守る必要がある。 町社協の事業や活動内容の周知不足。
	(住民の声) 変化	
	今後の展望	
	その他	後継者の育成、地域活性化に青年団活動が必要と思われる。 地域内で引きこもりのないようにしたい。 サテライト事業を充実できたらいいが、人口が減るばかりなのでどうしたらよいか分からない。 サテライト事業に家族が安心して参加させられるよう、送迎や昼食などのサービスを充実させる必要がある。 地域の見守りや支え合いの人材を増やさなければならない。また、働きやすい環境を作らなければならない。 現状を把握し、行政と地域が連携して取り組む必要がある。対策が必要であれば、早め早めに取り組まなければならない。 自由に通院や買い物ができる交通手段の確保や、食事がしっかりとれるような配食サービス等の環境整備が急がれる。

3	地域座談会から出た「将来、自分たちにできること、これからしたいこと」
○ちょっとした困りごと（掃除・草引き等）へのお手伝いがしたい ○いつまでも元気で生活できるようにミニデイサービス行事を今までどおりしたい ○高齢者お弁当作りや農家レストラン等、地域活性化へ向けた取り組みをしたい ○災害に備えて、避難所での宿泊体験や非常食の試食会、避難所運営の模擬訓練等を行いたい	

11 小 川（吾北地区）

1 地域の概況

国道 439 号と県道西津賀才日比原線及び林道成川線に沿うように、仁淀川支流（小川川、高樽川、成川川）が流れており、集落もその流域に形成されている。柳野地区の国道 439 号の改良工事が完成したことにより、国道 33 号及び仁淀川町へのアクセスが容易になった。

また高岩地区には、吾北むささび温泉施設があり、町内外から訪れる方たちの憩いの交流の場となっている。



人口や世帯数等（基準日 平成 28 年 3 月 31 日 住民基本台帳人口より）

行政区

南越、致川、高岩、西津賀才、新別下、新別上、松尾、川原田、柳野本村、柳野上、川又、妙見、中峯、高樽、仏堂、奥大野、成川

世帯数		人口			高齢者数・率				独居高齢者数※		介護認定者数		障害者数		出生数		0～就学前乳幼児数		6～14才児童・生徒数	
					数		率													
H23	H28		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
492	446	男	485	419	189	188	39.0	44.9	24	24	33	21	64	53	0	2	11	7	36	20
		女	514	447	275	259	53.5	57.9	82	69	55	70	65	74	1	1	7	7	24	13
		計	999	866	464	447	46.5	51.6	106	93	88	91	129	127	1	3	18	14	60	33

※「独居高齢者数」は地域見守り台帳登録者より

地域資源（基準日 平成 28 年 4 月 1 日）

公民館	1	中学校	0	警察・駐在所	0	高齢・障害者等福祉施設(名称と数) その他欄(76 頁)を参照してください
集会所	14	高等学校	0	消防署・屯所	5	
避難所	6	役場・支所	0	医療機関	1	
幼稚園	1	郵便局	3	量販店	0	
保育園	1	図書館	0	金融機関	4	
小学校	1	社協・支所	1	店舗等	7	

2 地域福祉(活動)計画小地域エリア別分析結果票（小川） （各項目は、アンケート調査・地域座談会・ワーキングチーム会・策定委員会などの意見を反映して記載しています。）		
地域のつながり	現状	柳野ふれあいの里、集落活動センターがあり、地域の収入源も安定的に確保している。 自治活動をほどよくすることで、楽しく元気にできている。 他地域からの移住者もいる。 公共施設もいろいろあり、利便性がある。
	課題	人口減少により、地域として存続が危ぶまれているところがある。 地域活動に参加する世帯が少ない。
	（住民の声）変化	地域活動によって、地域のつながりが増えた。 自主防災組織ができたことで、集落協定ができ、草刈りなどの活動がよくできている。
	今後の展望	移住をさらに進めていく。 自由に利用できる集会所を設けたい。
高齢	現状	毎週体操を継続的に行っている。 町社協、グループホーム、デイサービス、小規模多機能型居宅看護事業所などがある。 老人クラブで花の手入れをして、地域を楽しませている。 独居老人の見守りをしてくれる人が増えた。 老人クラブでは、活動内容を広げ、参加者も増えた。
	課題	合同の敬老会がなくなる。 体操グループの活動が維持できない。 施設入所するものが増え、参加者が減ってきた。 災害時に孤立地域ならないよう、平時からライフラインの確保・充実が必要。
	（住民の声）変化	幅広い地域活動に関わることで高齢者と関わる機会も増えた。 災害時に高齢者自身が対応するための日頃からの体力づくりが必要。そのためには、参加者が喜んで集える仕組みが重要。
	今後の展望	週1回でも高齢者が集まって食事のできる場を設ける。 小川地区全体で集まれるイベントを検討する。
障害	現状	
	課題	
	（住民の声）変化	
	今後の展望	
児童・乳幼児	現状	吾北地区内で統合された保育園、幼稚園、小学校がある。吾北小学校には「むささび児童会」があり、平日や毎月第3土曜日や長期休業日等にも開会している。 保育園・幼稚園の待機児童はおらず、少人数ながら仲良くできている。 医療費の免除は助かっている。

	課題	小川地区にあった子ども会がなくなった。 児童・乳幼児だけでなく、その親世代もない。 地域と学校の交流が少なくなった。 近所に友だちがおらず、そのうえスクールバスで通学していると、遊ぶ友だちがいない。 中心部から離れ移動に時間を要するが、保育環境はいい。日曜日や祝日も保育をしてほしい。 静かでいいが、学校や図書館、量販店がないので、子育てに不便である
	(住民の変化の声)	自然豊かで、地域の見守りや声掛けがあって、子育てしやすい環境である。 いろんな活動に親子で誘ってくれて嬉しい。
	今後の展望	愛校作業を地域もともに行い、学校との関わりをもつ。
福祉教育・担い手	現状	町社協が吾北小学校、吾北中学校を福祉教育推進校に指定して地域行事への参加により、地域との交流を深めている。住民を対象に地域活動の担い手を育成する町主催の元気“イキイキ”ボランティア講座、地域の助け合い活動を広める取り組みとして、いの町あったかふれあいセンターが実施する生活支援ボランティア養成と地域活動を応援する「あったかまなび家」を開催して担い手育成に力を入れている。
	課題	後継者の育成。
	(住民の変化の声)	
	今後の展望	
防災・防犯	現状	各地区で自主防災組織が組織され、防災訓練も行われている。 炊き出し訓練の実施。 防災マップの作成。 消防署の協力のもと、訓練を実施している。 非常用物品を備蓄している。
	課題	各地区の自主防災活動が十分に実施されていない。 全体の合同訓練が行われていない。
	(住民の変化の声)	年を経るに従って後継者を育てる必要性を感じてきた。
	今後の展望	
相談機能	現状	町と町社協との連携による支援体制が強化されている。また、民生委員も独居高齢者や老々世帯を訪問し、日々相談に応じている。民生委員の活動状況による相談件数は下記のとおり。 高齢者に関すること 15件 障害者に関すること 1件 子どもに関すること 1件 その他 2件
	課題	適正な周知による相談者の掘り起こし。 民生委員、区長等との連携による情報の収集。 相談を受ける側のスキルの向上。

	(住民の声) 変化	
	今後の展望	
社会福祉協議会との関わり	現状	社協だよりの全戸配布や各種募金活動に協力をしている。H27年度開催の地域出番会議には地域住民、地域団体の代表者が参加。 民生委員は月1回の定例会を開催し情報区間の場となっている。 あったかふれあいセンターによるサテライト事業への参加協力。(月2回) 町社協が行う事業やその他、団体等への参加協力を行っている。
	課題	地域の見守り活動を連携して進めていく必要がある。
	(住民の声) 変化	あったかサテライトが月2回しかないので、回数を増やすか、あったかふれあいセンターの拠点が必要。
	今後の展望	
その他		地域内で新たな担い手の育成や高齢者の見守りの充実を図り、幸せを感じる地域づくりを目指す。 子どもたちが将来地域に戻ってきて住める家があればいい。 ・訪問介護：1 (JA コスモス高齢者福祉センターごほく) ・通所介護：1 (吾北デイサービスセンター「すこやか」) ・認知症対応型共同生活介護：1 (グループホーム高岩) ・小規模多機能型居宅介護事業所：1 (小規模多機能型居宅介護事業所新別の里)

3	地域座談会から出た「将来、自分たちにできること、これからしたいこと」
○小川地区全体が集まれるイベント（お祭り、敬老会等）をしたい ○年1回の防災訓練を学校と一緒に実施したい ○若い方たちと協力して週1回、高齢者と集って昼食ができる場をつくりたい ○今後も草刈り等を継続して学校との繋がりをもちたい	

12 下八川（吾北地区）

1 地域の概況

いの町中心部に一番近く、仁淀川支流の上八川川に沿うように国道 194 号が通っている。山間部の集落を結ぶ道路は、国道・町道・農林道等で結ばれている。

特産品としては、昭和中期から独特の地形を利用した長引地区のスイカが有名で、県外への出荷や道の駅等で販売されている。



人口や世帯数等（基準日 平成 28 年 3 月 31 日 住民基本台帳人口より）

行政区

広瀬、横野、柿奈呂、打木、漣地、土居、長引、十田、大野内、特老

世帯数		人口			高齢者数・率				独居高齢者数※		介護認定者数		障害者数		出生数		0～就学前乳幼児数		6～14才児童・生徒数	
					数		率													
H23	H28		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
270	233	男	256	217	99	94	38.7	43.3	7	5	14	19	28	31	2	3	9	9	14	15
		女	318	262	151	134	47.5	51.1	17	10	26	50	33	28	1	1	13	3	14	17
		計	574	479	250	228	43.6	47.6	24	15	40	69	61	59	3	4	22	12	28	32

※「独居高齢者数」は地域見守り台帳登録者より

地域資源（基準日 平成 28 年 4 月 1 日）

公民館	1	中学校	0	警察・駐在所	0	高齢・障害者等福祉施設(名称と数) その他欄(80 頁)を参照してください
集会所	8	高等学校	0	消防署・屯所	1	
避難所	2	役場・支所	0	医療機関	0	
幼稚園	休園 1	郵便局	1	量販店	0	
保育園	0	図書館	0	金融機関	1	
小学校	休校 1	社協・支所	0	店舗等	4	

2	地域福祉(活動)計画小地域エリア別分析結果票（下八川） （各項目は、アンケート調査・地域座談会・ワーキングチーム会・策定委員会などの意見を反映して記載しています。）		
地域のつながり	現状	ミニデイサービス等も継続的に実施され、お世話役からの十分な声掛けもある。 神祭など地域活動が行われている。 簡易郵便局が集いの場となっている。 若いお母さんグループの地域活動も軌道に乗り出した。 太鼓グループが地域活動にも参加してくれている。	
	課題	地域活動を支える人手が不足している 公共施設を地域で有効活用できていない。 ミニデイサービス等のない地域では、交流に限られる。 地域に愛着があっても、住みやすさや地域内の交流に変化が見られない。	
	(住民の声)変化		
	今後の展望	公共施設の有効活用にあたっての検討を進める。 世代間交流の場、集いの場を設ける。	
高齢	現状	地区の高齢化が進み老人クラブの加入者が増えてきた。 地域のグラウンドを活用できている。 他地区との交流も図られている。	
	課題	老人クラブの活動を維持するための若い加入者が少ない。 後継者が不足している。 参加しやすい曜日、時間帯の設定が大事。	
	(住民の声)変化		
	今後の展望	各種活動のお世話役を増やすためにこれまでにない取り組みを考えていく必要がある。	
障害	現状	老人クラブとの交流が継続的に行われている。	
	課題	各種活動を維持する後継者が不足している。	
	(住民の声)変化		
	今後の展望		
乳幼児・児童	現状	子ども会の活動が活発である。 減少傾向にあるが吾北地区内では子どもの数が多い。 児童館が使用できるようになった。	

	課題	日常的に子どもの姿が見えないくらい子どもの数が減ってきている。 子どもが遊べる場、学べる場、鍛える場が身近にない。 保育園や学童保育の受入時間が短い。 地域の行事に積極的に参加する親子が少ない。 病院が遠い。
	(住民の声) 変化	
	今後の展望	
福祉教育・担い手	現状	高齢化により区長と自主防災組織代表など兼務が多い。 住民を対象とした、地域活動の担い手を育成する町主催の元気“イキイキ”ボランティア講座、地域の助け合い活動を広める取り組みとして、いの町あったかふれあいセンターが実施する生活支援ボランティア養成と地域活動を応援する「あったかまなび家」を開催して担い手育成に力を入れている。
	課題	一部の人に役割が集中している。 地域の実状を踏まえたボランティア講座の開催。
	(住民の声) 変化	
	今後の展望	ボランティア組織の体制が出来たらいい。
防災・防犯	現状	各地区で自主防災組織が組織され、自主防災活動によって地域の横のつながりができてきた。
	課題	全体的な周知が不足している。
	(住民の声) 変化	
	今後の展望	自主防災組織の縦のつながりだけでなく、横のつながりを広げていく。
相談機能	現状	町と町社協との連携による支援体制が強化されている。回覧や工法を手渡しするようにして、見守りが出来ている。 地区長や民生委員が相談に乗ってくれている。民生委員の活動状況による相談件数は下記のとおり。 高齢者に関すること 30件 障害者に関すること 0件 子どもに関すること 0件 その他 3件
	課題	適正な周知による相談者の掘り起こし。

	(住民の声) 変化	
	今後の展望	
社会福祉協議会との関わり	現状	社協だよりの全戸配布や各種募金活動に協力をしている。H27年度開催の地域出番会議には地域住民、地域団体の代表者が参加。また、支会助成金を活用して敬老会等の地域のために有効に使われている。 民生委員は月1回の定例会を開催し情報区間の場となっている。 町社協が行う事業やその他、団体等への参加協力を行っている。
	課題	
	(住民の声) 変化	
	今後の展望	ボランティア組織の体制づくりが出来たらよい。
その他		・訪問介護：1（ヘルパーステーションごほく） ・介護老人福祉施設：1（特別養護老人ホーム 吾北荘）

3	地域座談会から出た「将来、自分たちにできること、これからしたいこと」
○昔遊びを一緒にする等、世代間交流の場を作っていきたい ○防災の横のつながりを持ちたい ○サロンのような場所を作りたい	

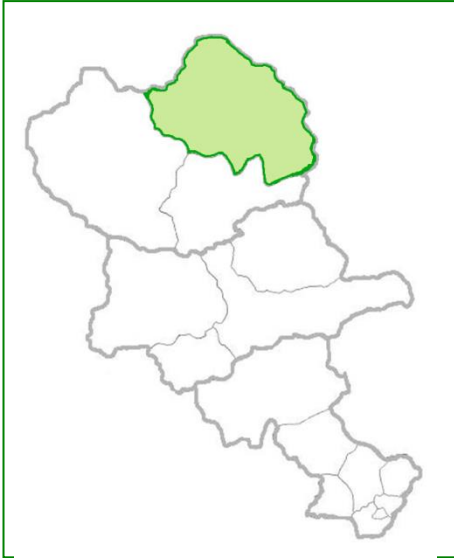
13 下本川（本川地区）

1 地域の概況

標高が530～800mの山間地域で大川村と愛媛県西条市に接しており、国道194号と大川村方面には県道本川大杉線があり、公共交通機関としては嶺北観光バスが1日1～2便ある。

また車で新寒風山トンネルを抜けると30分程度で瀬戸内圏に行くことができるため、買い物や通院は西条市へ行く事が多い。

毎年8月中旬には、道の駅「木の香」で吉野川源流まつりが開催されており、あめご釣り大会や本川神楽等の催し物に大勢の観光客で賑わう。



人口や世帯数等（基準日 平成28年3月31日 住民基本台帳人口より）

行政区

高藪1区、高藪2区、脇ノ山、脇ノ山(四電)、足谷、葛原、桑瀬、中野川

世帯数		人口			高齢者数・率				独居高齢者数※		介護認定者数		障害者数		出生数		0～就学前乳幼児数		6～14才児童・生徒数	
					数		率													
H23	H28		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
116	115	男	108	97	45	37	41.7	38.1	9	5	3	4	10	10	2	3	5	4	4	4
		女	98	92	54	60	55.1	65.2	13	19	10	10	10	9	1	2	4	2	7	4
		計	206	189	99	97	48.1	51.3	22	24	13	14	20	19	3	5	9	6	11	8

※「独居高齢者数」は地域見守り台帳登録者より

地域資源（基準日 平成28年4月1日）

公民館	1	中学校	0	警察・駐在所	0	高齢・障害者等福祉施設(名称と数)
集会所	7	高等学校	0	消防署・屯所	1	
避難所	7	役場・支所	0	医療機関	1	
幼稚園	休園1	郵便局	1	量販店	0	
保育園	0	図書館	0	金融機関	1	
小学校	休校1	社協・支所	0	店舗等	3	

2	地域福祉(活動)計画小地域エリア別分析結果票(下本川) (各項目は、アンケート調査・地域座談会・ワーキングチーム会・策定委員会などの意見を反映して記載しています。)			
地域のつながり	現状	行政区が8つあり広範囲な地域。 独居高齢者が増加。世帯によっては避難場所が遠い。高齢や体調により区会や道草刈り、神祭や地域行事に参加することが困難になって、地域とのつながりが薄くなってきた。 ・五月まつり(5月) ・つり大会(5月) ・吉野川源流本川まつり(8月) ・神祭(11月) ・地区会、サロン(年3回) ・本川地区民運動会へ参加(10月) ・敬老会(世話人減少により中本川地区と合同開催) ・ミニデイいきいき体操		
	課題	それぞれの集落が離れているため、車が運転できなくなった時に交流が持続できるのか。 公共交通(バス)の通っていない集落がある。 高齢により簡易水道の維持管理が大変。		
	(住民の変化の声)			
	今後の展望	神祭など地域行事をすることが困難。		
高齢	現状	敬老会(中本川と合同で開催)、老人クラブ活動、サロン、生きがいデイサービスの利用 グラウンドゴルフをやっているグループが現在活発に活動している。 人口減と高齢化に伴い会員や参加者が減ってきている。 町社協デイサービス(生きがい・通所介護)の利用。		
	課題	老人クラブやサロンへの参加者も年々減少し、世話人も高齢となっており、後継者や活動の継続が課題となっている。行事に参加する高齢者の足の確保。		
	(住民の変化の声)	老人クラブに入会していないと、行事等に参加しにくい。 (高齢で)行事に参加できない。		
	今後の展望	老人クラブに加入していない高齢者にあっせんを図って、集いをひろめる。		
障害	現状	地域の障害者の活動は、いの町障害者連盟の会員は、旅行や交流事業、グラウンドゴルフ大会など活発に活動されているが、会員外の方の交流会や活動拠点は無い。		
	課題	交流の拠点づくりと、支援・相談機能の可視化。		
	(住民の変化の声)			
	今後の展望			

児童・乳幼児	現状	保育園は中本川地区に1か所のみで3歳児以上はスクールバスで通園しているが、3歳未満は保護者が送迎をしている。 入園前の幼児に月2回程度園庭開放を行っている。 小学校下校後帰宅のバス時間までは、郷土館（図書館、中本川地区）で過ごす。郷土館（中本川地区）は、日曜日は閉館している。郷土館横に併設されたバス待合所は雨風がしのげるようになっていて、子どもたちの交流の場となっている。
	課題	児童数、家庭数の減少により学校行事についてもPTA、地域住民の支援がなければ難しくなっている。 乳幼児4名 保育4名 児童生徒8名 少子化もあり、イベント等の企画もない。 Uターンで子どもの環境が変わることを親が心配するようだ。 地域に子どもや親が集まる場所（公園）がない。
	（住民の声）変化	
	今後の展望	
福祉教育・担い手	現状	本川地区にあるボランティアグループこまどり会の会員は21名。下本川においては5人。活動は小学校での読み聞かせや、デイサービスでのお手伝い。 食改や婦人会は、小学校で地元食材を使った料理教室など食育授業を行っている。 地区の老人クラブは、地域交流世代間交流も含めてグラウンドゴルフを一緒に楽しみ、門松づくりなどに取り組んでいる。 小学校・保育園の児童・園児は、定期的に福祉施設を訪問し高齢者との交流を図っている。 小学校・中学校の児童生徒から、地域の独居高齢者に年6回の季節のお便りを出している。（ひまわりサービス事業：町社協） 町社協は、地域の中学校の福祉授業の一環として毎年「高齢者疑似体験学習（うらしま体験）、白杖・アイマスク体験と福祉施設での体験学習（2日間）を実施。 地域の郵便局外務員の、配達時における地域や高齢者等の見守り活動。 移動販売業者による地域や高齢者の見守り活動。 小中のPTAが連携協力し、地域の清掃活動や学校行事にも積極的に参加（全員参加） 住民を対象に地域活動の担い手を育成する町主催の元気“イキイキ”ボランティア講座、地域の助け合い活動を広める取り組みとして、いの町あったかふれあいセンターが実施する生活支援ボランティア養成と地域活動を応援する「あったかまなび家」を開催して担い手育成に力を入れている。
	課題	平成23年度に比べ高齢者数は横ばいなのに人口が10%減。働き盛りの世代の流出によりお世話役も減少。
	（住民の声）変化	
	今後の展望	
防災・防犯	現状	行政区8区で自主防災組織率は100%（3組織）。年1回の防災訓練を実施。
	課題	人口減少、高齢化も急速に進んでおり、新たな活動といった面は困難が予想される。 災害に対する知識を深め、迅速な避難活動を進める必要あり。 消防団と密接に連携して、要配慮者の避難を中心とした共通認識・計画作成が重要。 防災マップにまだ取りかかれていない。
	（住民の声）変化	

	今後の展望	
相談機能	現状	地域住民同士のつながりは強く、コミュニティは形成されているが、相談機能となると地区の民生委員や区長、町社協が生活全般の受け皿となっている。 町への要望等は区長が行っている。 なんでも相談（毎月開催：町社協）電話でも対応。 診療所の看護師長が包括の相談窓口を兼務しているため、大橋出張診療所受診時に医療だけでなく介護や生活支援の相談を受けることも多い。 相談についての対応は本川総合支所住民福祉課の保健師、担当職員が連携して行い、個別対応が主。 【民生委員相談件数】 高齢者に関すること 37 件 障害者に関すること 2 件 子どもに関すること 0 件 その他 18 件
	課題	民生委員のなり手が少ない。
	（住民の声）変化	
	今後の展望	
社会福祉協議会との関わり	現状	サロン活動。 住民は町社協が行っている募金活動を地区の民生委員や老人クラブが協力して行っている。 社協だよりの配布（区長） デイサービスの利用。
	課題	町社協事業へ協力してくれている人の高齢化に伴い、今後の後継者の不足。
	（住民の声）変化	
	今後の展望	
その他		<買い物について> 高齢者世帯、独居世帯では移動販売業者での購入が、主である。車で移動できる人は西条市内へ買い物に行く事が多いが、高齢者同士車で乗り合い買い物に行かれているので少し心配。集落が集まっているところは、生協での食品、日用品の購入が可能。 移動手段がなく、冬季に雪が積もったとき等、食料の購入ができず買い物難民がでることが予測される。また、インスタント、レトルト食品など栄養面の片寄りが心配される。 生活支援ハウスにて訪問給食サービスを行っているが、配達するマンパワーがないため利用困難。 若い者が安心して働ける職場が必要だと思います。 行政区によっては、住民が2人しかおらず独居高齢者である。住民同士も谷を一つ挟んだ遠方で車でないと訪ねることもできない。

3	地域座談会から出た「将来、自分たちにできること、これからしたいこと」
○老人クラブに加入していない高齢者を勧誘して集いを広めたい	

14

中本川（本川地区）

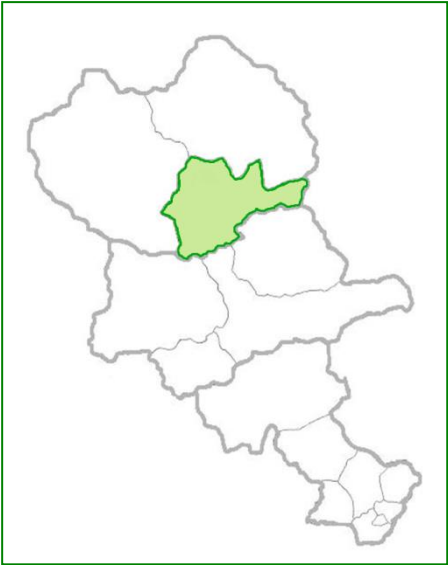
1

地域の概況

吉野川上流域の山間地域で、国道 194 号と県道石鎚公園線が分岐する長沢が本川地区の中心地となる。本川総合支所、郵便局、診療所や、保・小・中学校等の施設がある。

公共交通機関は、県交北部交通バスが1日5便、嶺北観光バスが2便ある。

観光資源としては、戸中地区の「木の根ふれあいの森」があり、コテージや遊歩道が整備されている。バードウォッチングやアスレチック施設で自然を満喫できる。



人口や世帯数等（基準日 平成 28 年 3 月 31 日 住民基本台帳人口より）

行政区
戸中、大森、長沢1区、長沢2区

中本川

世帯数		人口			高齢者数・率				独居高齢者数※		介護認定者数		障害者数		出生数		0～就学前乳幼児数		6～14才児童・生徒数	
					数		率													
H23	H28		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
141	131	男	139	115	55	49	39.6	42.6	7	9	5	3	19	12	1	0	4	3	10	12
		女	136	116	77	64	56.6	55.2	19	20	22	22	16	11	0	1	2	2	14	9
		計	275	231	132	113	48.0	48.9	26	29	27	25	35	23	1	1	6	5	24	21

※「独居高齢者数」は地域見守り台帳登録者より

地域資源（基準日 平成 28 年 4 月 1 日）

公民館	0	中学校	1	警察・駐在所	1	高齢・障害者等福祉施設(名称と数) その他欄(88 頁)を参照してください
集会所	5	高等学校	0	消防署・屯所	1	
避難所	6	役場・支所	1	医療機関	1	
幼稚園	0	郵便局	1	量販店	0	
保育園	1	図書館	1	金融機関	2	
小学校	1	社協・支所	1	店舗等	1	

2	地域福祉(活動)計画小地域エリア別分析結果票(中本川) (各項目は、アンケート調査・地域座談会・ワーキングチーム会・策定委員会などの意見を反映して記載しています。)	
地域のつながり	現状	行政区は4つ。人口減と少子高齢化がすすむ。地域での集まりも交通手段が少なく困難。合併後の衰退はあきらめ。研修会等、本川地区で行われるものについてはこの地区で行われることが多い。本川地区体育会が年間を通じてスポーツ大会を中学校グラウンドや体育館で開催。コミュニティは形成されている。つながりもある。自然がきれいで四季の景色が楽しめる。 ・敬老会(下本川地区と合同)(10月) ・サロン(年3～4回) ・産業・文化・福祉まつり(11月) ・長沢小げんきまつり(7月) ・一斉清掃、防災訓練(9月) ・神祭(11月：大森・長沢) 長沢1区 炊出訓練(年1回)、座談会(複数回) 長沢2区 炊出訓練(年1回)、忘年会(年1回)、座談会(複数回) 戸中地区 炊出訓練(年2回)、旬のものを食べる会(年4回)、座談会(複数回) 大森地区 公園作り(複数回)、年末大餅つき大会(年1回)、大森地区会(年2回)、地域草刈り(年2回)
	課題	高齢化のため一斉清掃や草刈等への参加者が減少。 地域で働く人も通勤する人が多く、地域住民とのつながりが希薄。地域住民で平日は地域外の勤務先へ出る消防団員も多く消防活動が手薄になることも懸念される。若者の雇用対策。
	(住民の声)変化	人口減、少子高齢化。商店の消滅。
	今後の展望	
高齢	現状	サロン、敬老会、老人クラブ活動、見守り活動、デイサービス(生きがい・通所介護)の利用。 平成22年から大森地区で、平成28年から長沢地区でるんるん若ガエル体操のグループが立ち上がり、大森集会所や本川保健福祉センターで開催。 グラウンドゴルフをされているグループが週2～3回活動している。 長沢地区では割と住宅が集まっているため近所の人2～3人が集まり、家の外で腰掛けて話をしている姿を見かける。 出番会議以後各地区とも高齢者への見守り活動が以前よりも増して充実した感がある。
	課題	老人クラブやサロンへの参加者も年々減少し、世話役も高齢化となっており後継者もなくなり手がなく活動の継続が危ぶまれる。 移動手段の確保
	(住民の声)変化	高齢化が進み人口も減少。助け合いが難しくなっている。
	今後の展望	
障害	現状	地域の障害者の活動は、いの町障害者連盟の会員は、緑野交流行事、グラウンドゴルフ大会など活動は活発である。 会員以外のかたの活動や交流は拠点もなく見えにくい。
	課題	交流等の拠点づくりと支援相談機能の可視化。
	(住民の声)変化	
	今後の展望	

児童・乳幼児	現状	保育園の園庭開放 月2回程度 9:00～10:30 開かれた学校づくりの会の活動（長沢小いげんきまつり、餅つき大会、門松作り等）で地域住民との交流を図っている。 下校後は、郷土館（図書）が児童の集いの場となっている。 地域の文化伝承にも取り組んでいる。 本川中学校は、昭和51年より全国初の全寮制の公立中学校を開始。平成14年度からは山村留学制度を開始し、これまで全国から47名の生徒が地元の生徒とともに地域の方たちに見守られ成長し卒業している。 学校行事等には校友会や新たに結成された長沢小応援隊や本川登山部が協力している。 小・中学校のPTAが連携協力し、地域の清掃活動や学校行事にも積極的に参加（全員参加）
	課題	児童の集いの場となっている郷土館（中本川地区）は、日曜日は閉館日。 児童数、家庭数の減少。 保育入園前の幼児が少なく、他の幼児との交流が少ない。 子どもの遊び場づくり。 長沢小学校・本川中学校の存続と山村留学制度の継続。
	（住民の声）変化	子ども数の減少。
	今後の展望	
福祉教育・担い手	現状	本川地区にあるボランティアグループこまどり会の会員は21名。中本川においては14人。活動は小学校での読み聞かせや、デイサービスでのお手伝い。 食改や婦人会は、小学校で地元食材を使った料理教室など食育授業を行っている。 地区の老人クラブは、地域交流世代間交流も含めてグラウンドゴルフを一緒に楽しみ、門松づくりなどに取り組んでいる。 小学校・保育園の児童・園児は、定期的に福祉施設を訪問し高齢者との交流を図っている。 小・中学校の児童生徒から、地域の独居高齢者に年6回の季節のお便りを出している。（ひまわりサービス事業：町社協） 町社協は、地域の中学校の福祉授業の一環として毎年「高齢者疑似体験学習（うらしま体験）、白杖・アイマスク体験と福祉施設での体験学習（2日間）を実施。 地域の郵便局外務員の、配達時における地域や高齢者等の見守り活動。 移動販売業者による地域や高齢者の見守り活動。 住民を対象に地域活動の担い手を育成する町主催の元気“イキイキ”ボランティア講座、地域の助け合い活動を広める取り組みとして、いの町あったかふれあいセンターが実施する生活支援ボランティア養成と地域活動を応援する「あったかまなび家」を開催して担い手育成に力を入れている。
	課題	人口が15%減にもかかわらず高齢者率は横ばい。働き手や担い手の流出が止まらない。特に地元の役場職員（消防団員も含む）が他地区に住居し、本川総合支所の職員は通いなので夜間時のマンパワーが不足。その分高齢者に世話役などの負担がかかっている。
	（住民の声）変化	お世話役・担い手の減少により、一人で何役も請け負い、忙しい。
	今後の展望	
防災・防犯	現状	【防災】行政区4区で自主防災組織数率は100%。年1回の防災訓練を実施。 消防団が自主防災組織の防災訓練のお手伝い。 自主防災組織による防災訓練・消火訓練・避難所開設運営訓練・情報収集伝達訓練・心肺蘇生法 AED 講習会・炊き出し訓練等々活動中。
	課題	人口減少、高齢化も急速に進んでおり、新たな活動といった面は困難が予想される。 災害に対する知識を深め、迅速な避難活動を進める必要あり。 消防団と密接に連携して、要配慮者の避難を中心とした共通認識・計画作成が重要。 消防団員の約半数が昼間、地区以外で勤務しているため、昼間の消防団員数の確保が必要。
	（住民の声）変化	自主防災組織の役割分担をしたが機能していない。 近隣近所との連絡を取り、災害時等正確な情報がわかるように。

	今後の展望	
相談機能	現状	地域住民同士のつながりは強く、コミュニティは形成されているが、相談機能となると地区の民生委員や区長、町社協が生活全般の受け皿となっている。 町への要望等は区長が行っている。 なんでも相談（毎月開催：町社協）電話でも対応。 【民生委員相談件数】 高齢者に関すること 50 件 障害者に関すること 0 件 子どもに関すること 8 件 その他 50 件
	課題	民生委員のなり手が少ない。
	（住民の声）変化	
	今後の展望	行政と民生委員のつながりを密にする取り組み強化。
社会福祉協議会との関わり	現状	サロン活動。 住民は町社協が行っている募金活動を地区の民生委員や老人クラブと協力して行っている。 社協だよりの配布（区長） デイサービスの利用。
	課題	町社協事業へ協力してくれている人の高齢化に伴い、今後の後継者の不足。
	（住民の声）変化	
	今後の展望	
その他		<買い物について> 老世帯、独居老人は移動販売業者での購入が主である。車で移動できる人は西条市内へ買い物に行く事も多い。集落が集まっているところは、生協での食品、日用品の購入が可能。 移動手段がなく、冬季に雪が積もったとき等、食料の購入ができず買い物難民がでることが予測される。また、栄養面の片寄りが心配される。 生活支援ハウスにて訪問給食サービスを行っているが、配達するマンパワーがないため利用困難。 若い者が安心して働ける職場が必要。 林業の復興。地域の特性を生かした山岳観光。 ・通所介護：1（デイサービスセンター「朝霧荘」） ・訪問看護：1（いの町立国民健康保険長沢診療所）

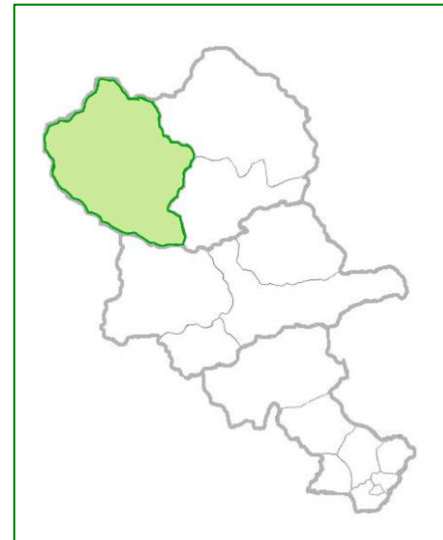
3	地域座談会から出た「将来、自分たちにできること、これからしたいこと」
○夏場の子ども遊び場所を作りたい ○普段から隣近所と仲良くし、災害時等では正確な情報が分かるようにしたい ○空き家を利用して、高齢者の集える場をつくりたい ○神輿を使いたい	

15 上本川（本川地区）

1 地域の概況

吉野川の最上流域に位置し、基幹道路である県道石鎚公園線は、寺川以遠は厳寒期には通行止めとなる。高齢化率も高いうえ公共交通も無いことから移動は自家用車が中心となる。

四国のでっぺんを縫うように走る UFO ライン(町道瓶ヶ森線)の風景は絶景で秋の紅葉シーズンは大勢の観光客で賑わう。また、氷室まつり等の行事や、山中家住宅等の重要文化財も大切に保護承継されている。



人口や世帯数等（基準日 平成 28 年 3 月 31 日 住民基本台帳人口より）

行政区

越裏門、寺川

世帯数		人口			高齢者数・率				独居高齢者数※		介護認定者数		障害者数		出生数		0～就学前乳幼児数		6～14才児童・生徒数	
					数		率													
H23	H28		H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28
58	47	男	57	41	31	30	544	732	2	3	4	0	5	4	0	0	0	0	2	0
		女	45	39	36	34	800	872	9	4	4	7	9	8	0	0	0	0	0	0
		計	102	80	67	64	65.7	800	11	7	8	7	14	12	0	0	0	0	2	0

※「独居高齢者数」は地域見守り台帳登録者より

地域資源（基準日 平成 28 年 4 月 1 日）

公民館	1	中学校	0	警察・駐在所	0	高齢・障害者等福祉施設(名称と数)
集会所	1	高等学校	0	消防署・屯所	1	
避難所	3	役場・支所	0	医療機関	1	
幼稚園	0	郵便局	1	量販店	0	
保育園	0	図書館	0	金融機関	1	
小学校	休校 1	社協・支所	0	店舗等	1	

2	地域福祉(活動)計画小地域エリア別分析結果票（上本川） （各項目は、アンケート調査・地域座談会・ワーキングチーム会・策定委員会などの意見を反映して記載しています。）		
地域のつながり	現状	地域のまとまりがよく、お互い助け合いの心はある。 ・集落活動センター「氷室の里」 ・氷室まつり(7月) ・氷室氷詰め(2月) ・敬老会(9月) ・神祭(11月) ・初会(4月) ・お誕生会(年3～4回) ・まいなばざんまいツアー(9月) ・「むら便り」季刊不定期発行	
	課題	活動資金の確保。 マンパワーの確保。 移動手段の確保。 人口減少、過疎化に高齢化。(高齢化率80%)	
	(住民の変化の声)	集落活動センターの運営が大変。 集落支援員がいて助かっている。	
	今後の展望	・きのこの里づくり事業の企画。 ・集落活動センターの健全経営。 ・鳥獣対策。地域協力隊・集落支援員に期待	
高齢	現状	地域の老人クラブがなくなったが、その代わりにサロン活動が活発になっている。 集落活動センター「氷室の里」事業の展開 生活支援部 「安心安全サポート計画」 高齢者の見守り活動・地域の支えあい。 「集いの場づくり」 誕生会の開催・健康体操の実施等 町社協デイサービス(生きがい・通所介護)の利用。 バーチャル本川村(任意団体)の協力による敬老会開催。 地域の郵便局外務員が配達時における高齢者等の見守り。 移動販売業者による高齢者等の見守り。	
	課題	活動資金の確保。 移動手段の確保。 マンパワーの確保。	
	(住民の変化の声)	集まるにしても移動手段が課題。 自家用車がないと生活に困るが、高齢者の運転は危ない。	
	今後の展望	集落活動センターで収益を上げながら、生活支援部事業の拡充を図る。	
障害	現状	地域の障害者の活動で、いの町障害者連盟の会員は、旅行や交流事業、グラウンドゴルフ大会など活発に活動されているが、会員以外の方の交流会や活動拠点が無い。	
	課題	交流の拠点づくりと、支援・相談機能の可視化。	
	(住民の変化の声)		

	今後の展望	支援・相談機能の充実。
児童・乳幼児	現状	乳幼児園児はいない。 冬季以外は児童 1 名生徒 1 名。 小・中学校の PTA が連携協力し、地域の清掃活動や学校行事等に積極的に参加（全員参加）。
	課題	通学は両親がスクールバスの待合まで車で山道を片道 30 分かけて送り迎えをしている。さらにスクールバスもダム沿いの道を 45 分かけて通学。両親の負担もそうだが、子どもへの負担も大きい。
	（住民の変化の声）	子どもの声が聞こえない。
	今後の展望	
福祉教育・担い手	現状	地区にある本川ボランティアグループこまどり会の会員は 21 名。上本川においては 2 人。活動は小学校での読み聞かせや、デイサービスでのお手伝い。 食改や婦人会は、小学校に出向いて地元食材を使った料理教室など食育授業を行っている。 他地区の老人クラブが、小学校の地域交流の取り組みである「元気祭り」で、昔遊びや工作等を一緒に行い、年末は門松づくりなどをして世代間交流の一役を担う。 小学校・保育園は、定期的に福祉施設を訪問し高齢者との交流を図っている。 小・中学校の児童生徒から、独居高齢者の方に年 6 回お便りを出している。（ひまわりサービス事業：町社協） 町社協は、地域の中学校に福祉授業の一環として毎年「高齢者疑似体験（うらしま体験）、白杖・アイマスク体験と福祉施設での体験学習（2 日間）を実施。 住民を対象に地域活動の担い手を育成する町主催の元気“イキイキ”ボランティア講座、地域の助け合い活動を広める取り組みとして、いの町あったかふれあいセンターが実施する生活支援ボランティア養成と地域活動を応援する「あったかまなび家」を開催して担い手育成に力を入れている。
	課題	人口減によるマンパワーの不足。
	（住民の変化の声）	活動できる人が限られる。 バーチャル本川村の協力が頼もしい。 マンパワーが足りない。 伝統行事等の担い手を。
	今後の展望	地域協力隊と連動。 受け継ぐ力。
防災・防犯	現状	自主防組織率は 100%。 年 1～2 回の炊き出し訓練。 いの町消防団本川方面隊第 3 分団駐屯。
	課題	活動資金の確保。 ヘリポートを使った訓練。 集落活動センター「氷室の里」事業 生活支援部 「防災」への取り組み内容の実施と充実。
	（住民の変化の声）	少子高齢化と人口減により、消防団員も高齢化と減少。
	今後の展望	

相談機能	現状	地域住民の結びつきが非常に強く、区長をはじめ民生委員や町社協との連携連絡が行き届いている。 地区住民同士での相談機能を高める方策を実施している。 診療所の看護師長が包括の相談窓口を兼務しているため、越裏門出張診療所では医療だけでなく介護や生活支援の相談を受けることも多い。 相談についての対応は支所住民福祉課の保健師、担当職員が連携して行い、個別対応が主である。 以前は公民館等で保健師による健康相談も実施していたが、今ではそこへ行くこともできない人が増えたため個別訪問に切り替えている。
	課題	現状の対応で進めるが、特異なケースの対応を検討し準備。
	(住民の変化の声)	変化なし。
	今後の展望	困りごと・心配事の受け皿を考えていく。
社会福祉協議会との関わり	現状	サロン活動（誕生会やみかん狩りなど）。 町社協が行っている募金活動を民生委員や婦人会が協力して行っている。 社協だよりを配布（区長）。 デイサービスの利用者がいる。
	課題	町社協事業へ協力してくれている人の高齢化に伴い、今後の後継者の不足。
	(住民の変化の声)	生きがいデイサービスの利用者がいる。 （介護予防の予防） 生きがいデイサービスに行くことで、買い物や受診ができる。（町社協送迎）
	今後の展望	
その他	<食生活・生活用品について> 越裏門地区に日用品食糧販売店が1件あるが、本川地区以外から来る移動販売業者に頼っており、独居高齢者などの栄養の偏りも心配される。生活支援ハウスにて訪問給食サービスを行っているが、配達するマンパワーがないため利用が困難。 <家屋・住居について> 高齢・独居になっても安心して暮らせる見守りのある居住地の確保が必要になってくる。 生活全般の見守り、買い物、服薬、体調管理が行えるシルバーハウスがあれば、住み慣れた地域で少しでも長く暮らせるのではないかと。 <前期高齢者について> 現在取り組んでいる集落活動センター事業への中心的な担い手となっている。 <移動手段について> 平成23年度から町社協による「過疎地有償運送事業」が開始している。平成27年度にバスの路線が廃線となり、町のデマンドバスが始まったが利用日の3日前までに予約と不便である。 インターネットを活用したい。医療においても情報においても環境を整えてほしい。 町行政との懇談会を持ちたい。 今のところは住民同士でなんとか頑張っておりますが、増々高齢と人口減が進むにつれて買い物、病院などどうしたらいいのでしょうか？いい方法はないのでしょうか？	

3 地域座談会から出た「将来、自分たちにできること、これからしたいこと」

○困りごとや心配事を今後考えていく体制を考えたい

◆資料6 アンケート結果報告

地域福祉を進めるための第2期いの町地域福祉計画及び第2期いの町地域福祉活動計画策定にあたり、アンケートを実施しました。この結果などをもとに課題を整理し、計画に盛り込みました。

子育て関係アンケート：町内小学校1年生～3年生の保護者 回答数379

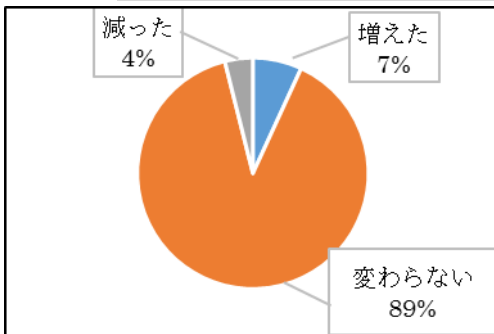
母子保健推進員、主任児童委員、町職員 回答数248

地域福祉アンケート：民生委員、区長等 回答数222

小地域単位での福祉コミュニティづくりの推進のための4つの柱に関するアンケート結果

1 地域の相談機能・支え合いの強化

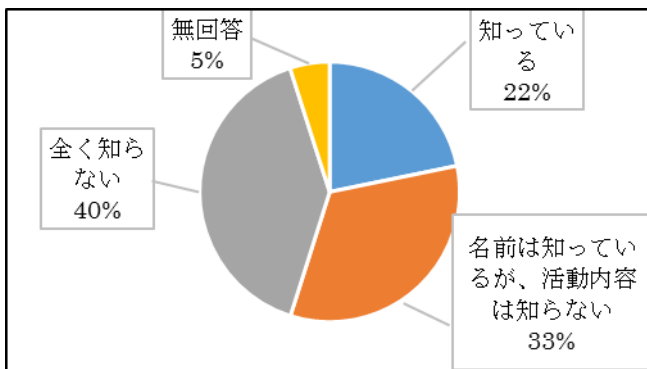
地域福祉「ここ4～5年、あなたの地域の中で相談できる場は増えましたか？」



相談できる場が増えていない硬直化が見られる結果となりました。地域の相談機能・支え合いの強化のため、相談窓口の充実とその周知が求められています。

2 拠点型つどいの充実

子育て関係、地域福祉合算「あなたはあったかふれあいセンター事業を知っていますか？」

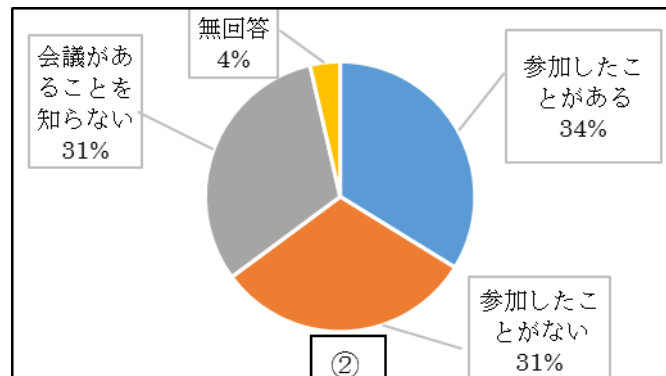
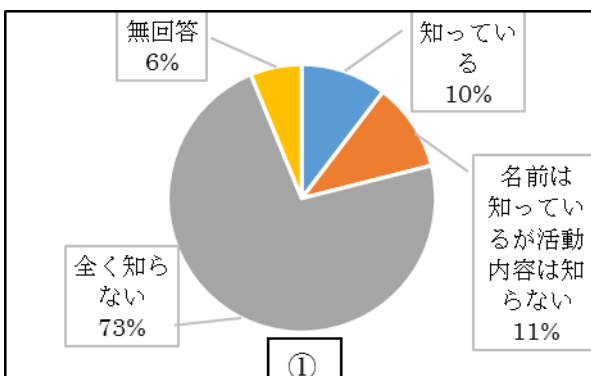


拠点型つどいのモデルとなる、あったかふれあいセンターについては、「知っている」が22%となっており、活動内容の周知を進めていくことが求められています。また、自由記述による回答で、「いの町広報に載せるだけでは読み飛ばしてしまう」、「地域住民の方々へのPRや参加者の感想をメール等で周知するような案内があるといい」、といった意見がありました。

3 みんなで進める小地域福祉

子育て関係「あなたは地域出番会議を知っていますか？」 グラフ①

地域福祉「あなたは地域出番会議に参加したことがありますか？」 グラフ②



地域福祉「あなたは、地域出番会議をどのように充実させていきたいですか？」（自由記述）

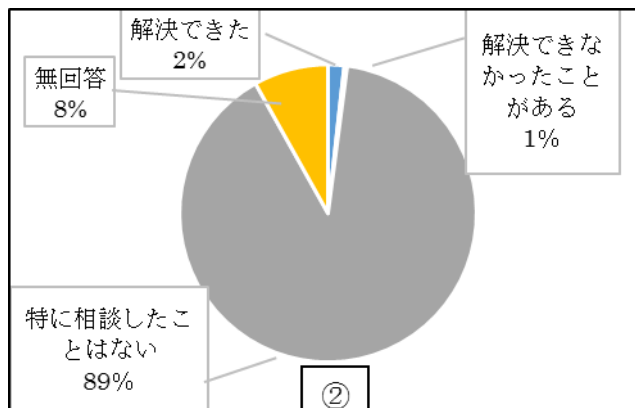
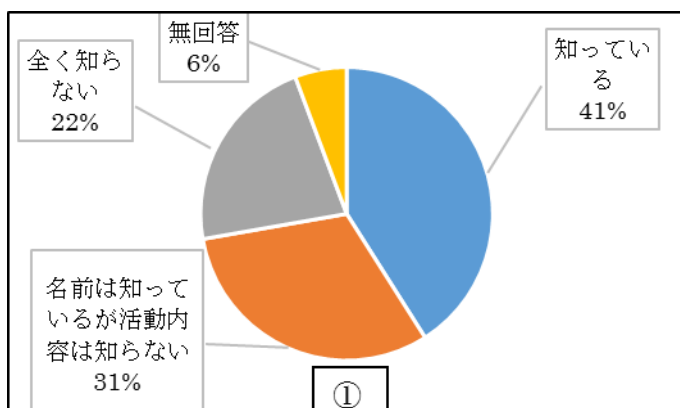
- ・私の地区では参加者が少なく意見をまとめることができなかった。
- ・地域出番会議の母体組織を作り、自立して活動ができるようにしたい。
- ・一地区が一年で終了するので成果がでない、もっと継続が必要。

地域出番会議を開催し、地域支え合いプランの作成に取り組んできたものの、十分ではない現状となっています。住民座談会も含め、今後も継続した取り組みが求められています。

4 小地域福祉推進のコーディネート機能の充実

子育て関係「あなたは社会福祉協議会を知っていますか？」 グラフ①

〃 「あなたやご家族は、社会福祉協議会に相談した時、解決できましたか？」 グラフ②



社会福祉協議会では、様々な事業を行っていますが、その活動の認知度が低い地域や、社会福祉協議会との関わりが少ないのではないか、ということがわかりました。小地域福祉推進のコーディネートのため、社会福祉協議会の役割も含めた一層の広報活動や、地域に積極的に向かい合った関係構築が求められています。

その他の主な項目

<子育て支援>

「あなたは、どのような子育て支援があれば利用したいと思いますか？」複数回答 うち主なもの

回答：夏休み期間中の子どもの居場所づくり 21.2%、子どもの遊び場の充実 20.2%、病児・病後児保育 13.3%、一時的な子どもの預かりサービス 11.0%

<災害対策>

「地域で行われる避難訓練や防災訓練に参加したことがありますか？」複数回答

回答：参加したことがある 39.1%、参加したことがない 50.7%、訓練が行われていることを知らない 10.1%

<地域で取り組むべき課題>

「あなたのお住まいの地域では、地域として取り組むべき課題として、どのようなものがあると思いますか？」複数回答 うち主なもの

回答：地域の防犯・治安・交通安全の向上 22.8%、災害が発生した際の安否確認や避難誘導 22.1%、地域コミュニティづくり 10.6%、人口減対策 10.0%

◆資料7 用語解説

	用語・頁数	解説
【あ】	あい愛ネットワーク 29. 47. 48. 62	子どもたちを健全に育てるため、高齢者から子どもたちまでが地域でつながっていけるような活動を天王地区を中心に行なっている団体。
	アイマスク 83. 87. 91	目を覆い、光を遮るために用いるもので福祉教育では目の不自由な方の体験として使う。
	あったかふれあいセンター 5. 6. 15. 16. 17. 63. 67. 68. 71. 75. 76. 79. 83. 87. 91. 93	子どもから高齢者まで年齢や障害の有無にかかわらず、誰もが集える場で、町が整備し地域ニーズの把握や課題に対応するための支援拠点。
	あったかまなび家 16. 19. 54. 39. 43. 47. 51. 55. 59. 63. 67. 71. 75. 79. 83. 87. 91	あったかふれあいセンターが主催する、生活支援ボランティア講座。
	いの町健康まつり 20	「健康増進計画・食育推進計画」沿って、自分や家族の健康や生活習慣について関心をもち、健康意識を高めていただくために開催する健康増進啓発イベント。
	いのみなみタウンポリス 63	（町内の）天王、八田、池ノ内地区を活動地域として、地域内で発生する犯罪、事故等の抑止及び安全で安心なまちづくり推進のため、悪質商法防止等の防犯に関する注意文書の作成配布や青色回転灯装備車両と徒歩による巡回の防犯活動を行っている、平成15（2003）年10月19日に設立された団体。
	NPO法人 24. 26	特定非営利活動促進法に基づいて、民間で公益に資するサービスを提供する営利を目的としない団体。
【か】	介護保険制度 10	介護保険法に基づき、介護保険料を支払い、その保険料を財源として要介護者たちに介護サービスを提供する制度。
	介護保険事業計画 2. 3	介護保険法に基づき、介護保険の保険給付を円滑に実施するために町が策定する計画。
	介護療養型医療施設 36. 56	介護保険法に基づき、急性期の治療は終わったものの医学的管理のもとで長期療養が必要な人のための医療機関で、医療、看護、介護、リハビリテーションなどが受けられる施設サービス。
	介護老人保健施設 36	介護保険法に基づき、病状が安定している人に対し、医学的管理のもとで看護、介護、リハビリテーションを行う施設サービス。

	過疎地有償運送事業	92	本川地区住民の移動手段確保のため、一般の人が四国運輸局の許可を受け白ナンバーのまま、自家用車で有償運送できる制度。
	グラウンドゴルフ	33. 82. 83. 86. 87. 90	ゴルフのような球技で、専用のクラブとボールを用い、ホールポストと呼ばれるカゴのようなポストに少ない打数で入れることを競うスポーツ。
	元気“イキイキ”ボランティア講座	5. 19. 20. 29. 34. 39. 43. 47. 51. 55. 59. 63. 67. 71. 75. 79. 83. 87. 91	町が主催する、身近な地域の担い手づくりのためのボランティア講座。
	健康増進計画	2. 3	健康増進法に基づき、行政、家庭や地域、学校、職域等が連携して町民の健康づくりを支援するため健康づくり対策の理念や取り組み、指標を定めた町が策定する計画。
	高齢化率	7. 9. 89. 90	(町の) 65 歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合。
	高齢者疑似体験	19. 83. 87. 91	心身の変化を疑似的に体験することにより高齢者を理解し、社会環境づくりやコミュニケーションに役立てること。
	高齢者福祉計画	2. 3	老人福祉法に基づき、高齢者が住み慣れた地域で生き生きと暮らせるまちを目指して町が策定する計画。
	コーディネート機能	5. 6. 15. 21. 94	ずっと住みたいと思えるまちづくりをめざすため、地域の様々な人材、情報、資源などを結びつけて地域の活動展開に活かしていく機能。
【さ】	災害時要配慮者避難支援計画	2. 6	風水害や地震等の災害に備え、要配慮者の避難支援を迅速かつ的確に行うため、平常時から要配慮者に関する情報の把握、防災情報の伝達手段・伝達体制の整備及び避難誘導等の支援体制を確立することを目的とした計画。
	サテライト	5. 6. 16. 68. 72. 76	あったかふれあいセンターの事業を、実施されていない地区へ出向いて行うこと。
	サロン	16. 17. 20. 33. 43. 46. 64. 80. 82. 84. 86. 88. 90. 92	地域の中で、人と人が集う場。

自主防災組織	
6. 18. 21. 29. 33. 35. 39. 42. 43. 47. 51. 54. 55. 58. 59. 63. 67. 70. 71. 74. 75. 79. 83. 87	主に町内会・自治会が母体となって、地域住民が自主的に連携して防災活動を行う任意団体。
社会的弱者	
17	大多数の他者との比較において、著しく不利な、あるいは不利益な境遇に立たされる者のこと。
社会福祉法	
2. 25. 28	社会福祉を目的とする事業の全分野における共通的基本事項を定め、社会福祉を目的とする他の法律と相まって、福祉サービスの利用者の利益の保護及び地域における社会福祉の推進を図るとともに、社会福祉事業の公明かつ適正な実施の確保及び社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図り、もって社会福祉の増進に資することを目的とした法律。
社会資源	
1	生活の諸要求や問題解決の目的に活用される各種の施設、制度、機関、知識や技術などの物的、人的資源の総称。
社会的共同生活	
7	地域や集落の様々な行事や農作業、そして、日常の生活のなかでの支え合いのこと。
住民基本台帳	
7. 9. 32. 37. 41. 45. 49. 53. 57. 61. 65. 69. 73. 77. 81. 85. 89	住民の住所の証明、選挙人名簿の登録など、日本に住む住民に関する行政事務の処理の基礎となる制度で、町が住民票を世帯ごとに編成して作成しているもの。
住民座談会	
15. 21. 24. 25. 26. 94	地域の住民が意見を出し合って、自分たちの地域を変えていくための会。
就労継続支援	
33. 36	障害者総合支援法に基づく、一般企業等での就労が困難な人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力向上のために必要な訓練を行うサービス。
集落活動センター	
74. 91. 91. 92	地域住民が主体となり、地域外から人材も受け入れながら、旧小学校や集会所などを拠点に、それぞれの地域の課題やニーズに応じて、生活、福祉、産業、防災といった様々な活動を総合的に行う場所。
集落支援員	
90	地方自治体からの委嘱を受け、市町村職員とも連携しながら、集落への「目配り」として、集落の巡回、状況把握等を行う。

主任児童委員	地域における児童・子育て支援をさらに推進するため、区域を担当せず児童福祉に関する事項を専門的に担当し、児童福祉関係機関や区域を担当する児童委員と協同し、相談支援等を行う人。
29. 93	
障害者計画	障害者基本法に基づき、障害のある人のための施策に関する基本的な事項を定めた町が策定する計画。
2. 3. 28	
障害福祉計画	障害者総合支援法に基づき、障害福祉サービス・相談支援等の種類ごとの3年毎に策定。必要なサービス量の見込みなどを盛り込んだ町が策定する計画。
2. 3. 28	
小規模多機能型居宅介護事業所	利用者の選択に応じて、施設への「通い」を中心として、短期間の「宿泊」や利用者の自宅への「訪問」を組み合わせ、家庭的な環境と地域住民との交流の下で日常生活上の支援や機能訓練を行う。
36. 64. 74. 76	
小地域単位	社協支会単位を取り入れ、伊野地区を8、吾北地区を4、本川地区を3に分けた計15小地域エリアのこと。
13. 15. 93	
食育推進計画	食育基本法に基づき、健康と食を密接にとらえて、町民一人ひとりが健康づくりと食育を重ね合わせながら、主体性をもって取り組むことができることを目指して町が策定する計画。
2. 3	
シルバーハウス	町内に住む65歳以上の虚弱な高齢者で、条件を満たした場合に入居できる町が管理運営する施設。
92	
振興計画	時代に即応した新たな仕組みを構築し、中長期的な視野に立った町政運営の基本方針を示すとともに、住民と行政がそれぞれの役割と責任のもとに協働して進める新しいまちづくりのための指針となる町が策定する計画。
2. 3. 12	
生活支援コーディネーター	高齢者の生活支援・介護予防の基盤整備を推進していくことを目的とし、地域において、生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネート機能を果たす者。
17	
生活支援ハウス	独立して生活には不安があり、家族による援助を受けることが困難な高齢者を受け入れる施設。「高齢者生活福祉センター」とも呼ばれる。
84. 88. 92	
生活福祉資金貸付事業	低所得世帯等に対し、低利または無利子での貸付と必要な援助を行うことで、その経済的自立と生活意欲の助長促進並びに在宅福祉や社会参加を図り、安定した生活を確保することを目的とした町社協が行っている事業。
18	

	精神障害者保健福祉手帳	10	一定の精神障害の状態にある人に、県が交付する手帳。障害の等級が記され、提示することで各種福祉サービスが受けられる。
	相談機能		どうしたらよいかなどを住民と話し合ったり、どうしたらよいかなどの意見を住民から聞いたりしながら地域の課題を解決していくための仕組み。
	5. 6. 15. 16. 17. 44. 82. 84. 86. 88. 90. 91. 92. 93		
【た】	第1種住居地域	49	都市計画法による用途地域の1つで、住居の環境を保護するための地域。
	ダイジェスト		計画の内容をわかり易くまとめたもの。
	24. 31		
	男女共同参画プラン	2	男女が互いに人権を尊重しあい、性別にかかわらず一人ひとりが家庭・学校・職場・地域等で、個性や能力を十分に発揮することができる社会を目指して町が策定したプラン。
	地域協力隊	90. 91	人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的としている。
	地域支え合いプラン	5. 6. 94	小地域エリア別の地域住民が主体となって作成する、地域で取り組んでいくことをまとめたもの。
	地域出番会議	4. 5. 6. 50. 56. 62. 68. 72. 76. 80. 93. 94	第1期地域福祉計画で実施した地域の住民が意見を出し合って、自分たちの地域を変えていくための会。
	地域ニーズ	16	地域に住む住民が必要としていること。
	地域福祉推進連絡会	25. 26	第2期計画の「いの町地域福祉計画策定委員会」のメンバーを中心に計画の進捗確認と評価を行い計画の推進をしていく組織。
	地域防災計画	2	災害対策基本法に基づき、町が防災会議に諮り防災のために処理すべき業務などを具体的に定めた計画。

	地域包括支援センター	保健師、主任ケアマネジャー、社会福祉士が置かれ、専門性を生かして相互連携しながら業務を行い、介護保険法で定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う町の機関。
	17. 35	
	町デマンド式乗合タクシー	
	57	
	助けあいたい伊野「結」	
【な】	16	会員制の有償ボランティアサービス。助ける人も、助けられる人も、会員としての対等な立場で支援を行う。
	通所リハビリテーション	介護保険法に基づく、老人保健施設や医療機関などで、入浴などの日常生活上の支援や、生活行為向上のためのリハビリテーションを日帰りとする、施設に通って利用するサービス。
	36	
	なんでも相談事業	
	18. 84. 88	
	認知症対応型共同生活介護	
【は】	36. 56. 60. 64. 76	介護保険法に基づく、共同生活をする住宅で、スタッフの介護を受けながら、食事、入浴などの介護支援、機能訓練を受けられる、認知症高齢者を対象としたサービス。
	ネットワーク	網の目のように作った組織、つながりのこと。
	17	
	バーチャル本川村	
	90. 91	
	避難行動要支援者	
	18	要配慮者のうち、災害が発生した場合に自ら避難することが困難なものであって、生活の基盤が自宅にあり、円滑かつ迅速な避難の確保を図るために特に支援を必要とする方のこと。
	福祉教育推進校	ボランティア活動の実践と、社会福祉への理解と関心を高め、福祉の心を育てるため、町社協が指定した学校。
	34. 39. 43. 55. 63. 75	
	福祉コミュニティ	
	13. 15. 24. 93	

	福祉サービス	町や社会福祉法人が主体となって行うサービス、市場をベースとして供給されるサービス、NPO 法人やボランティアなど地域の力や特性によって着目して提供されるサービスなど、多様な形でさまざまな提供主体によって提供されているもの。
	16. 18	
	法人成年後見事業	親族や専門職など、他に適切な支援が得られない場合、社協が法人として「成年後見人」を引き受ける事業。
	18	
	訪問看護	介護保険法に基づく、疾患等を抱えている人について、看護師が居宅を訪問して、療養上の世話や診療の補助をするサービス。
	36. 88	
	母子保健推進員	安心して妊娠・出産・育児ができるよう、地域に密着した母子保健事業に積極的に協力しながら、家庭と地域をつなぐ活動をされている人。
	4. 34. 39. 43. 47. 51. 55. 58. 62. 93	
【ま】	ボランティアセンター	ボランティア情報の収集と発信、ボランティアコーディネート業務、広報誌の発行、ボランティアに関する教育・研修の場、ボランティアの情報交換の場として機能するもの。
	19	
	マンパワー	人的資源や労働力。
	12. 55. 84. 87. 88. 90. 91. 92	
	民生委員・児童委員	厚生労働大臣から委嘱され、それぞれの地域において、常に住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行い、社会福祉の増進に努める「民間の奉仕者」で、民生委員は「児童委員」も兼ねている。
	4. 6. 18. 19. 24. 26. 29. 35. 36. 40. 42. 43. 44. 48. 52. 54. 56. 59. 60. 63. 67. 68. 71. 72. 75. 76. 79. 80. 84. 88. 92. 93	
	ミニデイサービス	地域住民が主体となった団体が実施する事業と、町社協が年3回、伊野地区のひとり暮らし高齢者を対象に実施する事業があり、地域によって食事やレクリエーションの内容が異なる。
	20. 23. 29. 33. 38. 42. 43. 46. 48. 50. 54. 56. 58. 62. 63. 64. 66. 68. 70. 72. 78. 82	
【や】	要配慮者	必要な情報を迅速かつ的確に把握し、災害から自らを守るために安全な場所に避難するなどの災害時の一連の行動をとるのに支援を要する人々。
	6. 87	
	要介護認定者	介護保険制度において、被保険者が介護を要する状態であることを保険者である町が認定した人で、介護保険のサービスによって、生活機能の維持・改善を図ることが適切な人等。
	10	
	要支援（認定者）	介護保険制度において、被保険者が介護を要する状態であることを保険者である町が認定した人で、要介護状態が軽く生活機能が改善する可能性の高い人等。
	10	

【ら】	療育手帳	知的障害のある人に、県が交付する手帳。障害の等級が記され、提示することで各種福祉サービスが受けられる。
	10	
	るんるん若ガエル体操	介護予防の一つとして、町が広めているもので、椅子に座り音楽に合わせてできる 1 時間程度の体操。
	20. 33. 38. 42. 46. 50. 58. 62. 63. 66. 86	
【わ】	ワーキングチーム	いの町地域福祉計画（町が策定）と、いの町地域福祉活動計画（町社協が策定）を総合的かつ一体的に推進することを目的として、平成 24 年 5 月に設置された町と町社協の関係職員。
	4. 31	

